コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名:H27-B-1

○:記載有り　なし:該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同共であるため記載していないもの　－:該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正せべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード															
			記事			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)												破砕帯									
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか? ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか? ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・復数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒径構成、硬の種類及び形態、含有物(有機質、異物など)を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必須に応じて、硬度、淘汰度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・葉理、葉理、級化など	掘進作業における特記事項 ・コア欠如、コア損乱など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は、岩石の種類・性、岩盤の含有率などを記載	色調 ・復数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理単の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や表在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の粗度、割れ目面のすべり(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	風化 ・岩種	破砕度区分 ・記号(Ha,Hb,Hc) ・区分毎の区間深度	破砕度区分ボ ・境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・縞状構造、褶を曲構造、高等構造、節目状粘土など	最新活動面(認定した場合)	区間の状況	掘進作業における特記事項 ・コア欠如、コア損乱など	記事を削除・変更・追記した理由
219	73.35	73.38	厚さ25～40m/mで締った砂状化を呈する。岩組織は残留している。	73.35	73.38	厚さ25～40m/mで締った砂状化を呈する。変質している。岩組織は残留している。									-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・変質の状況を追記した
220	73.65	73.76	30°上60°の割れ目が交差しゅ10～5m/mの岩片状コアを呈する。	-	-	-									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
221	74.10	74.36	CM	-	-	-									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
222	74.10	74.36	(岩級区分欄)CM	74.10	74.36	(岩級区分欄)CL									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
223	74.36	74.50	破砕帯(主せん断面74.40m)	74.36	74.50	破砕部(最新活動面74.40m) 連続する細粒部									-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一 ・最新活動面の性状を追記した
224	74.36	74.40	Hb 上端27°で直線的に、下端30°で不明瞭に湾曲して連続。φ2～3m/m石英粒、粘土化したφ5m/m岩片を約10%含む軟質な「硬質砂状」を呈する。色調はにぶい黄橙色(10YR7/2)、厚さ0～30m/m	74.36	74.40	Hb 上端27°で直線的に、下端30°で不明瞭に湾曲して連続。φ2～3m/m石英粒、粘土化したφ5m/m岩片を約10%含む軟質な「硬質砂状」を呈する。色調はにぶい黄橙色(10YR7/2)、厚さ0～30m/m 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織はみられない。含まれる細粒部は網目状に分布。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・砂分を多く含むため、硬質砂状に変更した ・細粒部の連続性・底解性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した塊片からなる組織について追記した	
225	74.40	74.41	Hc-1 30°で上下端とも湾曲して連続。φ1m/m石英粒をわずかに(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR5/2)厚さ7m/m	74.40	74.41	Hc-1 30°で上下端とも湾曲して連続。φ1m/m石英粒をわずかに(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR5/2)厚さ7m/m 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織はみられない。									-	-	-	○	○	○	○	-	-	○	-	-	-	・表現の統一(ガウジ→Hc-1に含んで表現) ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	
226	74.41	74.50	Hb 上端30°で湾曲して連続。下端は74.5m以深が掘削時にバラけたコアのため位置不明。 φ2～3m/m石英粒、粘土化したφ5～30m/m岩片を10～20%含む軟質な「硬質砂状」を呈する。色調はにぶい黄橙色(10YR7/2)、厚さ75m/m以上	74.41	74.50	Hb 上端30°で湾曲して連続。下端は74.50m以深が掘削時にバラけたコアのため位置不明。 φ2～3m/m石英粒、粘土化したφ5～30m/m岩片を10～20%含む軟質な「硬質砂状」を呈する。色調はにぶい黄橙色(10YR7/2)、厚さ75m/m以上 含まれる細粒部は網目状に分布、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した塊片からなる組織は不明瞭									-	-	-						○			-	○	・砂分を多く含むため、硬質砂状に変更した ・細粒部の連続性・底解性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した塊片からなる組織について追記した	
227	74.50	75.57	D	-	-	-									-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
228	74.50	75.00	棒状コアで採取され、割れ目状況など不明	74.50	75.00	コアチューブ引き上げ部周辺で棒状コアで採取され、割れ目状況など不明。									-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	
229	75.00	75.57	岩組織は残留しているが、多くの割れ目は消滅している。	-	-	-									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
230	75.57	76.00	破砕帯(主せん断面75.7m)	75.57	76.00	破砕部(最新活動面75.73m) 長く直線的な細粒部の下端									-	-	-						○		-	-	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一 ・最新活動面の性状を追記した
231	75.57	75.71	Hj 上端は不明瞭ながら25°で、下端68°で波打って連続。φ5～20m/m岩片からなり、岩片間は粘土化～砂状化するが粘土混じり岩片状を呈する。 色調は灰黄褐色(10YR6/2)、厚さ90～120m/m	75.57	75.71	Hj 上端は不明瞭ながら25°で、下端68°で波打って連続。φ5～20m/m岩片からなり、岩片間は粘土化～砂状化するが粘土混じり岩片状を呈する。 色調は灰黄褐色(10YR6/2)、厚さ90～120m/m 軟質、含まれる細粒部は局所的に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。									-	-	-								-	-	・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	
232	75.71	75.73	Hc-2 68°で上端は波打って、下端は直線的に連続。φ1～3m/m石英粒とφ2m/m岩片を5～10%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰褐色(5YR6/2)、厚さ10～12m/m	75.71	75.73	Hc-2 68°で上端は波打って、下端は直線的に連続。φ1～3m/m石英粒とφ2m/m岩片を5～10%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰褐色(5YR6/2)、厚さ10～12m/m 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられない。									-	-	-						-		-	-	・表現の統一(ガウジ→Hc-2に含んで表現) ・硬を含むため硬混じり粘土状に変更した ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	
233	75.73	75.93	Hb 上端68°で直線的、下端64°で波打って連続。φ2～4m/m石英粒、φ5～10m/m岩片を10～15%含む半固結状の硬質な「硬質粘土状」を呈する。石英粒は主せん断面方向に配列している。 色調は明褐灰(5YR7/2)～灰褐色(5YR5/2)、厚さ55m/m	75.73	75.93	Hb 上端68°で直線的、下端64°で波打って連続。φ2～4m/m石英粒、φ5～10m/m岩片を10～15%含む半固結状の硬質な「硬質粘土状」を呈する。石英粒は主せん断面方向に配列している。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。 色調は明褐灰(5YR7/2)～灰褐色(5YR5/2)、厚さ55m/m									-	-	-						-		-	-	・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・用語の統一(半固結状→硬質) ・主せん断面を直線的な せん断面に変更した	
234	75.93	76.00	Hj 上端は64°で波打って、下端は不明瞭(30°?)に連続。 φ5～10m/m岩片と岩片間の粘土からなり「粘土混じり～粘土質岩片状」を呈する。色調は明褐灰色(7.5YR7/2)、厚さ60m/m以上。	75.93	76.00	Hj 上端は64°で波打って、下端は不明瞭(30°?)に連続。 φ5～10m/m岩片と岩片間の粘土からなり「粘土混じり～粘土質岩片状」を呈する。色調は明褐灰色(7.5YR7/2)、厚さ60m/m以上。 やや軟質、含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。									-	-	-						○		-	-	・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	
235	76.00	76.91	D 硬さ「C」のφ5～20m/m岩片と締った砂状からなり、全体的には締った砂礫状を呈する。	-	-	-									-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
236	76.54	76.70	硬さ「C」の岩片部	-	-	-									-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
237	-	-	-	76.54	76.70	(コアの硬さ欄)Cランク (コアの形状欄)Vランク (割れ目状態欄)cランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・記事欄の硬さの記載に合わせて追記した ・併せてコアの形状欄Vランク、割れ目状態欄cランク、風化欄にγランク、変質欄に2ランクを追記した
238	-	-	-	76.70	76.91	(割れ目状態欄)cランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目が認識できるため、割れ目状態欄にcランクとして追記した
239	76.70	76.91	岩片はわずかになり、代って幅1～2m/m軟質白色粘土層が多くなる。	-	-	-									-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
240	76.91	77.19	CL 割れ目ぞいに砂状化するものもある。	-	-	-									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
241	76.91	77.19	(岩級区分欄)CL	76.91	77.19	(岩級区分欄)D									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
242	-	-	-	77.10	77.10	傾斜75°幅1mmの石英脈を半ラ									-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲と異なる特徴を追記した
243	77.19	78.00	D 著しく軟化するが、岩組織と割れ目の一部は残留する。 77.83～77.80間はロッド引上げ時にコアが乱れ、硬状を呈している。	-	-	-									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	
244	78.00	78.43	CL 60～80°割れ目主体、これに斜～直交する30°も混える 割れ目の一部は厚さ2～3m/mの砂をはさむ	-	-	-									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
245	78.00	78.43	(岩級区分欄)CL	78.00	78.43	(岩級区分欄)D									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
246	78.43	78.72	D 風化・砂状化が拡大し、緩った砂礫状を呈する。	-	-	-									-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H27-B-1）

孔名：H27-B-1

C：記載有り　　なし：該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　　－：該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード															
	記事																		破砕帯								
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	記事（変更箇所を朱書きで表示）（変更していないものは「－」で表示） 追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	岩質名 ・単層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	主要の特徴 ・粒度構成、硬の連続及び形態、含有物（有害質、異物など）を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬度、掘進度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・厚理、葉理、級化など	掘進作業における特記事項 ・コア欠損、コア擾乱など	岩質名 ・層理及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、斑晶の種類・種、斑晶の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や検在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり（スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物脈 ・石英脈、連石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・脈種類 ・脈種	破砕度区分 ・記載（b_1/b_2/b_3） ・区分条の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅（実測できる場合）	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる礫片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・筋状構造、複き断構造、葉理構造、葉理構造、網目状粘土など	最新活動面（記述した場合）	変質の状況	掘進作業における特記事項 ・コア欠損、コア擾乱など	記事を削除・変更・追記した理由
247	78.60	78.80	周辺はマンガン鉱染受ける。	－	－	－									－	なし	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
248	78.72	78.87	破砕帯（主せん断面78.87m）	78.72	78.87	破砕部（主せん断面78.87m） 最新活動面は78.82mか78.87mの可能性がある									－	－	－	○					○		－	－	・用語の統一（破砕帯→破砕部） ・最新活動面という用語に統一 ・最新活動面は肉眼で判断できないため削除した
249	78.72	78.87	Hj 上端は31°、幅5m/m褐色粘土脈で波打って、下端は直線的に連続。φ5m/m程度の岩片からなり、岩片間の一部に幅1m/mの軟質白色粘土が挟在～斑点状に分布。全体として「粘土混じり岩片状」を呈する。 色調はにぶい黄橙色（10YR7/2）、厚さ30～140m/m	78.72	78.87	Hj 上端は31°、幅5m/m褐色粘土脈で波打って、下端は80°で直線的に連続。φ5m/m程度の岩片からなり、岩片間の一部に幅1m/mの軟質白色粘土が挟在～斑点状に分布。全体として「粘土混じり岩片状」を呈する。 色調はにぶい黄橙色（10YR7/2）、厚さ130～140m/m やや硬質。含まれる細粒部が網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる									－	－	－	○					○		－	－	・下端の傾斜を追記した ・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した
250	78.87	78.87	Hc-1 80°で上下端とも直線的に連続。φ1m/m石英粒をわずかに（5%以下）含む軟弱粘土（ガウジ）、色調は灰褐色（7.5YR4/2）、厚さ1～2m/m	78.87	78.87	Hc-1 80°で上下端とも直線的に連続。φ1m/m石英粒をわずかに（5%以下）含む軟弱粘土（ガウジ）、色調は灰褐色（7.5YR4/2）、厚さ1～2m/m 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられない。									－	－	－								－		－	－	・表現の統一（ガウジ→Hc-1に含めて表現） ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した
251	78.87	82.51	CL	－	－	－									－	なし	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
252	78.87	79.27	硬さ「D」主体。長石の白濁化が多い。	78.87	79.27	硬さ「D」主体。長石の白濁化が多い。 傾斜85～90°の割れ目が分布する。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・高角度割れ目の分布は周囲と異なる状況であるため追記した
253	79.02	79.02	55°厚さ3m/m褐色砂～φ2m/m細片と岩片はさむ	－	－	－									－	なし	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
254	79.27	80.66	硬さ「C」主体 上端側の79.27～79.59mは硬さ「B」を呈硬	－	－	－									－	なし	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
255	－	－	－	79.27	79.59	（コアの硬さ欄）Bランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・記事欄の硬さの記載に合わせて追記した
256	－	－	－	79.54	79.54	傾斜50°幅0.5～1mmの灰白色粘土挟む。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・周囲と異なる割れ目の特徴を追記した
257	79.69	79.95	褐色化するが珪化のため硬さ「C」と硬質	－	－	－									－	なし	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
258	79.95	80.23	45°前後の割れ目が多い。 これらの割れ目には褐色粘土やマンガンを厚さ0.5～3m/m ではさんでいる。	－	－	－									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
259	80.30	80.40	割れ目ぞいに砂状化が進む。	－	－	－									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
260	80.30	80.35	コアチューブ引き上げ時に発生した角柱状コア	－	－	－									－	なし	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	
261	80.69	81.87	硬さ「D」中に硬さ「a_1」のφ2～3cm岩片が断片的に分布80°前後の高角度割れ目が多い。	－	－	－									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
262	81.17	81.17	55°割れ目に厚さ10～15m/m で砂と褐色粘土はさむ。挟在物中と割れ目周辺にφ0.5 m/m 以下の微細な黄鉄鉱伴う。	81.17	81.17	15°割れ目に厚さ10～15m/m で砂と褐色粘土はさむ。挟在物中と割れ目周辺にφ0.5 m/m 以下の微細な黄鉄鉱伴う。 周辺は幅1cm程度緑色化している。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・鉱物の色や形から白雲母と判断し変更した ・周囲と異なる特徴を追記した
263	81.82	81.87	風化で締った砂礫状呈する。	81.82	81.87	コア引き上げ部で締った砂礫状呈する。									－	なし	－	－	－	－	－	－	－	－	－	C	・砂礫状の成因を変更した
264	81.87	82.51	割れ目ぞいに砂状化する部分も含まれる。	81.87	82.51	割れ目ぞいに砂状化する部分も含まれる。 10～30°と50～70°程度の割れ目がみられる。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・2系統の割れ目が分布することは周囲と異なる状況であるため追記した
265	82.51	82.62	D 風化で砂状化する。φ0.5～1cmのCp岩片が礫状に分布する	－	－	－									－	なし	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
266	82.51	82.62	（岩級区分欄）D	82.51	82.62	（岩級区分欄）CL									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
267	82.62	82.94	CL 割れ目沿いに砂状化進む。一部で幅1～2m/m白色粘土脈はさむ	－	－	－									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
268	82.94	84.09	CM 中着割れ目や密着度の低い割れ目を多く含んでいる 割れ目の挟雑物は少ない。	82.94	84.09	CM 中着割れ目や密着度の低い割れ目を多く含んでいる 割れ目の挟在物は少ない。 30～50°と70～80°の割れ目が3～10cm間隔で分布する。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・誤記の修正（挟雑物⇒挟在物） ・2系統の割れ目が分布することは周囲と異なる状況であるため追記した
269	83.33	83.47	長石の一部が白濁化する。	－	－	－									－	なし	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
270	84.07	84.09	上端45°下端65°割れ目で囲まれ、砂状化～細片状化する。 厚さ1～10m/mで厚さ3m/mレンズ状力淡黄色軟質粘土とマンガン鉱染伴う。	－	－	－									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
271	84.09	84.92	CH 60～80°の高角度の「中着割れ目」を伴うが、密着度は高くハンマーの打撃でも分離しない。	－	－	－									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
272	84.50	84.50	36°割れ目の一部に厚さ2～3m/mのマンガンを伴う。	－	－	－									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
273	84.82	84.92	割れ目交差部で一部片状コア、岩片自身は堅硬で劣化や挟在物は伴なわない。	84.82	84.92	割れ目交差部で一部片状コア、岩片自身は堅硬で劣化や挟在物は伴なわない。 コア引き上げ部									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・片状コアの成因を追記した
274	84.92	85.38	CL 下位破砕帯の主せん断面と同方向の50～80°割れ目や中着割れ目が多い。	84.92	85.38	CL 下位破砕部の直線的なせん断面と同方向の50～80°割れ目や中着割れ目が多い。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・用語の統一（破砕帯⇒破砕部） ・主せん断面を直線的なせん断面に変更した
275	85.01	85.01	幅1m/m以下22°石英脈が50°割れ目と斜交して連続。	－	－	－									－	○	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
276	85.38	85.41	（岩級区分欄）D	85.38	85.41	（岩級区分欄）CL									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H27-B-1）

孔名：H27-B-1

C：記載有り　　なし：該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　　－：該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード																記事を削除・変更・追記した理由
	上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか？	上端深度	下端深度	記事 （変更箇所を朱書きで表示） （変更していないものは「－」で表示） 追加変更した情報が正しく転記されているか？	岩質 ・薄層や細かい互層など記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形態、含有物（有機質、異物など）を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必須に応じて、硬度、海浪度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	掘進作業における特記事項 ・コア欠如、コア擾乱など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は、斑晶の種類・住、斑晶の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の割れ目 ・問題節の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や快在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ面の色調、割れ目面のすべり(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・鉱物脈 ・鉱種	破砕帯 破砕度区分 ・記号(Ka,Hb,hji) ・区分者の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 （実測できる場合）	破砕部 ・色調 ・破砕前内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・局状構造、螺旋構造、葉理構造、無目状粘土など	最新活動面（認定した場合）	変質の状況	掘進作業における特記事項 ・コア欠如、コア擾乱など	
277	85.38	85.41	破砕帯（主せん断面85.4ｍ）	85.38	85.41	破砕部（最新活動面85.41m） 直線的な細粒部																						・用目の統一（破砕帯→破砕部） ・最新活動面という用語に統一 ・最新活動面の性状を追記した
278	85.38	85.41	Hj 上端45～50°で1ヶ所屈曲するが、これ以外は直線的に、下端は47°で直線的に連続。φ2～3m/m石英粒とφ3～5m/m粘土化岩片と基質の砂状～粘土状部からなる軟質な「粘土・砂質」岩片状に変する。 色調はにぶい黄橙色（10YR7/2）、厚さ0～25m/m上端の割れ目ぞいにマンガン鉱染受け黄褐色化する。	85.38	85.41	Hj 上端45～50°で1ヶ所屈曲するが、これ以外は直線的に、下端は47°で直線的に連続。φ2～3m/m石英粒とφ3～5m/m粘土化岩片と基質の砂状～粘土状部からなる軟質な「粘土・砂質」岩片状に変する。 色調はにぶい黄橙色（10YR7/2）、厚さ20～25m/m上端の割れ目ぞいにマンガン鉱染受け黄褐色化する。 含まれる細粒部は網目状に分布、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織はみられない											○	○	○	○		○		-	-	・砂分の含有量はわずかなので、粘土混じり岩片状に変更した ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した
279	85.41	85.41	Hc-1 47°で上下端とも直線的に連続、φ1m/m石英粒をごくわずか（5%以下）含む軟質な粘土（ガウジ）。色調は灰黄褐色（10YR5/2）厚さ2m/m	85.41	85.41	Hc-1 47°で上下端とも直線的に連続、φ1m/m石英粒をごくわずか（5%以下）含む軟質な粘土からなる（ガウジ）。色調は灰黄褐色（10YR5/2）厚さ2m/m 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織はみられない																		-	-	・表現の統一（ガウジ→Hc-1に含んで表現） ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した
280	85.41	85.92	CL 上位の破砕帯のません断面と同方向の40～60°割れ目主体、砂や粘土をはさむ。	85.41	85.92	CL 上位の破砕部の直線的なせん断面と同方向の40～60°割れ目主体、砂や粘土をはさむ。 所々割れ目沿いに幅1～2cm程度緑色化を呈する。										○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲と異なる特徴を追記した ・用目の統一（破砕帯→破砕部） ・主せん断面を直線的なせん断面に変更した
281	85.92	86.43	D 割れ目ぞいに砂状化が拡大。φ10～20m/m硬さ「C」岩片を多量に混えた砂状状を呈する。	－	－	－										○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
282	86.43	86.86	CM 堅硬であるが、割れ目が多い。挟在物は殆んど分布しない。	－	－	－										○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
283	86.43	86.86	（岩級区分境）CM	86.43	86.86	（岩級区分境）CL										－	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
284	86.86	87.20	CL 50～60°割れ目ぞいを主体に軟化が進む。 断片的に硬さ「C」岩片も薄状に残留している。	－	－	－										○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
285	87.20	87.51	D 風化で緩った機質砂状を呈する。 幅1～3m/mの橙色粘土ち原状に分布する。	－	－	－										なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
286	87.20	87.51	（岩級区分境）D	87.20	87.51	（岩級区分境）CL										－	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
287	87.51	93.53	CL 割れ目ぞいに風化が進んでいる。 全体に硬さ「C」の岩片が主体である。 割れ目には風化鉱染の弱った砂、粘土質、マンガンをはさむことが多い。	－	－	－										○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
288	－	－	－	87.51	87.81	（コアの硬さ欄）Bランク （コアの形状欄）Ⅳランク （割れ目状態欄）uランク （風化欄）ｔランク （変質欄）2ランク										－	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・平均でのランクとしていた区間を細分し、硬さBランクの区間を追記した ・併せてコア形状欄にⅣランク、割れ目状態欄にuランク、風化欄にｔランク、変質欄に2ランクを追記した
289	－	－	－	87.81	87.90	傾斜60°程度で細片化著しい。マンガンを伴う。										○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲と異なる特徴を追記した
290	－	－	－	87.81	87.90	（コアの硬さ欄）Eランク （コアの形状欄）Ⅵランク （割れ目状態欄）eランク										－	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・平均でのランクとしていた区間を細分し、硬さEランクの区間を追記した
291	－	－	－	87.90	88.51	硬さC主体、傾斜20°と50°の割れ目が交差し細片化している。										○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・細片化している区間が連続するため追記した
292	－	－	－	87.90	88.30	（コアの硬さ欄）Cランク										－	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・平均でのランクとしていた区間を細分し、硬さCランクの区間を追記した
293	－	－	－	88.06	88.06	傾斜52°幅2mmの赤褐色粒土挟む。周辺は幅5mm程度で緑色化している										○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲と異なる割れ目の特徴を追記した
294	－	－	－	88.30	88.56	（コアの硬さ欄）Bランク （風化欄）ｔランク （変質欄）2ランク										－	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・平均でのランクとしていた区間を細分し、硬さBランクの区間を追記した ・併せて風化欄にｔランク、変質欄に2ランクを追記した
295	88.51	88.69	40～50°の割れ目は1～2cm間隔で平行に分布。それと60°斜交～直交する割れ目や幅m/m石英脈も分布。	88.51	89.10	40～50°の割れ目は1～2cm間隔で平行に分布。割れ目には幅1mm以下の灰白色粘土挟む。それと60°斜交～直交する割れ目や幅m/m石英脈も分布。										○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・問題な性状が89.10mまで見られるため下限深度を変更した ・周囲と異なる割れ目の特徴を追記した
296	89.25	89.56	上下に比べやや割れ目が少なくなる。	－	－	－										○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
297	－	－	－	89.25	89.56	（コアの硬さ欄）Bランク （風化欄）ｔランク （変質欄）2ランク										－	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・硬質な部分を挟在するため、Bランクとして追記した ・併せて風化欄にｔランク、変質欄に2ランクを追記した
298	89.56	89.86	割れ目ぞいに風化が進み全体脆くなる。（硬さD）	－	－	－										○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
299	－	－	－	89.86	90.28	（コアの硬さ欄）Bランク （コアの形状欄）Ⅳランク （風化欄）ｔランク （変質欄）2ランク										－	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・硬質で割れ目が少ない部分を挟在するため、Bランク、Ⅳランクとして追記した ・併せて風化欄にｔランク、変質欄に2ランクを追記した
300	－	－	－	90.43	90.67	（コアの硬さ欄）Bランク （コアの形状欄）Ⅳランク （風化欄）ｔランク （変質欄）2ランク										－	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・硬質で割れ目が少ない部分を挟在するため、Bランク、Ⅳランクとして追記した ・併せて風化欄にｔランク、変質欄に2ランクを追記した
301	－	－	－	90.70	91.00	傾斜60°の割れ目が発達										○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲と異なる割れ目の特徴を追記した
302	91.16	91.25	低角と高角割れ目が交差し、径10m/m前後の細岩片状に砕けている。 下端にマンガン鉱染伴う。	91.16	91.25	低角度割れ目と高角度割れ目が交差し、径10m/m前後の細岩片状に砕けている。 下端にマンガン鉱染伴う。										○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化
303	－	－	－	91.25	91.73	（コアの硬さ欄）Bランク （コアの形状欄）Ⅳランク （風化欄）ｔランク （変質欄）2ランク										－	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・硬質で割れ目が少ない部分を挟在するため、Bランク、Ⅳランクとして追記した ・併せて風化欄にｔランク、変質欄に2ランクを追記した
304	－	－	－	91.73	91.87	（コアの硬さ欄）Bランク （風化欄）ｔランク （変質欄）2ランク										－	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・硬質な部分を挟在するため、Bランクとして追記した ・併せて風化欄にｔランク、変質欄に2ランクを追記した
305	92.32	92.32	53°割れ目ぞいに0.5m/m前後の雲母（セリサイトｏ？）が晶出している。	92.32	92.32	53°割れ目ぞいに0.5m/m前後の雲母（セリサイトｏ？）が晶出している。 周辺は幅3mmで緑色化										○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲と異なる割れ目の特徴を追記した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H27-B-1）

孔名：H27-B-1

○：記載有り　　なし：該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　　－：該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩ニア観察カード														
	記事			記事 （変更箇所を朱書きで表示） （変更していないものは「－」で表示）														破砕帯									記事を削除・変更・追記した理由
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？	無質名 ・軍隊や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・復数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、礫の種類及び形態、含有物（有機質、貝殻など）を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬度、海水度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	掘進作業における特記事項 ・コア欠損、コア接乱など	地質名 ・岩種及びその区間深度を明確的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、岩盤の種類・性、岩盤の含有率などを記載	色調 ・復数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の割れ目 ・節系統の割れ目の特徴を持つ区間を主として記載。 ・系表毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や供左物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり（スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	破砕度区分 ・記号（s_1,s_2,s_3） ・区分条の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅（実測できる場合）	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる破片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・筒状構造、複合面構造、葉理構造、網目状粘土など	最新活動面（記述した場合）	変換の状況	掘進作業における特記事項 ・コア欠損、コア接乱など	
306	－	－	－	92.40	92.80	（コアの硬さ欄）Bランク （コアの形状欄）Vランク （風化欄）ｔランク （変質欄）2ランク								－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・硬質で割れ目が少ない部分を表在するため、Bランク、Vランクとして追記した ・併せて風化欄にｔランク、変質欄に2ランクを追記した
307	－	－	－	92.80	92.85	（コアの硬さ欄）Bランク （風化欄）ｔランク （変質欄）2ランク								－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・硬質な部分を挟在するため、Bランクとして追記した ・併せて風化欄にｔランク、変質欄に2ランクを追記した
308	－	－	－	92.80	93.00	傾斜30～45°の割れ目が多く、マンガンを伴うものが多い								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・周囲と異なる割れ目の特徴を追記した
309	93.53	94.00	D 割れ目ぞいに風化による砂状化が拡大し、一部で砂礫状を呈する。	93.53	93.61	D 割れ目ぞいに風化による砂状化が拡大し、一部で砂礫状を呈する。マンガン濃集する								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・砂礫状を呈する区間の下端深度に変更した ・周囲と異なる特徴を追記した
310	93.53	94.00	（岩級区分欄）D	93.53	94.00	（岩級区分欄）CL								－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
311	－	－	－	93.53	93.61	（コアの形状欄）Vランク （割れ目状態欄）dランク （風化欄）δランク								－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・砂礫状の部分の岩級区分を追記した
312	－	－	－	93.61	94.07	傾斜50～90°の割れ目がみられ、マンガンを挟むことが多い。								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・周囲と異なる割れ目の特徴を追記した
313	－	－	－	93.61	94.00	（コアの硬さ欄）Dランク （風化欄）δランク								－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・やや軟質な部分を挟在するため、Dランクとして追記した ・併せて風化欄にδランクを追記した
314	94.00	95.85	CL	－	－	－								－	なし	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
315	94.07	94.88	上下端65°で貫入するトレライトアプライト 上下端とも割れ目化し、岩砕や変質粘土は伴なわない。 貫入面（65°）に60°斜交～直交する割れ目が発達するが密着しているものが多い。φ1～φ4～2m/mのカンラン石脈晶が多く、一部で斑状構造（65～60°）をもつ。 直上と直下のGpに破砕ゥ変質は与えていない。	94.07	94.88	上下端65°で貫入するアプライト 上下端とも割れ目化し、破砕や変質粘土は伴なわない。 貫入面（65°）に60°斜交～直交する割れ目が発達するが密着しているものが多い。一部で層状の模様（65～60°）がみられる。 直上のGpと直下のAplに破砕や変質は与えていない。							○	○	○	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・流理構造ではなく、色調が層状に変化しているものであるため変更した ・直下のGpをAplに見直したことにより変更した
316	－	－	－	94.88	97.00	アプライト								－	なし	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・深度101.85m に既品の多い花崗斑岩との接触部が認められたため、より既品が少ない区間をアプライトとして追記した
317	－	－	－	94.88	97.00	（地質名欄）アプライト								－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・記事欄の岩種の記載に合わせて追記した
318	－	－	－	94.88	95.67	傾斜30～60°の割れ目の一部に幅1～2mmの灰白色粘土やマンガンを伴う。								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・灰白色粘土やマンガンの挟在は周囲と異なる状況であるため追記した
319	95.22	95.25	割れ目ぞいに砂状化、マンガン伴う。	－	－	－								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
320	95.30	95.45	緑色おびる	－	－	－								－	なし	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
321	－	－	－	95.45	95.85	（コアの硬さ欄）Bランク （風化欄）ｔランク （変質欄）2ランク								－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・硬質な部分を挟在するため、Bランクとして追記した ・併せて風化欄にｔランク、変質欄に2ランクを追記した
322	－	－	－	95.85	97.57	（風化欄）ｔランク （変質欄）2ランク								－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・95.45m以深のコアは、割れ目に酸化鉄汚染がみられ、弱く変質しているため、風化欄にｔランク、変質欄に2ランクを追記した
323	95.85	96.58	CM 硬さ「B」と硬いが、密着度の低い割れ目が多く、一部で細片化する。	95.85	96.58	CM 硬さ「B」と硬いが、密着度の低い割れ目が多く、一部で細片化する。 傾斜10～20°とそれと直交する90°の割れ目がみられる。								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・2系統の割れ目が分布することは周囲と異なる状況であるため追記した
324	96.00	96.10	割れ目ぞいに幅1～2m/m砂状化し、灰白色粘土脈もはさむ。	－	－	－								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
325	－	－	－	96.71	96.76	傾斜90°程度の割れ目が密集し細片化する。コアは軟質（硬さD）								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・周囲と異なる特徴を追記した
326	－	－	－	97.00	140.00	花崗斑岩 全体に珪化し、細粒が不明瞭になっている 所々、アプライトを挟む								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・地質名欄に合わせて追記した ・珪化している状況を追記した ・アプライトを挟むことを追記した
327	96.58	97.57	CL 一部に硬さ「B」の硬質部も混える。 φ2～2m/m緑色鉱物（緑泥石？）が晶出・点在する。	96.58	97.11	CL 傾斜50°程度の割れ目が多く、一部に幅1mmの灰白色粘土や砂状化した部分を挟む。								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・割れ目が発達して砂状化が顕著な下端深度に変更した ・割れ目の傾斜及び周囲と異なる特徴を追記した
328	97.00	97.12	割れ目ぞいに砂状化し、全体が脆くなる。	~~97.09~~	~~97.12~~	割れ目ぞいに砂状化し、全体が脆くなる。								－	なし	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・上記でより詳細に記載したため削除した
329	－	－	－	97.11	97.57	（コアの硬さ欄）Bランク （コアの形状欄）Vランク								－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・硬質で割れ目も少ない部分を表在するため、コアの硬さ欄にBランク、コアの形状欄にVランクとして追記した
330	－	－	－	97.57	101.85	アプライトを挟む。 花崗斑岩との境界は上端45°の割れ目、下端90°で停着している。 （101.20～101.80m間は既品がやや多く花崗斑岩となる。 アプライトとの境界は漸移的である。								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・下端に既品の多い花崗斑岩との接触部が認められたため、より既品が少ない区間をアプライトと、花崗斑岩との境界について追記した ・既品がやや多くなる区間を花崗斑岩と、アプライトとの境界について追記した
331	－	－	－	97.57	101.20	（地質名欄）アプライト								－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・記事欄の岩種の記載に合わせて追記した
332	97.57	97.88	D 硬さ「C」の岩片も残留するが、全体は締った土砂状 下端付近の97.85m に40°幅1～5m/m赤褐色鉱物脈が分布	97.57	97.88	D 硬さ「C」の岩片も残留するが、全体は締った土砂状 下端付近の97.85m に40°幅1～5m/m赤褐色鉱物脈が分布 全体にマンガン斑を挟み、97.71～97.85m間は大きくうねった割れ目が密集する。								－	○	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・層間と異なる特徴を追記した
333	97.57	97.88	（岩級区分欄）D	97.57	97.88	（岩級区分欄）CL								－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
334	97.88	100.51	CM 硬質で風化と変質も弱くなる 密着度が低い割れ目や停着割れ目が多く10cm以上の柱状コアはごくわずか。割れ目挟在物は殆んど認められない。	－	－	－								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
335	－	－	－	97.88	101.00	割れ目沿いに酸化・マンガン汚染がみられる。								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・割れ目沿いの酸化・マンガン汚染は周囲と異なる状況であるため追記した
336	－	－	－	97.88	100.51	（割れ目状態欄）bランク								－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・記事欄の記載（割れ目挟在物ｺ殆んど認められない）に合わせて変更した
337	99.03	99.03	35°割れ目に微細な黄鉱鉱が晶出している。	－	－	－								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
338	－	－	－	99.38	99.38	傾斜52°の割れ目に沿ってマンガン汚染がみられる。								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・層間と異なる割れ目の特徴を追記した
339	100.00	100.51	停着割れ目や密着度の低い割れ目が多く細片化し易い。	－	－	－								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
340	100.51	100.72	CL 風化で一部割れ目ぞいに砂状化しマンガン鉱染も受ける。	100.51	100.72	CL 風化で一部割れ目ぞいに砂状化し幅5～10mmでマンガン鉱染も受ける。								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・マンガン鉱染の幅を追記した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H27-B-1）

孔名：H27-B-1

○：記載有り　なし：該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－：該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード															
			記事			記事 （変更箇所を朱書きで表示） （変更していないものは「－」で表示）												破砕帯									
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく伝記されているか？	地質名 ・軟岩や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形態、含有物（有機質、貝殻など）を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬度、湧水度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	掘進作業における特記事項 ・コア欠如、コア損乱など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は、岩盤の種類・性、岩盤の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理間の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や開在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり（スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	岩物脈 ・石英脈、清石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	頻度岩 ・岩種	破砕度区分 ・記号（a_1/b_1/c） ・区分名の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅（実測できる場合）	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる礫片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・線状構造、複合面構造、葉理構造、納目状粘土など	最新活動面（認定した場合）	変質の状況	掘進作業における特記事項 ・コア欠如 コア損乱など	記事を削除・変更・追記した理由
341	100.51	100.72	（岩級区分欄）CL	100.51	100.72	（岩級区分欄）CM									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
342	100.72	102.35	CM 割れ目には挟雑物は殆んど認められない。 一部でゆ着割れ目や密着度が低い割れ目が分布し、ハンマーの強打で細片化し易い。 全体に φ2～3m/mの暗緑色鉱物（緑泥石？）が点在する。 101.57～101.58mと102.00～102.05m間は割れ目ぞいに片状～薄状に砕けているが、粘土や軟化部は分布しない。	100.72	102.35	CM 割れ目には挟在物は殆んど認められない。 一部でゆ着割れ目や密着度が低い割れ目が分布し、ハンマーの強打で細片化し易い。 全体に φ2～3m/mの暗緑色鉱物（緑泥石？）が点在する。 101.57～101.58mと102.00～102.05m間は割れ目ぞいに片状～薄状に砕けているが、粘土や軟化部は分布しない。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・誤記の修正（挟雑物⇒挟在物）
343	－	－	－	101.20	101.60	（地質名欄）花崗斑岩									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・記事欄の岩種の記載に合わせて追記した
344	－	－	－	101.60	101.85	（地質名欄）アプライト									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・記事欄の岩種の記載に合わせて追記した
345	－	－	－	101.61	101.72	傾斜70～90°の割れ目の一部に白色隙（幅2mm以下）を挟む									－	○	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・周囲と異なる割れ目の特徴を追記した
346	102.05	102.35	高角度で密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が多い。	－	－	－									－	なし	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
347	102.05	102.05	102.05～	~~102.05~~	~~102.05~~	~~102.05～~~									－	なし	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・深度以外の記載が無いため削除した
348	102.35	107.40	CH 上下に比べ割れ目が少なくなる。 部分的に割れ目ぞいに薄く砂状化したり粘土脈やマンガンをはさむが全体では挟在物は殆んど含まない。 φ2～5m/mの暗緑色鉱物（緑泥石）が点在する。	102.35	105.00	CH 上下に比べ割れ目が少なくなる。 部分的に割れ目ぞいに薄く砂状化したり粘土脈やマンガンをはさむが全体では挟在物は殆んど含まない。 φ2～5m/mの暗緑色鉱物（緑泥石）が点在する。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・深度105.00～105.38m間は割れ目が多くCM級に変更したため下端深度を変更した
349	－	－	－	102.65	102.65	傾斜50°幅1mmの石英脈を挿う									－	なし	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・周囲と異なる特徴を追記した
350	－	－	－	102.75	102.75	傾斜50°の割れ目に沿って当潮化している									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・周囲と異なる割れ目の特徴を追記した
351	－	－	－	103.30	103.30	傾斜70～80°で互いに交差する幅1～5mmの石英脈を伴う。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・周囲と異なる特徴を追記した
352	103.52	103.54	割れ目ぞいに薄く砂状化する。	－	－	－									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
353	－	－	－	103.98	103.98	傾斜50°の割れ目に沿って幅5mm程度緑色化している									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・周囲と異なる割れ目の特徴を追記した
354	－	－	－	105.00	105.38	（コアの形状欄）Ⅳランク （割れ目状態欄）c_2ランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・周囲に比べて割れ目が多く、挟在物を伴う割れ目が多いため、コアの形状欄にⅣランク、割れ目状態の欄にc_2ランクとして追記した
355	105.23	105.25	65°割れ目は幅1～3m/mの緑色粘土脈はさむ。破砕は伴なわない。	－	－	－									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
356	－	－	－	105.72	105.72	傾斜60°、幅1mmの暗灰色粘土を挟む									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・周囲と異なる割れ目の特徴を追記した
357	－	－	－	106.30	108.50	所々、長石の絹泥石化が見られる									－	なし	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・周囲と異なる特徴を追記した
358	106.33	106.33	60°割れ目ぞい幅5m/mが細片化する。粘土は伴なわない。	－	－	－									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
359	－	－	－	106.33	106.70	（コアの形状欄）Ⅳランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・周囲に比べて割れ目が多いため、コアの形状欄にⅣランクとして追記した
360	107.40	107.83	CM	－	－	－									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
361	107.52	107.55	各々40°、53°割れ目に圧まれ細岩片化～砂状化する。粘土は伴なわない。	－	－	－									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
362	107.83	108.24	CL 風化で割れ目ぞいに軟化が進む。	－	－	－									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
363	107.83	108.24	（岩級区分欄）CL	107.83	108.24	（岩級区分欄）CM									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
364	108.20	108.20	50°割れ目と周辺の割れ目はマンガン鉱染受ける。	－	－	－									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
365	108.24	109.98	CM 硬質であるがゆ着割れ目や密着度が低い割れ目が多くハンマーの強打で細片化する。 割れ目には挟在物は殆んど分布しない。 109.00～109.14mと109.41～109.60m間は割れ目が密集し、長10～30m/m主体の硬質岩片化している。	－	－	－									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
366	－	－	－	108.64	108.76	アプライト脈を挟む。上端・下端とも50°程度で境界は明瞭、伸張している。									－	なし	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・周囲に比べて斑晶の含有量が少ないためアプライト脈とし、境界について追記した
367	－	－	－	108.64	109.76	（地質名欄）アプライト									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・記事欄の岩種の記載に合わせて追記した
368	109.98	110.43	CH ゆ着割れ目や密着度の低い割れ目を含まない棒状コアからなる。	－	－	－									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
369	109.98	110.43	（岩級区分欄）CH	109.98	110.43	（岩級区分欄）CM									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
370	110.43	110.74	CL 岩片は硬いが、割れ目の一部で砂状化する。	110.43	112.04	CM 堅硬で割れ目に挟在物は殆んど分布しない。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・下位のCM級と割れ目の間隔や挟在物の有無に差がないためCM級とし、下端深度を変更した ・コアの硬さや割れ目の挟在物について追記した
371	－	－	－	110.43	110.74	（コアの硬さ欄）b_2ランク （コアの形状欄）Ⅳランク （割れ目状態欄）b_2ランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・硬質で割れ目が少なく、挟在物もほとんど見られない部分を挟在するため、コアの硬さ欄にb_2ランク、コアの形状欄にⅣランク、割れ目状態欄にb_2ランクとして追記した
372	－	－	－	110.72	111.54	アプライト脈 上端15°で傾斜割れ。下端は45°で湾曲。境界は明瞭で一部伸張している。									－	なし	－	－	－	－	－	－	－	－	－	C	・周囲に比べて斑晶の含有量が少ないためアプライト脈とし、境界について追記した
373	－	－	－	110.72	111.54	（地質名欄）アプライト									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・記事欄の岩種の記載に合わせて追記した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H27-B-1）

孔名：H27-B-1

○：記載有り　　なし：該当区間に対象物はあるが、層厚の状況と同杙であるため記載していないもの　　－：該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード															
			記事			記事 （変更箇所を朱書きで表示） （変更していないものは「-」で表示）												破砕帯									
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか ☑	地質名 ・薄層や細かい互層など記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒径構成、硬の種類及び形態、含有物（有機質、貝殻など）を明確的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、海水度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	摺曲作業における特記事項 -コア欠如、コア接乱など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は、斑晶の種類・性、斑晶の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載		流理構造	節理等の割れ目 ・開来続の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や表面物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の開隙、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり（スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物脈 ・石英脈、滑石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	鉱種岩 ・岩種	破砕帯区分 ・記号（h_1-h_3） ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅（実測できる場合）	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる細粒の有無	内部構造 ・結晶構造、複合面構造、素等構造、細目状粘土など	最新活動面（認定した場合）	空隙の状況	摺曲作業における特記事項 -コア欠如、コア接乱など	記事を削除・変更・追記した理由
374	110.74	112.83	CM 30～60°とされに直交～斜交する50～70°割れ目が主体 割れ目交差部の一部では岩状化するが劣化は伴なわない。 112.04m以浅は緩硬で割れ目狭在物は殆んど分布しない。 111.13～111.37mは緑緑色化、111.37～11.54mはにぶい橙色 を割れ目方向と即和的に50～60°で示す。 前書は級岩化が進んだ区間、後者はカリ長石が多く晶出する区間である。黄色鉱物界都はよく密着し。 破砕や変質は伴なわない。 112.04m以深は硬ガ「C」は体で、一部の割れ目ぞいに風化で薄く砂状化する。粘土化や粘土質は分布しない。全体にマンガン鉱染を程度に受け、割れ目の面ぞいは薄く黒褐色化する。	112.04	112.83	CL 30～60°とされに直交～斜交する50～70°割れ目が主体 割れ目交差部の一部では岩状化するが劣化は伴なわない。 112.04m以浅は緩硬で割れ目狭在物は殆んど分布しない。 111.13～111.37mは緑灰石化で緑緑色を呈する。 111.37～111.54mは最大径2cmの石英、カリ長石からなるペグマタイト、割れ目方向ほぼ和的に50～60°で示す。 前書は級岩化が進んだ区間、後者はカリ長石が多く晶出する区間である。前書が黄界都はよく密着し。 破砕や変質は伴なわない。 112.04m以深は硬ガ「C」は体で、一部の割れ目ぞいに風化で薄く砂状化する。粘土化や粘土質は分布しない。全体にマンガン鉱染を程度に受け、割れ目の面ぞいは薄く黒褐色化する。高角度割れ目が発達している。														

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H27-B-1）

孔名：H27-B-1

○：記載有り　　なし：該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるために記載していないもの　　－：該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード												
			記事			記事 （変更箇所を朱書きで表示） （変更していないものは「-」で表示）																			
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？	地質名 ・沖積や細かい互層など記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒径構成、硬の種類及び形態、含有物（有機質、異質など）を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、海法度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	掘進作業における特記事項 ・コア欠如、コア接乱など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、現品の種類・住、現品の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や表在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の名称、割れ目面の平べり（スリッケンサイド）条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	破砕帯							空隙の状況	掘進作業における特記事項 ・コア欠如、コア接乱など	記事を削除・変更・追記した理由
																		破砕度区分 ・記号（a,b,c） ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅（実測できる場合）	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・破軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・統状構造、複合脈構造、素等構造、明目状粘土など	最新活動面（認定した場合）			
394	118.10	118.63	割れ目の一部は軽微なマンガン鉱染受ける。 116.26m以深では上位よりも更に割れ目ぞいの砂状化が進んでいる。 一部で薄1～2m/mの白色粘土脈をはさむ	118.10	118.63	1:8.10～~~118.26m~~ 割れ目の一部は軽微なマンガン鉱染受ける。 ~~116.26m~~118.63mでは上位よりも更に割れ目ぞいの砂状化が進んでいる。 ~~一部で~~薄1～2m/mの白色粘土脈を~~網目状~~にはさむ																							・マンガン鉱染が見られるのは11126mまでのため下端深度を変更した ・脈記の修正（116.26m⇒118.26m） ・割れ目ぎいの砂状化が進んでいる下端深度を追記した ・白色粘土脈は全体に見られるため、一部という記載を削除し、粘土鉱の分布形態を追記した
395	118.63	118.94	D 砂状化が著しくなり、締った砂礫状を呈するものが主だが硬さ「C」岩片のみからなる部分も散留	－	－	－																			
396	118.94	119.12	破砕帯（主せん断面119.0m）	118.94	119.12	破砕部（~~主せん断面119.0m~~） 最新活動面は119.10m⇒119.2mの可能性がある																			・用語の統一（破砕帯⇒破砕部） ・最新活動面という用語に統一 ・最新活動面は肉眼で判断できないため削除した
397	118.94	119.10	H1 上端32°、下端60°でいずれも直線的に連続。主せん断面に平行な割れ目とこれに60°前後で斜交する割れ目が多く0.5～10m/mに細片化した岩片と岩片間の一部に砂状化した「砂混じり岩片状」を呈する。 色調はふい黄褐（10YR5/4）、厚さ184m/m（コア長）。	118.94	119.10	H1 上端32°、下端60°でいずれも直線的に連続。~~直線的なせん断面~~に平行な割れ目とこれに60°前後で斜交する割れ目が多く0.5～10m/mに細片化した岩片と岩片間の一部に砂状化した「砂混じり岩片」を呈する。 色調はふい黄褐（10YR5/4）、~~厚さ184m/m（コア長）~~ ~~破砕~~。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。含まれる細粒部は局所的に分布																							・区分としてコア長を記載したものであり、真幅ではないため削除した ・主せん断面を直線的なせん断面に変更した ・破砕、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した
398	119.10	119.12	Hc-2 60°で上端直線的に、下端は波打って連続。φ1～2m/m石英粒、φ3～10m/m粘土化～硬さ「D」岩片を10～20%含む軟弱粘土（ガウジ） 色調は浅黄（5Y8/3）、厚さ13～15m/m 粘土中には、表面がマンガン化したφ1m/mの石英粒が多い。また下端～上端へ斜交する幅2m/mの軟弱な黒色粘土脈が分布。	119.10	119.12	Hc-2 60°で上端直線的に、下端は波打って連続。φ1～2m/m石英粒、φ3～10m/m粘土化～硬さ「D」岩片を10～20%含む軟弱~~な粘質に~~粘土からなる~~ガウジ~~ 色調は浅黄（5Y8/3）、厚さ13～15m/m 粘土中には、表面がマンガン化したφ1m/mの石英粒が多い。また下端～上端へ斜交する幅2m/mの軟弱な黒色粘土脈が分布。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられない。																							・表現の統一（ガウジ⇒Hc-2に含んで表現） ・硬を多く含むため破砕部内物質を変更した ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した
399	119.12	119.30	CL 60～70°高角度割れ目とこれに斜交する40°割れ目が多く細片化するが挟雑物は殆んど分布しない	119.12	119.30	CL 60～70°高角度割れ目とこれに斜交する40°割れ目が多く細片化するが~~挟在~~物は殆んど分布しない ~~一部は節刺時に岩片化したものを含む~~																					・脈記の修正（挟雑物⇒挟在物） ・人為的なコアの損乱部を追記した
400	119.12	119.30	（岩級区分欄）CL	119.12	119.30	（岩級区分欄）D																			・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
401	119.30	120.78	CM 一部で密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・細片化するが、割れ目の面ははゞ新鮮で未風化。	119.30	120.78	CM 一部で密着度の低い割れ目今ゆ着割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・細片化するが、割れ目の面ははゞ新鮮で未風化。 119.30～120.00m間は傾斜30～60°程度の割れ目が1～3cm程度の間隔で分布し、120.00～120.78m間は傾斜10～30°程度の割れ目が1～10cm程度の間隔で分布する																			・区間毎に割れ目の傾斜や間隔が異なるため追記した
402	120.78	122.00	CH 130～140m間でゆ着割れ目が約10m/m間隔で分布。	120.78	122.00	CH ~~130～140m間でゆ着割れ目が約10m/m間隔で分布。~~																			・130～140mとの記載は、当該記載区間ではないため削除し、ゆ着割れ目が見られる該記載区間内の区間深度に変更した
403	－	－	－	121.09	121.16	アプライト脈を挟む、上端20°、下端15°で屈曲した明瞭な境界をもち、面はゆ着している。																			・周囲と異なる特徴を追記した
404	122.00	125.06	CM 一部で密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が多い。すでに開口割れ目化するものも多い。 割れ目の面はほゞ新鮮で未風化。	－	－	－																			
405	－	－	－	122.36	122.36	傾斜52°、幅5～10mm程度で暗緑色を呈する。																			・周囲と異なる特徴を追記した
406	123.38	123.38	割れ目交差部で幅2～3m/m細片状化するが、風化砂状部や粘土化部ははさまない。	－	－	－																			
407	124.54	124.54	55°割れ目面に薄0.5m/m、軟弱灰緑色粘土がフィルム状に付着する。	－	－	－																			
408	125.06	125.28	CL ゆ着割れ目などから分離・細片化している。砂や粘土ははさまない。	－	－	－																			
409	125.06	125.28	（岩級区分欄）CL	125.06	125.28	（岩級区分欄）CM																			・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
410	125.28	127.68	CM 開口割れ目と平行方向のゆ着割れ目ゥ密着度の低い割れ目を含んでいる。ハンマーの強打で一部は分離・細片化する。 ごく一部（下記127.18～127.25m間）でごく薄く風化する以外ははゞ新鮮、未風化。	－	－	－																			
411	127.16	127.25	φ10m/m前後で角礫化している。下端の45°割れ目面には幅10m/mがφ2～5m/mで細礫状化し、風化淡褐色化する。	－	－	－																			
412	127.68	128.08	CL 厚さ5～10m/m程度の片状コア主体で夾雑物は下端部の128.05～128.08mがφ3～5m/m硬質岩片を含む「礫質砂」状を呈するほか、砂、粘土などはさまない。	127.68	128.08	CL 厚さ5～10m/m程度の片状コア主体で~~挟在~~物は下端部の128.05～128.08mがφ3～5m/m硬質岩片を含む「礫質砂」状を呈するほか、砂、粘土などはさまない。 ~~一部は節刺時に岩片化している。~~																			
413	127.68	128.08	（岩級区分欄）CL	127.68	128.08	（岩級区分欄）CM																			
414	128.08	128.64	CM 各割れ目面は薄く淡褐色化し直上よりも風化するが、砂や粘土など挟在物は認められない。	－	－	－																			
415	128.64	128.88	CL φ10m/m前後に細かく砕けた角礫状コアで、各割れ目面には砂が付着することがある。割れ目ぎいに風化が進行していると推定される。	－	－	－																			
416	128.64	128.88	（岩級区分欄）CL	128.64	128.88	（岩級区分欄）CM																			・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
417	128.88	129.91	CM 60～70°の高角度と30～40°の低角度割れ目の交差部ではφ10m/m前後に片状～角礫状するが、砂状部や粘土化部ははさまない。	128.88	129.91	CM 60～70°の高角度と30～40°の中角度割れ目の交差部ではφ10m/m前後に片状～角礫状するが、砂状部や粘土化部ははさまない。																			・30～40°のため、中角度に変更した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H27-B-1）

孔名：H27-B-1

C：記載有り　　なし：該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　　－：該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード															記事を削除・変更・追記した理由
			記事			記事（変更箇所を赤書きで表示）（変更していないものは「-」で表示）												破砕帯									
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？	対質名・本層の細かい互層などを記事欄に記載	色調・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴・粒度構成、礫の種類及び形態、含有物（有機質、貝殻など）を網羅的に記載。・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必須に応じて、硬度、海水度、含水状態などを記載。	堆積構造・層理、葉理、級化など	掘進作業における特記事項・コア欠損、コア擾乱など	地質名・層厚及びその区間深度を網羅的に記載。・層厚と状況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は、斑晶の種類・径、斑晶の含有率などを記載	色調・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の割れ目・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や挟在物の種類を網羅的に記載。・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり（スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	節物質・石膏脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	挟雑物・岩塊	破砕帯 破砕度区分・記号（b_1,b_2,b_3）・区分者の区間深度	破砕度区分の境界面・見かけの傾斜・性状	破砕幅（実測できる場合）	破砕部・色調・破砕部内物質・硬軟・細粒部の連続性・連続性・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造・熱状構造、縞状構造、葉理構造、累帯構造、節目状粘土など	最新活動面（認定した場合）	区間の状況	掘進作業における特記事項・コア欠損、コア擾乱など	
418	129.91	131.93	CH 一部のコアには ゆ着跡れ目や密着跡れ目を含むが、ハンマーの強打でも密着し、分離・細片化しないものが多い。	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
419	-	-	-	130.00	140.00	130.00～140.00m ゆ着跡れ目が約10mm間隔で分布。																					
420	131.40	131.52	φ20～30mの角礫状化しているが、これはロッド引上時に生じた人為的な現象と推定される。	-	-	-								-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	○			
421	131.93	138.07	CM ゆ着跡れ目や密着度の低い跡れ目を多く含んでいる。既に開口化しているものも多い。 跡れ目の一部は風化で凍砂状部をはさむことがあるが、挟雑物がないb）跡れ目が主体。	131.93	138.07	CM ゆ着跡れ目や密着度の低い跡れ目を多く含んでいる。既に開口化しているものも多い。 跡れ目の一部は風化で凍砂状部をはさむことがあるが、挟在物がないb）跡れ目が主体。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・誤記の修正（挟雑物⇒挟在物）
422	132.07	132.24	φ10～20m/m角礫状化する。跡れ目面に砂が付着するものが多い。微細な黄鉄鉱も伴う。 岡区間は珪質である。	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
423	-	-	-	132.18	132.33	アプライト脈を挟む 上端はコアチューブ引き上げ跡で不明、下端はφ°で明瞭な境界をもち、面は ゆ着している。								-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	○			・周囲に比べて斑晶の含有量が少ないためアプライト脈とし、境界について追記した
424	-	-	-	133.20	133.25	アプライト脈を挟む 上端、下端とも傾斜15°で明瞭な境界をもち、面は ゆ着している。								-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-			・周囲に比べて斑晶の含有量が少ないためアプライト脈とし、境界について追記した
425	133.40	134.00	ゆ着した密着跡れ目ぞいに開口化し、φ10m/m前後に細かく砕けている。	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
426	133.82	133.82	60°跡れ目ぞいに幅20m/mがφ3～5m.mの細片状化しているが、風化に起因する砂や粘土はほとんどない。	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
427	-	-	-	134.79	134.78	傾斜35°、幅2mm以下の石英脈を挟み、一部に白色の細脈を伴う。								-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-			・周囲と異なる特徴を追記した
428	-	-	-	134.87	134.91	傾斜50°、幅25mm程度で褐色化している。								-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-			・周囲と異なる特徴を追記した
429	-	-	-	135.41	135.41	傾斜20°及び135.45m付近ゆ着の傾斜55°程度の跡れ目に幅2～3mmの石英脈を挟む。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-			・周囲と異なる特徴を追記した
430	135.80	136.00	ゆ着跡れ目ぞいに開口し、長さ10～30m/m程度に細片化している。	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
431	137.00	138.07	ゆ着跡れ目が多いが密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。すでに開口跡れ目化、ているものも多い φ2～3m/m細緑灰色の非泥石質が斑点状に点在する。	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
432	138.07	138.44	CM 密着度の低いゆ着跡れ目を多く含み、全体として硬さ「C」である。 長石の白濁化や跡れ目表在物は殆んど認められない。 φ2～3m/m細緑灰色の非泥石質斑点が多い。	138.07	138.44	CM 密着度の低い岩在跡れ目を多く含み、全体として硬さ「C」である。 長石の白濁化や跡れ目挟在物は殆んど認められない。 φ2～3m/m細緑灰色の緑泥石質斑点が多い。								-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・ゆ着跡れ目は、完全に密着しているもので、表現が不適切なため変更した
433	138.44	138.80	CH 堅硬、強鈍。ゆ着跡れ目が多いが密着度高くハンマー強打でも分離しない。	-	-	-								-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
434	138.44	138.80	（岩級区分欄）CH	138.44	138.80	（岩級区分欄）CM								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
435	138.80	139.82	CL 139.18m以浅は硬さ「C」、以深は軟化が進み「D」である。 全体に跡れ目挟在物はほんど含まない。	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
436	138.93	138.93	60～70°傾さ5～10m/mで湾曲しながら石英脈が密着～一部跡れ目化して連続。	-	-	-								-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-			
437	138.95	139.08	30～40°と70°跡れ目が交差：岩片を呈する。劣化は伴なわない	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
438	139.18	139.18	以深は上位より風化と変質が進む。	-	-	-								-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
439	139.31	139.31	72°跡れ目ぞい厚さ2～3m/mマンガン鉱染受ける	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
440	139.82	139.88	（岩級区分欄）D	139.82	139.88	（岩級区分欄）CL								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
441	139.82	139.88	破砕帯（主せん断面139.82m）	139.82	139.88	破砕部（最新活動面139.82m） 直線的な細粒部								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			・用語の統一（破砕帯⇒破砕部） ・最新活動面という用語に統一 ・最新活動面の性状を追記した
442	139.82	139.82	Hc-1 52°で直線的に連続。肉眼的には石英粒、岩片を含まない軟質粘土（ガウジ）。色調は暗緑灰（5G3/1）～炭褐色（7.5YR4/1）。厚さ0.5～1m/m	139.82	139.82	Hc-1 52°で直線的に連続。肉眼的には石英粒、岩片を含まない軟質粘土かゆなる小ガウジ。色調は暗緑灰（5G3/1）～炭褐色（7.5YR4/1）。厚さ0.5～1m/m								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			・肉眼観察の所見しか記載しないため「肉眼的には」は削除した ・表現の統一（ガウジ→Hc-1にさんで表現）
443	139.82	139.88	Hj 52°で上下端とも直線的に連続。φ3～5m/mに細かく岩片化。岩片間は砂状化（細粒砂主体）。岩片の多くは主せん断面方向に配列している。全体に「砂混じり岩片状」を呈する。色調は暗緑灰色（10G3/1）。厚さ40m/m	139.82	139.88	Hj 52°で上下端とも直線的に連続。φ3～5m/mに細かく岩片化。岩片間は砂状化（細粒砂主体）。岩片の多くは直線的なせん断面方向に配列している。全体に「砂混じり岩片状」を呈する。色調は暗緑灰色（10G3/1）。厚さ40m/m 破質、マンガン汚染して原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は不明瞭。細粒部は伴わない。								-	-	-	○	○	○	○	-	-	-	○	-	-	・破砕、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織、マンガン汚染について追記した ・主せん断面を直線的なせん断面に変更した	
444	139.88	139.95	D 主せん断面と平行に近い跡れ目が多い。岩組織は残留する。	139.88	139.95	D 直線的なせん断面と平行に近い跡れ目が多い。岩組織は残留する。マンガン汚染無しい。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-			・周囲と異なる特徴を追記した ・主せん断面を直線的なせん断面に変更した
445	139.95	140.03	CL 硬さ「C」岩片主体。	-	-	-								-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-			

余白

H27－B－2

[redacted]

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H27-B-2）

孔名：H27-B-2

○：記載有り　　なし：該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　　－：該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード														記載を削除・変更・追記した理由
			記事			記事（変更箇所を半書きで表示）（変更していないものは「-」で表示）											風化・変質	硬さ	割れ目	充填鉱物	内部構造	最新活動面	変質の状況	節理作業における特記事項	
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく記載されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく記載されているか？ ☑	地質名・薄層や縞から、互層などを記事欄に記載	色調・現数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴・粒度構成、硬の種類及び形状、含有物（有機質、異物など）を網羅的に記載。・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、海法度、含水状態などを記載。	堆積構造・層理、葉理、級化など	節理作業における特記事項・コア欠如、コア損紙など	地質名・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。・周囲と状況が異なる場合や特徴的な箇所が見られる場合は、岩盤の性質・性、岩盤の含有率などを記載	色調・現数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の割れ目・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。・系統毎の代表的な割れ目の方向の傾斜や開度等の特徴を網羅的に記載。・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、充れ目面の色調、割れ目面のすべり（スリッケンサイド）条線、見かけの変位センス）等を記載	変質鉱物・石英脈、凝灰岩脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など・間隙容・岩種	硬度区分・記号（Hk,Hs,Hh）・区分毎の区間深度	硬度区分の境界面・見かけの傾斜・性状	硬鉱種（実測できる場合）	硬鉱部・色調・硬鉱部肉物質・硬軟・硬鉱部の連続性・連続性・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造・節状構造、複合面構造、亀裂構造、岩盤構造・節目状態土など	最新活動面（認定した場合）		節理作業における特記事項・コア欠如、コア損紙など	
1	-	-	-	0.00	0.70	試掘でコンクリートが分布することを確認している。コア採取は実施しなかった。			-	-	○															・コンクリートが分布し、コア採取を実施しなかったことを明記した
2	0.00	0.70	地質名欄:コンクリート	0.00	0.70	・地質名欄:コア欠如			-	-	○															・表現の統一（コア欠如）
3	-	-	-	0.70	12.33	盛土			-	-	-															・人工植物の区間を追記した
4	-	-	-	0.70	1.00	グリ石			-	-	-															・盛土区間の地質を追記した
5	0.70	1.00	地質名欄:砂利・色調欄:空欄	0.70	1.00	・地質名欄:盛土・色調欄:N3：黒			-	-	-															・表現の統一（盛土）・コアに合わせて色調を追加した
6	1.00	2.00	径0.05～2.0mの中粒砂～極粗粒砂主体の盛土 淘汰は良い。	1.00	2.00	径0.25～2.0mの中粒砂～極粗粒砂主体の盛土 淘汰は良い。ルーズ。			○	-	-															・粒記の修正（0.05→0.25）・締まり具合について追記した
7	2.00	3.40	径0.05～2.0mの中粒砂～極粗粒砂主体の盛土 淘汰は普通 10～50mmの礫を稀数含む	2.00	3.40	径0.25～2.0mの中粒砂～極粗粒砂主体の盛土 淘汰は普通、ルーズ。径10～30mmの花崗岩質、黒色砂岩の角礫を多く含む			○	-	-															・粒記の修正（0.05→0.25、「径」の記載漏れ）・締まり具合、含有する礫について追記した
8	3.40	4.00	径0.05～2.0mの中粒砂～極粗粒砂主体の盛土 淘汰は良い。	3.40	4.10	径0.25～2.0mの中粒砂～極粗粒砂主体の盛土 淘汰は良い。ルーズ			○	-	-															・スライムの上端深度に合わせて下端深度を変更した・粒記の修正（0.05→0.25、単位の記載ミス）・締まり具合について追記した
9	-	-	-	4.10	5.83	スライム			-	-	○															・スライム区間を明記した
10	-	-	-	4.10	4.28	径2～10mmの花崗岩質、石英、長石、黒色砂岩の角礫、植物片を含む。シルト質粗粒砂からなる。ルーズ。			○	-	-															・スライム区間の性状を追記した
11	4.10	5.83	地質名欄:盛土	4.10	5.83	・地質名欄:コア欠如			-		○															・スライム区間のため地質名をコア欠如に変更した
12	-	-	-	4.28	4.42	砂混じり粘土質シルトからなる。軟質 灰黄褐色10YR5/2を呈する。			○	-	-															・スライム区間の性状を追記した
13	-	-	-	4.42	5.80	砂混じりシルトからなる。軟質			○	-	-															・スライム区間の性状を追記した
14	-	-	-	4.84	4.84	径7cmの花崗閃岩の角礫あり。			○	-	-															・スライム区間の性状を追記した
15	-	-	-	4.98	4.98	径5cmの花崗閃岩の角礫あり。			○	-	-															・スライム区間の性状を追記した
16	-	-	-	5.80	5.83	粘質シルトからなる。 黒褐色2.5Y3/1を呈する。軟質。			○	-	-															・盛土の地質名及び性状を追記した
17	-	-	-	5.83	7.00	砂混じりシルト質粗粒砂主体で、6.80～7.00mは硬質粗粒砂からなる。			○	-	-															・コアに合わせて色調を変更した
18	5.83	6.25	色調欄:10YR6/4にぶい黄橙	5.83	6.25	・色調欄:2.5Y6/3にぶい黄			-	-	-															・コアに合わせて色調を変更した
19	6.25	6.64	色調欄:10YR6/4にぶい黄橙	6.25	6.64	・色調欄:7.5Y6/1灰			-	-	-															・人工植物である合板を追記した
20	-	-	-	7.00	7.12	合板			○	-	-															・コアに合わせて色調を変更した
21	7.00	7.41	色調欄:7.5YR5/4にぶい褐	7.00	7.41	・色調欄:10YR7/2にぶい黄橙			-	-	-															・盛土中に含まれる礫について追記した
22	-	-	-	7.12	7.17	径8cmの花崗閃岩の角礫			○	-	-															・スライム区間を明記し、スライムの性状を追記した
23	-	-	-	7.17	7.41	スライム 砂混じりシルトからなる。 軟質。			○	-	○															・スライム区間のため地質名をコア欠如に変更した
24	7.17	12.33	地質名欄:盛土	7.17	12.33	・地質名欄:コア欠如			-	-	○															・スライム区間の性状を追記した
25	-	-	-	7.41	8.53	スライム 径10cm以下の花崗岩質の亜角～角礫からなる。コアの形状をなしていない、亀裂部は流出している。			○	-	○															・スライム区間の性状を追記した
26	-	-	-	8.11	8.20	スライム シルト質礫からなる。ルーズ			○	-	○															・コアに合わせて色調を変更した
27	8.50	8.53	色調欄:7.5YR5/1灰褐	8.50	8.53	・色調欄:7.5YR5/4にぶい褐			-	-	-															・スライム区間の性状を追記した
28	-	-	-	8.53	9.22	スライム 砂・粘質じりシルトからなる。軟質			○	-	○															・コアに合わせて色調を変更した
29	9.00	9.22	色調欄:7.5YR4/1褐灰	9.00	9.22	・色調欄:7.5YR5/1灰褐			-	-	-															・スライム区間の性状を追記した
30	-	-	-	9.22	9.70	スライム 砂・粘質じりシルトからなる。軟質 植物片混じる。			○	-	○															・スライム中に含まれる礫について追記した
31	-	-	-	9.70	9.80	スライム 径8cmの花崗閃岩の礫。			○	-	-															・コアに合わせて色調を変更した
32	9.70	10.26	色調欄:7.5YR4/1褐灰	9.70	10.26	・色調欄:7.5YR5/1褐灰			-	-	-															・スライム区間の性状を追記した
33	-	-	-	9.80	10.26	スライム 砂・粘質じりシルトからなる。軟質。植物片混じる。径は径2cm以下の花崗岩質の角礫からなる。			○	-	○															・スライム区間の性状を追記した
34	-	-	-	10.26	10.42	スライム 粘質じり砂からなる。			○	-	○															・コアに合わせて色調を変更した
35	10.26	10.42	色調欄:7.5YR4/1褐灰	10.26	10.42	・色調欄:10YR7/1灰白			-	-	-															・スライム区間の性状を追記した
36	-	-	-	10.42	10.70	スライム 砂・粘質じりシルト～粘土からなる。軟質。炭化物がコア表面に付着している。			○	-	○															・コアに合わせて色調を変更した
37	10.42	10.50	色調欄:7.5YR4/1褐灰	10.42	10.50	・色調欄:10YR7/6明黄褐			-	-	-															・スライム区間の性状を追記した
38	-	-	-	10.70	11.00	スライム 砂・粘質じりシルトからなる。軟質			○	-	○															・コアに合わせて色調を変更した
39	10.70	11.00	色調欄:10YR7/6明黄褐	10.70	11.00	・色調欄:10YR5/1 褐灰			-	-	-															・スライム中に含まれる礫について追記した
40	-	-	-	11.00	11.30	スライム 径8cm以下の花崗岩質の礫。基質部は流出している。			○	-	○															・コアに合わせて色調を変更した
41	11.00	11.30	色調欄:10YR6/6明黄褐	11.00	11.30	・色調欄:7.5YR7/3 にぶい橙			-	-	-															・スライム区間の性状を追記した
42	-	-	-	11.30	11.58	スライム 粘質混じりシルト質砂からなる。ルーズ			○	-	○															

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H27-B-2）

孔名 H27-B-2

○ 記載有り　なし 該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード														記事を削除・変更・追記した理由
			記事			記事 （変更箇所を朱書きで表示） （変更していないものは「-」で表示）											破砕帯									
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び粒径、含有物（有機質、異質など）を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて 硬軟、湧水量、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	鍵遠作業における特記事項 ・コア欠如、コア喪失など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は、既晶の種類・径、既晶の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の割れ目 ・既晶質の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や検査物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり（スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物脈 ・石英脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・挟在岩 ・岩種	破砕度区分 ・記号（Hc,Hb,Hj） ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅（実測できる場合）	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・線状構造、複合面構造、葉脈構造、網目状組土など	最新活動面（記述した場合）	空隙の状況	鍵遠作業における特記事項 ・コア欠如、コア喪失など	
43	11.30	11.50	（色調欄）10YR6/8明黄褐	11.30	11.50	（色調欄）7.5YR5/1 褐灰				-	-	-														・コアに合わせて色調を変更した
44	11.50	11.58	（色調欄）10YR6/8明黄褐	11.50	11.58	（色調欄）7.5YR5/1 褐灰				-	-	-														・コアに合わせて色調を変更した
45	-	-	-	11.58	12.00	スライム 砂混じり細粒砂からなる。ルーズで、径2cm以下の花崗岩類の角礫を含む。				○	-	○														・スライム区間の性状を追記した
46	11.58	12.00	（色調欄）10YR6/8明黄褐	11.58	12.00	（色調欄）7.5YR5/4にぶい褐				-	-	-														・コアに合わせて色調を変更した
47	-	-	-	12.00	12.33	スライム 径4cm以下の花崗岩類の礫からなる。基質部は流出している。				○	-	○														・スライム区間の性状を追記した
48	12.33	12.75	礫率70～80%でクサリ礫を多く含む 礫種はGPで最径AFで、礫径は2～100mmで、一部最大径200mmの礫が認められる。 亜角礫が主体 12.68～12.80m付近にマンガン濃集部が認められる	12.33	12.79	礫率70～80%でクサリ礫を多く含む。やや硬質。 礫種はGPで一部AFで、礫径は2～100mmで、一部最大径200mmの礫が認められる。 亜角礫が主体 12.68～12.79m付近にマンガン濃集部が認められる				○	-	-														・コアに合わせて下端深度を変更した ・間隙度を追記した ・礫記の修正（単位ミス）
49	12.75	12.79	（地質名欄）礫混じり砂	12.75	12.79	（地質名欄）砂礫				-	-	-														・上記の変更に伴い、地質名を変更した
50	12.75	13.00	礫率5～10%でクサリ礫を含む 礫種はGPで礫径は2～10mm 亜角礫が主体	12.79	13.00	スライム 礫混じり細粒砂からなり、礫率5～10%でクサリ礫を含む。 礫種はGPで礫径は2～10mm 亜角礫が主体、ルーズ				○	-	○														・上記の変更に伴い、スライムの上端深度を変更した ・スライムであることを明記した ・構成する地質名及び礫クサリ礫含を追記した
51	-	-	-	13.00	13.18	スライム 径4cm以下の花崗岩類の角礫からなる。				○	-	○														・スライム中の礫について追記した
52	12.79	13.53	（地質名欄）礫混じり砂	12.79	13.53	（地質名欄）コア欠如				-	-	○														・スライム区間のため地質名をコア欠如に変更した
53	13.00	13.18	（色調欄）2.5YR6/4にぶい橙	13.00	13.18	（色調欄）10YR5/6黄褐				-	-	○														・コアに合わせて色調を変更した
54	-	-	-	13.18	13.53	スライム 砂・礫混じりシルト、軟質 13.32～13.45m間はにぶい橙色の径2cm以下の角礫を20%程度含む灰黄褐色シルトからなる。				○	-	○														・スライム区間の性状を追記した
55	13.53	13.53	層密	-	-	-				-	-	○														
56	-	-	-	13.53	160.00	花崗閃岩								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・地質名及び区間深度を追記した
57	13.53	29.88	CL 硬さ（D）主体で、0～30°割れ目が多い。全体に風化し、一部の割れ目ぞいには砂状化が進む。	13.53	30.10	CL 硬さ（D）主体で、0～30°割れ目が多い。全体に風化し、一部の割れ目沿いには砂状化が進む。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・CL級の下端深度を変更した ・表現の適正化（沿い）
58	13.53	14.89	（変質欄）3ランク	13.53	14.89	（変質欄）2ランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・変質の程度は弱いため変質のランクを2ランクに変更した
59	14.91	14.91	幅4mmで傾斜15°の石英脈が認められる。	13.91	13.91	幅4mmで傾斜15°の石英脈が認められる。								-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-		・脈記の修正（14.91⇒13.91）
60	14.55	14.68	割れ目沿いにマンガン濃集部が認められる。一部（14.55m～14.63m）で土砂化が生じている。	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
61	14.89	15.00	スライムのため判別不可	14.89	15.09	スライム 14.89～15.00m 砂混じりシルトからなる 15.00～15.09m 砂混じり礫からなる								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○		・観察カード毎に分かれて記載されているスライムの記事を1つにまとめた ・スライム区間の性状を追記した
62	15.00	15.09	スライムのため判別不可											-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○		
63	14.89	15.09	（地質名欄）スライム	14.89	15.09	（地質名欄）コア欠如								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○		・表現の統一（コア欠如）
64	15.09	28.02	（変質欄）3ランク	15.09	28.02	（変質欄）2ランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・変質の程度は弱いため変質のランクを2ランクに変更した
65	15.62	15.66	割れ目に沿ったマンガン濃集部あり	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
66	15.80	16.00	割れ目に沿ったマンガン濃集部あり	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
67	16.50	16.51	割れ目に沿って緑泥石が発達	16.50	16.51	25°の割れ目に沿って緑泥石が分布する。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・割れ目の傾斜を追記した ・文章の適正化（発達⇒分布する）
68	16.76	16.86	マンガン濃集部が密集している	-	-	-								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
69	16.92	16.93	割れ目に沿ったマンガン濃集部あり	16.92	16.93	25°の割れ目に沿ったマンガン濃集部あり								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・割れ目の傾斜を追記した
70	17.10	17.10	割れ目に沿ったマンガン濃集部あり	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
71	17.16	-	17.16m以深は上位に比べ割れ目やや少なくなる	17.16	-	17.16m以深は上位に比べ割れ目やや少なくなる								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・表現の適正化（やや）
72	17.57	17.64	割れ目に沿って緑泥石が発達	17.57	17.64	35～40°の割れ目に沿って緑泥石が分布する。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・割れ目の傾斜を追記した ・文章の適正化（発達⇒分布する）
73	17.79	17.80	割れ目に沿ったマンガン濃集部あり	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
74	17.99	17.94	割れ目に沿ったマンガン濃集部あり	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
75	-	-	-	18.20	18.35	20°の割れ目に沿って黄褐色酸化が見られる								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・黄褐色酸化を伴う割れ目は周囲と異なる状況であるため追記した
76	-	-	-	18.68	18.74	60°の割れ目2条分有し、面にマンガン濃集が見られる								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・マンガン濃集を伴う中角度の割れ目は周囲と異なる状況であるため追記した。
77	-	-	-	18.59	18.59	10°の割れ目に幅1cm程度の褐色の砂状部を挟む								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・褐色の砂状部を伴う割れ目は周囲と異なる状況であるため追記した
78	19.59	19.80	10m/m程度間隔で割れ目あり。マンガンと石英を伴う。	19.59	19.80	10mm程度間隔で割れ目あり。マンガンと石英を伴う。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・表現の適正化（mm）
79	-	19.70	19.70m以浅は風化が進み軟質化する	-	-	-								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
80	-	-	-	20.25	20.25	30°の割れ目に幅1～5mmの黄灰色砂状部を挟む								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・黄灰色砂状部を伴う割れ目は周囲と異なる状況であるため追記した。
81	20.90	20.90	0°割れ目ぞい約10m/m砂状化	20.90	20.90	5°の割れ目沿いに幅約10mm砂状化								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・コアに合わせて割れ目の傾斜を変更した ・表現の適正化（沿い、mm） ・脈記の修正（「幅」の記載漏れ）
82	21.60	21.79	（コアの形状欄）Vランク	21.60	21.79	（コアの形状欄）Vランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・周囲と比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した。
83	-	-	-	21.67	21.67	0°の割れ目に幅1mmの暗灰色粘土を挟在する。 上端側の幅10mmは淡黄褐色を呈する。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・暗灰色粘土及び淡黄褐色化は周囲と異なる状況であるため追記した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H27-B-2）

孔名 H27-B-2

○ 記載有り　なし 該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード													記事を削除・変更・追記した理由
			記事			記事 （変更箇所を朱書きで表示） （変更していないものは「-」で表示）											破砕帯								
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形態、含有物（有機質、異質など）を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、湧水量、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	鑑定作業における特記事項 ・コア欠如、コア破損など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、既晶の種類・性、既晶の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や検在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり（スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物脈 ・石英脈、漸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	挟在層 ・岩種	破砕度区分 ・記号（H1/H2/H3） ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅（実測できる場合）	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・局部構造、複合面構造、葉構造、層目状結合など	最新活動面（記入した場合）	空隙の状況	鑑定作業における特記事項 ・コア欠如、コア破損など	
84	21.90	21.90	∅10m/m石英が80°割れ目(sj)で切られる(右ズレ10m/m)。	21.90	21.90	∅10mm石英が80°割れ目で横断される。80°割れ目は1条ではなく、分岐しており、分岐したそれぞれの割れ目は不連続である。(sj)は切られる(右ズレ10mm)。高角度割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。系統的な割れ目も存在しない。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・径10mmの石英は80°割れ目で割れているが、ズレていない。また、低角度割れ目が80°割れ目と交差することから「(sj)」が切られる(「右ズレ10mm」)を削除し、「横断される」に変更した。 ・80°割れ目が分岐し、それぞれに分岐した割れ目の連続性について追記した。 ・割れ目及び周辺の状況について追記した
85	21.79	26.82	硬さ「C」が主体であるが、硬さ「D」も含み両者が交互に出現する。 割れ目ぞいに風化で砂状化する部分が多い。	21.79	26.82	硬さ「C」が主体であるが、硬さ「D」も含み両者が交互に出現する。 割れ目沿いに風化で砂状化する部分が多い。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（沿い）
86	21.79	23.41	（風化傾）ァランク	21.79	23.41	（風化傾）δランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・風化の程度がやや強いため風化のランクをδランクに変更した
87	22.10	22.50	（コアの硬さ傾）Cランク	22.10	22.50	（コアの硬さ傾）Bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した
88	22.18	22.49	硬さ「B」で硬質	22.10	22.50	硬さ「B」で硬質									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上記の変更に伴い、コアの硬さBランクの区間を変更した
89	22.15	22.50	（コアの形状傾）Ⅳランク	22.15	22.50	（コアの形状傾）Ⅱランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目がほとんど分布しないためコアの形状のランクをⅡランクに変更した
90	22.50	23.00	（コアの形状傾）Ⅳランク	22.50	23.00	（コアの形状傾）Ⅴランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・下位と比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをⅤランクに変更した
91	22.62	23.41	（コアの硬さ傾）Cランク	22.62	23.41	（コアの硬さ傾）Bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアは軟質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した
92	-	-	-	23.22	23.22	10°の割れ目に幅5mmで黄灰色のやや硬質な砂を挟在する。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・黄灰色のやや硬質な砂を挟在する割れ目は周囲と異なる状況であるため追記した
93	23.52	23.82	23.52m×30°と23.82m×20°の各割れ目に厚さ1m/m半固結状の灰褐色粘土脈はさむ	23.52	23.82	23.52m×30°と23.82m×20°の各割れ目に幅1mmのやや硬質な灰褐色粘土脈挟む									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(mm、挟む、幅、半固結状⇒やや硬質な)
94	-	-	-	23.89	23.89	25°の割れ目に幅5mmの薄灰色シルト質砂を挟在する。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・薄灰色シルト質砂を挟在する割れ目は周囲と異なる状況であるため追記した
95	25.31	25.31	20°割れ目ぞいに∅0.5m/m～1m/mと極細な雲母（セリサイト？）が晶出している。	25.41	25.41	20°割れ目沿いに∅0.5～1mmと極細な雲母（セリサイト⇒）が晶出している。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・桁記の修正（25.31⇒25.41） ・表現の適正化（沿い、mm、鉱物名mmの削除） ・セリサイトであるため「？」を削除した
96	25.72	25.98	（コアの形状傾）Ⅳランク	25.72	25.98	（コアの形状傾）Ⅴランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲と比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをⅤランクに変更した。
97	25.84	25.84	74°の割れ目(sj)は交差する5～10°割れ目を切っている(右ズレ、変位量1～3m/m)。	25.84	25.84	74°の割れ目(sj)は交差する5～10°割れ目を止めている場合と横断する場合がある。切っている(右ズレ、変位量1～3mm)。 割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。高角度割れ目と系統的な割れ目も存在しない。25.90mの高角度割れ目と交差する低角度割れ目には、ずれは認められない。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・25.80mの低角度割れ目（74°の割れ目を横断しているため「切っている」）を止めている場合と交差する場合があるように変更し、(sj)と変位量についての記載を削除した ・割れ目及び周辺の状況について追記した	
98	26.82	-	26.82m以降は硬さ「D」が主体となる。	26.82	-	26.82m以深は硬さ「D」が主体となる。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（以深）
99	-	-	-	27.04	27.90	割れ目面にマンガンが付着する。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	・マンガンを伴う割れ目は周囲と異なる状況であるため追記した
100	27.15	27.15	65°割れ目に幅2～3m/m軟質淡黄～灰白色粘土脈はさむ。	~~27.15~~	~~27.15~~	~~65°割れ目に幅2～3mmの軟質淡黄～灰白色粘土を挟む。~~									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・該当する割れ目がコアに見当たらないため削除した
101	27.91	27.91	20°幅1m/m石英脈が交差する85°せん断割れ目(sj)で右ズレ1m/m引きづられるように変形している(切られてはいない)	27.91	27.91	20°幅1mm石英脈が交差する85°せん断割れ目(sj)を横断する。また、27.80mの低角度の原位割れ目は85°割れ目を横断する。右ズレ1mmの引きづられるように変形している(切られてはいない)割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。									○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	・石英脈は切れていない。また、低角度の原在割れ目が横断しているため石英脈の引きづられは初生的なものと判断して「変形している」と変位量についての記載を削除した ・割れ目及び周辺の状況について追記した。 ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断割れ目(sj)」を削除した ・表現の適正化(mm)	
102	28.02	-	28.02m以深、10m/m間隔の風化割れ目が発達し、片状～粘状化している。 割れ目ぞいに風化砂状化することが多い。	28.02	-	28.02m以深、10mm間隔の風化割れ目が発達し、片状～粘状化している。 割れ目沿いに風化砂状化することが多い。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(mm、沿い)
103	-	-	-	28.24	28.94	割れ目に沿った風化・変質が見られる									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目に沿った顕著な風化・変質は周囲と異なる状況であるため追記した
104	-	-	-	28.55	28.55	25°の割れ目に幅10mmの硬質な黄灰色シルト質砂を挟在する。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・固結した黄灰白色シルト質砂は周囲と異なる状況であるため追記した
105	-	-	-	29.19	29.19	50°の割れ目に幅3mmの灰白色粘土を挟在する。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・灰白色粘土は周囲と異なる状況であるため追記した
106	29.88	30.82	D 標ね∅10m/m以下に砕けている 風化で割れ目ぞいに砂状化が拡大している。 ∅3～20m/mの硬さ「D」「C」岩片が多く残留し、締った「砂模状」を呈する。 基質は砂状部が主体であるが、灰白色粘土化部も散在している。 岩組織や上部の割れ目は残留している。	30.10	30.82	D 標ね∅10mm以下に砕けている 風化で割れ目沿いに砂状化が拡大している。 ∅3～30mmの硬さ「D」「C」岩片が多く残留し、硬質な「砂模状」を呈する。 基質は砂状部が主体であるが、灰白色粘土化部も散在している。 原岩組織や上部の割れ目は残留している。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(mm、沿い、締った⇒硬質な、原岩組織) ・下記の変更に伴い、D級の上端深度を変更した	
107	29.88	30.10	（コアの硬さ傾）Cランク （岩級区分傾）D	29.88	30.10	（コアの硬さ傾）Cランク （岩級区分傾）CL									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアは軟質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した
108	29.88	30.82	（風化傾）ェランク	29.88	30.82	（風化傾）δランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲と同様の風化の程度であるため風化のランクをδランクに変更した
109	30.82	31.15	CL 割れ目ぞいに砂状化することが多い。	30.82	31.15	CL 割れ目沿いに砂状化することが多い。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い)
110	30.82	31.15	（岩級区分傾）CL	30.82	31.15	（岩級区分傾）D									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名 H27-B-2

○ 記載有り　なし 該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード															記事を削除・変更・追記した理由
			記事			記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは"-"で表示)													破砕帯									
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、礫の種類及び形状、含有物(有機質、異質など)を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、湧水量、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	掘進作業における特記事項 ・コア欠如、コア喪失など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は、既晶の種類・後、既晶の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	助理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や該当物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のテ～ペリ(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈、漸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・挿機岩 ・岩種	破砕度区分 ・記号(Hc,Hb,Hi) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅(実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・線状構造、複合面構造、葉等構造、網目状組土など	最新活動面(認定した場合)	空隙の状況	掘進作業における特記事項 ・コア欠如、コア喪失など	
111	31.15	31.66	破砕帯(主せん断面31.29m)	31.15	31.66	破砕部(最新活動面31.29m)									-	-	-	-				-	-	-	-	-	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一
112	31.15	31.24	Hi 上端20°で直線的、下端15～28°で湾曲して連続。一部粘土化した0.5～10cm岩片と岩片間の粘土～幅1～2cm粘土細断からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は薄い黄橙色(10YR 7/2)、厚さ80～90cm/m	31.15	31.24	Hi 上端20°で直線的、下端15～28°で湾曲して連続。一部粘土化した0.5～10cm岩片と岩片間の粘土～幅1～2mm粘土細断からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は薄い黄橙色(10YR 7/2)、厚さ80～90cm。 やや軟質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。									-	-	-	-				○	-	-	-	・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(mm) ・脱記の修正(「色」の記載漏れ)
113	31.24	31.28	Hb 上端15～28°で湾曲して、下端38°で波打って連続。0.2～3m/m石英粒、0.5～10cm/mの大半が粘土化した岩片計20～30%を含む「細粒状の「硬質粘土」状」呈する。色調は明赤灰色(2.5R 7/2)、厚さ20～30cm/m	31.24	31.28	Hb 上端15～28°で湾曲して、下端38°で波打って連続。0.2～3mm石英粒、0.5～10cmの大半が粘土化した岩片計20～30%を含む「やや軟質な固結状の「粘土質硬」状」を呈する。色調は明赤灰色(2.5R 7/2)、厚さ20～30cm。 含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。									-	-	-	-				○	○	○	-	・硬主体であるため破砕部内物質の名称を変更した ・上位のHiより粘土化が進んでいるため硬軟を変更した ・細粒部の連続性・直結性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(mm) ・脱記の修正(「色」の記載漏れ)
114	31.28	31.29	Hc-2 38°で上端波打って、下端は直線的に連続。0.2～3m/m石英粒を10～20%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰黄褐(10YR 4/2)、厚さ5～10m/m	31.28	31.29	Hc-2 38°で上端波打って、下端は直線的に連続。0.2～3mm石英粒を10～20%含むやや軟質な漸混じり粘土(ガウジ)。色調は灰黄褐色(10YR 4/2)、厚さ5～10mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。									-	-	-	-				○	-	-	-	・硬を含むため破砕部内物質の名称を変更した ・硬を含みやや軟質であるため硬軟を変更した ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の統一(ガウジ→Hc-2に含んで表現) ・表現の適正化(mm) ・脱記の修正(「色」の記載漏れ)
115	31.29	31.66	Hi 上端38°で直線的に、下端43°で波打って連続。0.5～20cm硬さ「D」主体(他に粘土化、硬さ「D」「E」含む)と岩片間の粘土からなり「粘土混じり岩片状」呈する。色調は にぶい橙(7.5YR 7/3)、厚さ350cm/m(コア長)。	31.29	31.66	Hi 上端38°で直線的に、下端43°で波打って連続。0.5～20cm硬さ「D」主体(他に粘土化、硬さ「D」「E」含む)の岩片と岩片間の粘土からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は にぶい橙色(7.5YR 7/3)、厚さ350cm/m(コア長)。 軟質、含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。									-	-	-	-				○	-	-	-	・硬軟、細粒部の連続性・直結性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・厚さとしてコア長を記載したものは、真幅ではないため削除した ・表現の適正化(mm) ・脱記の修正(「色」の記載漏れ、「の岩片」の記載漏れ)
116	31.15	31.66	変質欄:4ランク	31.15	31.66	変質欄:3ランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲と同様な変質の程度であるため変質のランクを3ランクに変更した	
117	31.66	31.78	岩級区分欄:CL	31.66	31.78	岩級区分欄:D									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	
118	31.78	34.37	D 風化で割れ目ぞいに砂状化が拡大する。岩組織は残留するが、割れ目は消滅するか、しかかっているものが多い。 処々に厚1～3m/m白色軟質粘土脈をはさむ。	31.78	34.37	D 風化で割れ目沿いに砂状化が拡大する。原岩組織は残留するが、割れ目は消滅するか、しかかっているものが多い。 所々に幅1～3mm白色軟質粘土脈を挟む。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い、原岩組織、mm、挟む、所々、厚→幅)	
119	33.00	33.25	粘土化進み、岩組織不明確となる。	-	-	-									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
120	-	-	-	31.91	31.91	27°の割れ目に軟質な幅3mmの褐色粘土を挟む。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・褐色粘土の密集した分布は周囲と異なる状況であるため追記した	
121	-	-	-	31.92	31.92	25°の割れ目に軟質な幅2mmの褐色粘土を挟む。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・褐色粘土の密集した分布は周囲と異なる状況であるため追記した	
122	-	-	-	31.96	31.96	30°の割れ目に軟質な幅1mmの褐色粘土を挟む。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・褐色粘土の密集した分布は周囲と異なる状況であるため追記した	
123	33.35	33.40	硬さ「D」の岩片主体。	-	-	-									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
124	-	-	-	32.45	32.59	8～40°の割れ目沿いに灰白色粘土を挟在する。粘土は一部割目状に分布する。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・網目状の灰白色粘土は周囲と異なる状況であるため追記した	
125	33.60	33.60	5°幅1m/m軟質な赤灰色粘土脈	33.60	33.60	5°幅1mmの軟質赤灰色粘土脈を挟む。									-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(mm) ・文章の適正化(挟む を追加した)	
126	33.77	33.77	7°幅5～8m/mマンガン鉱染部が断状に分布	33.77	33.77	7°幅5～8mmのマンガン鉱染部が断状に分布									-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(mm)	
127	33.79	33.87	硬さ「D」の岩片主体	-	-	-									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
128	33.96	-	以深は岩組織不明瞭な縞った砂状部主体 割れ目の一部は残留するが、消滅しているものが多い。	33.96	-	以深は原岩組織不明瞭な硬質な砂状部主体 割れ目の一部は残留するが、消滅しているものが多い。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(原岩組織、縞った→硬質な)	
129	-	-	-	33.97	33.97	25°の割れ目に幅2～4mmの褐色粘土を挟在する。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・褐色粘土の挟在は周囲と異なる状況であるため追記した	
130	34.37	34.48	破砕帯(主せん断面34.37m)	34.37	34.48	破砕部(最新活動面34.37m)									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一	
131	34.37	34.37	Hc-1 13°で上端直線的、下端波打って連続。0.2m/m石英粒わずか(1%以下)含む軟質な粘土(ガウジ)。ガウジは75°のsj2交差し、2m/m石ズレ変位で切られている。マンガン鉱染伴う。 色調は高褐色(10YR 3/2)、厚さ2～6m/m	34.37	34.37	Hc-1 13°で上端直線的、下端波打って連続。0.2mm石英粒わずか(1%以下)含む軟質な粘土(ガウジ)。ガウジ軟質な粘土は75°のせん断面と交差し、2mmカットせズレ変位で切られている。マンガン鉱染伴う。 色調は高褐色(10YR 3/2)、厚さ2～6mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。									-	-	-	-				○	○	○	-	・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の統一(ガウジ→Hc-1に含んで表現) ・表現の適正化(mm、sj→せん断面、「みかけ」を追加)	
132	34.37	34.48	Hb 上端13°で波打って、下端20°で直線的に連続。0.2～3m/m石英粒、0.5～10m/m粘土化～硬さ「D」岩片を計30%程度含む固結状の「硬質粘土状」呈する。色調は淡黄(5Y 7/3)～明赤灰(2.5YR 7/1)、厚さ90cm/m	34.37	34.48	Hb 上端13°で波打って、下端20°で直線的に連続。0.2～3mm石英粒、0.5～10mm粘土化～硬さ「D」岩片を計30%程度含む固結状の「粘土質硬状」を呈する。色調は淡黄(5Y 7/3)～明赤灰(2.5YR 7/1)、厚さ90mm。 やや軟質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。									-	-	-	-				○	-	-	-	・硬主体であるため破砕部内物質の名称を変更した ・粘土化が進んでいるため硬軟を変更した ・細粒部の連続性・直結性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(mm) ・脱記の修正(「色」の記載漏れ)	
133	34.80	35.00	コアの硬さ欄:5ランク	34.80	35.00	コアの硬さ欄:5ランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクを6ランクに変更した	
134	34.48	35.13	CL 34.59m･29°と34.67m･50°は68°幅1m/m石英脈を切るせん断割れ目(sj)	34.48	35.13	CL 34.59m･29°と34.67m･50°の割れ目は68°幅1mmマンガン脈、一部石英脈をふくんでいる。切るせん断割れ目(sj)と割れ目間沿の岩盤には原岩組織が認められる。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・34.59mの割れ目を境界する岩盤割れ目が見られることや34.67mの割れ目の両側にある石英脈としたものは淡い側はマンガン脈で濃い側は石英脈であり、対とするものではないことから「切る」を「止めている」に変更し、「せん断割れ目(sj)を削除した ・ほとんどが石英脈ではなくマンガン脈であるため記載を変更した ・割れ目及び境辺の状況について追記した ・表現の適正化(mm)	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名 :H27-B-2

○ 記載有り　なし :該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－ :該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード															
	上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「－」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・演種や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・現数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形状、含有物(有機質、異質など)を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、亀裂度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	搬送作業における特記事項 ・コア欠如、コア破砕など		地質名 ・岩種及びその区間深度を明瞭的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、現品の確認・採、現品の含有率などを記載	色調 ・現数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形状、含有物(有機質、異質など)を網羅的に記載。 ・長純毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や現在地の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のテ〜ソ(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	造構構造 ・層理、葉理、級化など	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・被覆岩 ・鉱種岩 ・鉱種	破砕帯 破砕度区分 ・記号(Hc,Hb,Hj) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅(実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・線状構造、複合面構造、葉理構造、明瞭状結土など	最新活動面(認定した場合)	空隙の状況	搬送作業における特記事項 ・コア欠如、コア破砕など	記事を削除・変更・追記した理由
135	35.36	35.46	破砕帯(主せん断面35.40m)	35.36	35.46	破砕部(最新活動面 35.40m)																						・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一
136	35.36	35.39	Hj 上端やや不明瞭で47°で波打って、下端47°で一ヶ所小さく湾曲するが、これ以外は直線的に連続。φ2〜5m/m石英粒、φ3〜5m/m粘土化岩片からなるが、岩片の粘土化進むため構造は不明。「粘土質じり岩片状」〜「粘土質岩片状」呈する。色調は灰黄色(2.5Y 7/2)、厚さ25m/m	35.36	35.39	Hj 上端やや不明瞭で47°で波打って、下端47°で1箇所小さく湾曲するが、これ以外は直線的に連続。φ2〜5mm石英粒、φ3〜5mm粘土化岩片からなるが、岩片の粘土化進むため構造は不明瞭。「粘土質じり岩片状」〜「粘土質岩片状」を呈する。色調は灰黄色(2.5Y 7/2)、厚さ25mm。 やや軟質。含まれる細粒部は明目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。																						・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について適記・修正した ・表現の適正化(やや、mm、1箇所、不詳⇒不明瞭)
137	35.39	35.40	Hc-1 47°で上下端とも波打って連続。上端の一部は不明瞭。φ1〜2m/m石英粒10%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰白(1.5YR 8/1)〜灰褐色(7.5YR 6/2)で不明瞭な細かい縞状模様を呈する。厚さ12〜15m/m	35.39	35.40	Hc-1 47°で上下端とも直線的に連続する。上端の一部は不明瞭。φ1〜3mm石英粒10%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰白(1.5YR 8/1)〜灰褐色(7.5YR 6/2)で不明瞭な細かい縞状模様を呈する。厚さ12〜15mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。										○	○	○	○		○	○		-	-	・上下端の境界は緩わ直線的であるための変更した ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について適記・修正した ・色調の違いは見られず、縞模様は呈していないので縞模様に関する記載を削除した。 ・表現の統一(ガウジ→Hc-1に含んで表現) ・表現の適正化(mm) ・転記の修正(「色」の記載漏れ)
138	35.40	35.46	Hj 上端47°で波打って、下端20〜35°で湾曲して連続。φ2〜3m/m石英粒、φ5m/m粘土化岩片からなる。上端側の一部は晶洞中に石英が多く晶出し、マンガン鉱染を伴う。 全体に「粘土質じりない」粘土質岩片状」呈する。色調は灰黄(2.5Y 7/2)〜褐灰(10YR 4/1)、厚さ40〜45m/m	35.40	35.46	Hj 上端47°で直線的に、下端20〜35°で湾曲して連続。φ2〜3mm石英粒、φ5mm粘土化岩片からなる。上端側の一部は晶洞中に石英が多く晶出し、マンガン鉱染を伴う。 全体に「粘土質じりない」粘土質岩片状」を呈する。色調は灰黄(2.5Y 7/2)〜褐灰色(10YR 4/1)、厚さ40〜45mm。 やや軟質。含まれる細粒部は明目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。															○			-	-	・上端の直線性を上記に合わせて変更した ・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について適記した ・表現の適正化(混じり、mm) ・転記の修正(「色」の記載漏れ)
139	35.46	35.68	D 上下を破砕帯に囲まれ粘土化が進んでいる。	35.46	35.68	D 上下を破砕部に囲まれ粘土化が進んでいる。																						・用語の統一(破砕帯→破砕部)
140	35.68	35.73	破砕帯(主せん断面35.73m)	35.68	35.73	破砕部(最新活動面35.73m)																						・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一
141	35.68	35.72	Hj 上端27°の褐色軟質粘土で波打って、下端20°で不明瞭ながら波打って連続。φ3〜5m/m砂粘土化岩片主体で「粘土質岩片状」呈する。 色調は明褐灰(7.5YR 7/2)、厚さ35〜50m/m	35.68	35.72	Hj 上端27°の褐色軟質粘土で波打って、下端20°で不明瞭ながら波打って連続。φ3〜5mmの粘土化岩片主体で「粘土質じり状岩」を呈する。 色調は明褐灰色(7.5YR 7/2)、厚さ35〜50mm。 やや軟質。含まれる細粒部は明目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。															○			-	-	・基質の粘土分はほとんどないため破砕部内物質の名称を変更した ・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について適記した ・表現の適正化(mm) ・転記の修正(「色」の記載漏れ)
142	35.72	35.73	Hb 上端20°で波打って、下端12°で直線的に連続。φ1〜2m/m石英粒を20%程度含む半固結状の「礫質粘土状」呈する。色調は淡黄色(2.5Y 8/3)、厚さ10m/m	35.72	35.73	Hb 上端20°で波打って、下端12°で直線的に連続。φ1〜2mm石英粒を20%程度含むやや軟質半固結状の「粘土質礫状」を呈する。色調は淡黄色(2.5Y 8/3)、厚さ10mm。 含まれる細粒部は明目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。										○	○	○	○		○	○		-	-	・礫主体であるため破砕部内物質の名称を変更した ・粘土が進んでいるため硬軟を変更した ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について適記した ・表現の適正化(mm)
143	35.73	35.73	Hc-1 12°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を殆んど含まない(5%以下)軟質粘土(ガウジ)。色調は灰黄褐色(10YR 6/2)、厚さ1〜2m/m	35.73	35.73	Hc-1 12°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を殆んど含まない(5%以下)軟質粘土(ガウジ)。色調は灰黄褐色(10YR 6/2)、厚さ1〜2mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。																						・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について適記した ・表現の統一(ガウジ→Hc-1に含んで表現) ・表現の適正化(mm) ・転記の修正(「色」の記載漏れ)
144	35.68	35.92	D 上下を破砕帯に囲まれ、粘土化が進んでいる。	35.68	35.92	D 上下を破砕部に囲まれ、粘土化が進んでいる。																						・用語の統一(破砕帯→破砕部)
145	35.92	35.95	破砕帯(主せん断面35.92m)	35.92	35.95	破砕部(最新活動面35.92m)																						・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一
146	35.92	35.92	Hc-1 25°で上下端とも小さく波打って面順しながら連続。石英粒、岩片は殆んど含まない(5%以下)半固結状の粘土(ガウジ)。色調は灰オリーブ(4.5Y 6/2)、厚さ1〜5m/m	35.92	35.92	Hc-1 25°で上下端とも小さく波打って面順しながら連続して直線性に乏しい。石英粒、岩片は殆んど含まない(5%以下)中硬質な半固結状の粘土(ガウジ)。色調は灰オリーブ色(4.5Y 6/2)、厚さ1〜5mm。																						・細粒部の連続性・直線性について適記した ・表現の統一(ガウジ→Hc-1に含んで表現) ・表現の適正化(mm、半固結状⇒やや硬質な) ・転記の修正(「色」の記載漏れ)
147	35.92	35.95	Hb 上端35°〜下端45°でいずれも小さく波打って連続。φ1〜2m/m石英粒、φ2〜5m/m粘土化岩片を20〜30%含む半固結状の「礫質粘土状」呈する。主せん断面と平行方向に幅1m/m以下の灰赤色粘土細断が散条分布。色調は灰白色(2.5Y 8/2)、厚さ20m/m	35.92	35.95	Hb 上端35°〜下端45°でいずれも小さく波打って連続。φ1〜2mm石英粒、φ2〜5mm粘土化岩片を20〜30%含むやや硬質な半固結状の「礫質砂状〜粘土質礫状」を呈する。上位のHc-1の粘土と平行方向に幅1mm以下の灰赤色粘土細断が散条分布。色調は灰白色(2.5Y 8/2)、厚さ20mm。 含まれる細粒部は明目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。										○	○	○	○		○			-	-	・砂または礫主体であるため破砕部内物質の名称を変更した ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について適記した ・主せん断面は評価結果であるため記載しないことと、上位のHc-1の粘土に変更した ・表現の適正化(mm、半固結状⇒やや硬質な)
148	35.95	36.76	D	－	－	－																						
149	－	36.05	36.05m以浅は粘土化進み岩組織が消滅している。	－	－	－																						
150	36.05	－	36.05m以深、割れ目、岩組織ともに残留。	－	－	－																						
151	36.60	36.70	マンガン鉱染が著しい。	－	－	－																						
152	36.76	37.12	CL 割れ目ぞいに砂状化する部分もある。	36.76	37.12	CL 割れ目沿いに砂状化する部分もある。																						・表現の適正化(沿い)
153	37.12	37.60	CM 岩片は硬いが(硬さ「b」)、一部の割れ目で幅1〜3m/m之薄く砂状化する。	37.12	37.60	CL 岩片は硬いが(硬さ「c」)、一部の割れ目で幅1〜3mm之薄く砂状化する。																						・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した ・表現の適正化(mm)
154	37.12	37.60	(コアの硬さ)軟:bランク (岩級区分)軟:CM	37.12	37.60	(コアの硬さ)軟:cランク (岩級区分)軟:CL																						・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した
155	37.12	45.96	(変質帽):3ランク	37.12	45.96	(変質帽):2ランク																						・変質の程度が弱いため変質のランクを2ランクに変更した
156	37.60	38.05	CL 割れ目ぞいに幅10m/m程度と風化が進行している。	37.60	38.05	CL 割れ目沿いに幅10mm程度で風化が進行している。																						・表現の適正化(沿い、mm、と⇒で)
157	38.05	38.46	:割れ目状態:bランク :岩級区分:CM	38.05	38.46	:割れ目状態:cランク :岩級区分:CL																						・挟在物を伴う割れ目が多いため割れ目状態のランクをcランクに変更した ・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
158	38.05	38.46	CM 岩片は硬質で割れ目少なく、割れ目には挟雑物はほとさまない。	38.05	38.46	CM 岩片は硬質で割れ目少なく、割れ目には粘土や砂を挟む。																						・割れ目に粘土や砂を挟むため変更した
159	38.46	39.78	CL	－	－	－																						
160	39.60	39.69	硬さ「D」ないし「E」で、上端側は砂状化している。	－	－	－																						

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名 H27-B-2

○ :記載有り　なし:該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－ :該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード												
			記事			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)											破砕帯								
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形態、含有物、有機質、異質など を明確的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、海成度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	鉱産作業における特記事項 ・コア欠如、コア喪失など	地質名 ・岩種及びその区間深度を明確的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、岩盤の種類・硬・脆・風化の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	整理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や換言物の種類を明確的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のマメリ(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈、湧石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・鉱物脈 ・岩種	破砕度区分 ・記号(H_0,H_1,H_2) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・級化構造、複合面構造、葉等構造、割目状態など	長新活動面(認定した場合)	空隙の状況	鉱産作業における特記事項 ・コア欠如、コア喪失など	記事を削除・変更・追記した理由
161	38.46	39.37	(風化欄)δランク	38.46	39.37	(風化欄)ァランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・風化の程度はやや弱いため風化のランクをァランクに変更した
162	39.37	39.78	(コアの硬さ欄)Cランク	39.37	39.78	(コアの硬さ欄)Dランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアは軟質であるためコアの硬さのランクをDランクに変更した
163	39.78	40.23	D 岩組織と割れ目は残留。一部で割れ目ぞいに厚さ5～10m/mで砂状化。	39.78	40.23	D 原岩組織と割れ目は残留。一部で割れ目沿いに厚さ5～10mmで砂状化。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の適正化(原岩組織、沿い、mm)
164	39.78	40.23	(岩級区分欄)D	39.78	40.23	(岩級区分欄)CL									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
165	40.23	41.90	CL 20～40°割れ目が主体。一部の割れ目は消滅しかかっているものもある。 割れ目には薄く砂、粘土、マンガンをはさむことが多い。	40.23	41.90	CL 20～40°割れ目が主体。一部の割れ目は消滅しかかっているものもある。 割れ目には薄く砂、粘土、マンガンを挟むことが多い。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の適正化(挟む)
166	－	－	－	40.30	40.80	高角度割れ目沿いにマンガン濃集が見られる									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	・マンガン濃集を伴う高角度割れ目は周囲と異なる状況であるため追記した
167	41.70	41.81	δ5～10m/mに破砕化するが、これはコアチューブ引きよげ時に砕けたものである	41.70	41.81	δ5～10mmに破砕化するが、これはコアチューブ引きよげ時に砕けたものである									－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	・表現の適正化(mm)
168	41.90	43.94	D 強風化により割れ目ぞいの砂状化が拡大。 緑った砂状部と硬さのδ10～20m/m岩片からなる「砂礫状」を呈する部分が主体。 岩組織や割れ目の一部は残留している。 部分的に粘土化部やマンガン鉱染部も伴う。	41.90	43.94	D 強風化により割れ目沿いの砂状化が拡大。 硬質な砂状部と硬さのδ10～20mm岩片からなる「砂礫状」を呈する部分が主体。 原岩組織や割れ目の一部は残留している。 部分的に粘土化部やマンガン鉱染部も伴う。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の適正化(沿い、緑った⇒硬質な、mm、原岩組織) ・脚記の修正(「」の記載漏れ)
169	－	－	－	42.30	42.30	45°の割れ目に幅10mmの灰黄色粘土を挟在する。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	・灰黄色粘土を挟在する割れ目は周囲と異なる状況であるため追記した
170	43.09	43.30	硬さ(D)が中石的に残留している。	－	－	－									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
171	43.09	43.30	(コアの硬さ欄)Eランク	43.09	43.30	(コアの硬さ欄)Dランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・上記に合わせてコアの硬さのランクをDランクに変更した
172	43.50	43.71	硬さ(D)が中石的に残留している。	－	－	－									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
173	43.50	43.71	(コアの硬さ欄)Eランク	43.50	43.71	(コアの硬さ欄)Dランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・上記に合わせてコアの硬さのランクをDランクに変更した
174	43.46	43.55	割れ目ぞいにマンガン鉱染が著しい。 色調は黒褐色化する。	43.46	43.55	割れ目沿いにマンガン鉱染が著しい。 色調は黒褐色化する。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の適正化(沿い)
175	43.94	45.96	CL 割れ目ぞいに風化で砂状化が進む部分も含む。 一部の岩片は硬さ(C)と硬質で残留する。	43.94	45.96	CL 割れ目沿いに風化で砂状化が進む部分も含む。 一部の岩片は硬さ(C)と硬質で残留する。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の適正化(沿い)
176	44.77	44.77	45°割れ目ぞい幅20～25m/mは淡緑灰色化する。 緑泥石化変質と推定される。	44.77	44.77	45°割れ目沿い幅20～25mmは淡緑灰色化する。 緑泥石化変質と推定される。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の適正化(沿い、mm)
177	45.10	45.25	硬さ(C)の硬質岩片が分布	－	－	－									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
178	45.10	45.25	(コアの硬さ欄)Dランク	45.10	45.25	(コアの硬さ欄)Cランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・上記に合わせてコアの硬さのランクをCランクに変更した
179	45.96	46.31	硬さ(C)で硬質。割れ目は厚さ1～3m/m程度で砂状化する。	45.96	46.31	硬さ(C)で硬質。割れ目は厚さ1～3mm程度で砂状化する。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の適正化(mm)
180	46.31	46.49	(割れ目状態欄)Uランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Dランク	46.31	46.49	(割れ目状態欄)Uランク (コアの形状欄)Uランク (コアの硬さ欄)Eランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアに合わせて割れ目状態、コアの形状、コアの硬さのランクを変更した
181	46.31	47.90	(変質欄)3ランク	46.31	47.90	(変質欄)2ランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・周囲と同程な変質の程度であるため変質のランクを2ランクに変更した
182	46.73	46.90	(割れ目状態欄)Uランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Dランク	46.73	46.90	(割れ目状態欄)Uランク (コアの形状欄)Uランク (コアの硬さ欄)Eランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアに合わせて割れ目状態、コアの形状、コアの硬さのランクを変更した
183	46.73	47.06	(岩級区分欄)CL	46.73	47.06	(岩級区分欄)D									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・上記の変更に伴い、岩級を変更した
184	46.74	46.85	割れ目ぞいに砂状化進み、硬さ(E)が主体。	46.73	46.85	割れ目沿いに砂状化進み、硬さ(E)が主体。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアに合わせて上端深度を変更した ・表現の適正化(沿い)
185	46.90	47.06	(コアの硬さ欄)Dランク	46.90	47.06	(コアの硬さ欄)Cランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・記事欄の記載と整合しないため、変更した
186	47.90	47.06	珪化により二次石英がδ1～3m/m既点状～幅1～2m/mの脈状で晶出し、全体が硬さ(C)と硬質。	46.90	47.06	珪化により二次石英がδ1～3mm既点状～幅1～2mmの脈状で晶出し、全体が硬さ(C)と硬質。									－	なし	○	－	－	－	－	－	－	－	・表現の適正化(mm) ・脚記の修正(47.90⇒46.90)
187	47.06	47.50	D 岩組織と割れ目は消滅している。 硬さ(D)主体のδ3～10m/mの細岩片化している。	46.73	47.50	D 原岩組織と割れ目は消滅している。 硬さ(D)主体のδ3～10mmの細岩片化している。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	・上記の変更に伴い、D級の上端深度を変更した ・表現の適正化(原岩組織、mm)
188	47.50	48.80	CL 47.85m以浅は硬さ(D)主体、47.85m以深は硬さ(C)主体で、47.85m以浅は風化で割れ目ぞいの一部で砂状化進み、岩片自身も軟質化している。	47.50	48.08	CL 47.85m以浅は硬さ(D)主体、47.85m以深は硬さ(C)主体で、47.85m以浅は風化で割れ目沿いの一部で砂状化進み、岩片自身も軟質化している。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアの上下を入れ直したため、入れ直し後の深度に変更した ・表現の適正化(沿い)
189	47.85	48.08	(風化欄)δランク	47.85	48.08	(風化欄)ァランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・風化の程度はやや弱いため風化のランクをァランクに変更した
190	48.08	48.12	(割れ目状態欄)εランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Cランク (変質欄)2ランク	48.08	48.12	(割れ目状態欄)αランク (コアの形状欄)Uランク (コアの硬さ欄)Eランク (変質欄)4ランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアに合わせて割れ目状態、コアの形状、コアの硬さ、変質のランクを変更した ・48.88～48.92m～48.08～48.12m コアの上下が入れ替わっていたため修正
191	48.12	48.16	上端38°、下端20°の割れ目に囲まれ緑った砂状化を呈する。	48.84	48.88	上端38°、下端38°の割れ目に囲まれ硬質な砂状化を呈する。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアの上下を入れ直したため、入れ直し後の深度に変更した ・上下が入れ替わったので上端と下端の傾斜も入れ替えた ・表現の適正化(緑った⇒硬質な)
192	48.12	48.52	(風化欄)δランク	48.12	48.52	(風化欄)ァランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・風化の程度はやや弱いため風化のランクをァランクに変更した
193	48.40	48.49	48.40～48.49mも上記同様に緑った砂状化呈する。	48.51	48.60	硬質な砂状化呈する。									－	なし	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアの上下を入れ直したため、入れ直し後の深度に変更した ・表現の適正化(緑った⇒硬質な)
194	48.49	48.88	60～70°割れ目主体。割れ目に砂や粘土の挟在物が分布する。(これら割れ目は主せん断面と同方向に近い)	48.12	48.51	60～70°割れ目主体。割れ目に砂や粘土の挟在物が分布する。(これら割れ目は上位の破砕部と同方向に近い)									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアの上下を入れ直したため、入れ直し後の深度に変更した ・主せん断面は計画結果であるため記載せず、上位の破砕部に変更した
195	48.52	48.85	(割れ目状態欄)εランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Cランク	48.52	48.85	(割れ目状態欄)αランク (コアの形状欄)Uランク (コアの硬さ欄)Eランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアに合わせて割れ目状態、コアの形状、コアの硬さのランクを変更した
196	48.85	49.08	(風化欄)δランク	48.85	49.08	(風化欄)ァランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・風化の程度はやや弱いため風化のランクをァランクに変更した
197	48.88	48.92	(割れ目状態欄)εランク (コアの形状欄)Uランク (コアの硬さ欄)Eランク (変質欄)4ランク (岩級区分欄)D	48.88	48.92	(割れ目状態欄)εランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Cランク (変質欄)2ランク (岩級区分欄)CL									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアに合わせて割れ目状態、コアの形状、コアの硬さ、変質、岩級のランクを各ランクに変更した ・48.88～48.92m～48.08～48.12m コアの上下が入れ替わっていたため修正

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H27-B-2）

孔名：H27-B-2

○：記載有り　　なし：該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　　－：該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード													
			記事			記事 （変更箇所を朱書きで表示） （変更していないものは「-」で表示）											破砕帯									
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の様態及び形状、含有物（有機質、貝殻など）を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて 硬度、亀裂度、含水状態などを記載。	堆積構造 （層理、葉理、級化など）	鄙遠作業における特記事項 ・コア欠如、コア喪失など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、岩石の種類・性、岩盤の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	整理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間を束ねて記載。 ・長純等の代表的な割れ目の見かけの傾斜や挟在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のテ ペリ（スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載。	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など 被覆岩 ・岩種	破砕度区分 ・記号（Hc,Hb,Hf） ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 （実測できる場合）	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬度 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、長純も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・破砕構造、複合面構造、葉理構造、網目状粘土など	最新活動面（認定した場合）	空隙の状況	鄙遠作業における特記事項 ・コア欠如、コア喪失など	記事を削除・変更・追記した理由
198	48.88	48.88	(破砕度区分欄)Hc-2	48.88	48.88	(破砕度区分欄)空欄									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・48.88～48.92m～48.08～48.12m コアの上下が入れ替わっていたため修正
199	48.88	48.92	(破砕度区分欄)Hb	48.88	48.92	(破砕度区分欄)空欄									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・48.88～48.92m～48.08～48.12m コアの上下が入れ替わっていたため修正
200	48.88	48.92	破砕帯(主せん断面48.88m)	48.08	48.12	破砕部(最新活動面48.12m)									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・用語の統一（破砕帯→破砕部） ・最新活動面という用語に統一 ・48.88～48.92m～48.08～48.12m コアの上下が入れ替わっていたため修正 ・コアを入れ替え後の最新活動面深度を記載した
201	48.88	48.92	Hb 上端56°、下端53°でいずれも直線的に連続。φ1～2mm石英粒、φ3～5mm硬さ「D」岩片を20～30%含む。半固結状の「稀質粘土状」量する。下端部にマンガン鉱染を伴う。色調は灰黄褐（10YR 4/2）～黒褐色（10YR 3/1-下端部のみ）。厚さ20m/m	48.08	48.12	Hb 上端53°、下端56°でいずれも直線的に連続。φ1～2mm石英粒、φ3～5mm硬さ「D」岩片を20～30%含む。やや硬質な「粘土質稀状」を量する。上端部にマンガン鉱染を伴う。色調は灰黄褐（10YR4/2）～黒褐色（10YR3/1上端部のみ）。厚さ20mm。 含まれる細粒部の連続性・直線性がさして 原岩組織が認められる岩片を主体とし、長純も細粒化した岩片からなる組織はマンガン汚染で不明。									-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	・48.88～48.92m～48.08～48.12m コアの上下が入れ替わっていたためコアに合わせて深度を変更して記事を書き直した ・検査体であるための破砕部内物質の名称を変更した ・表現の適正化（半固結状→やや硬質な） ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし長純も細粒化した岩片からなる組織について追記した	
202	48.88	48.88	Hc-2 56°で上下端とも直線的に連続。φ0.5～1m/mの石英粒を20%程度含む半固結状の粘土（ガウジ）。色調は、黒褐色（10YR 3/1）、厚さ1m/m、マンガン鉱染を伴っている。	48.12	48.12	Hc-2 56°で上下端とも直線的に連続。φ0.5～1mmの石英粒を20%程度含むやや硬質な稀混じり粘土状ガウジ。色調は黒褐色（10YR 3/1）、厚さ1mm、マンガン鉱染を伴っている。									-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	・48.88～48.92m～48.08～48.12m コアの上下が入れ替わっていたためコアに合わせて深度を変更して記事を書き直した ・表現の適正化（半固結状→やや硬質な） ・検を含むための破砕部内物質の名称を変更した ・表現の統一（ガウジ→Hc-2に含んで表現）	
203	48.08	48.12	(破砕度区分欄)空欄	48.08	48.12	(破砕度区分欄)Hb									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・48.88～48.92m～48.08～48.12m コアの上下が入れ替わっていたためコアに合わせて深度を変更した
204	48.12	48.12	(破砕度区分欄)空欄	48.12	48.12	(破砕度区分欄)Hc-2									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・48.88～48.92m～48.08～48.12m コアの上下が入れ替わっていたためコアに合わせて深度を変更した
205	48.92	52.42	CL 幅は長さ5cm前後の粗粒状コアが主体	48.12	52.42	CL 幅は長さ5cm前後の粗粒状コアが主体									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・48.88～48.92m～48.08～48.12m コアの上下が入れ替わっていたためコアに合わせて深度を変更した ・コアに合わせて下端深度を変更した
206	49.00	49.34	割れ目ぞいに風化・砂状化が進み、コアチューブ引上げ時に乱され、外見は硬状コアを呈している。 割れ目ぞいに風化で砂状化するものが主体。密着割れ目も風化でハンマーの打撃で分離し易い。 硬さ「C」が主体であるが、風化で軟化した硬さ「D」や逆に堅硬な硬さ「B」も含む。	49.00	49.34	割れ目沿いに風化・砂状化が進み、コアチューブ引上げ時に乱され、外見は硬状コアを呈している。 割れ目沿いに風化で砂状化するものが主体。密着割れ目も風化でハンマーの打撃で分離し易い。 硬さ「C」が主体であるが、風化で軟質化した硬さ「D」や逆に堅硬な硬さ「B」も含む。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	・表現の適正化（沿い、軟質化） ・直上の記事に同じ内容の記載があるため削除した	
207	49.08	49.42	(コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Cランク	49.08	49.42	(コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Dランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲と比べて割れ目が多く、コアは軟質であるためコアの形状、コアの硬さのランクを変更した
208	50.44	50.67	硬さ「B」で堅硬、上下端は砂状化している。	-	-	-									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
209	50.44	50.67	(コアの硬さ欄)Cランク	50.44	50.67	(コアの硬さ欄)Bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上記に合わせてコアの硬さのランクをBランクに変更した
210	50.11	50.44	(コアの形状欄)Vランク	50.11	50.44	(コアの形状欄)Vランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲と比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した
211	50.66	51.06	(コアの形状欄)Vランク	50.66	51.06	(コアの形状欄)Vランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲と比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した
212	50.81	51.06	(コアの硬さ欄)Cランク	50.81	51.06	(コアの硬さ欄)Dランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアは軟質であるためコアの硬さのランクをDランクに変更した
213	51.15	51.50	上下位よりも石英粒径がφ5～15m/mと大型化する（上下位側はφ5m/m前後主体）。	51.15	51.50	上下位よりも石英粒径がφ5～15mmと大型化する（上下位側はφ5mm前後主体）。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(mm)
214	51.51	-	51.51m以深は風化が進み、割れ目ぞいの砂状化が広がり、φ10～30m/m硬さ「D」岩片を含む「砂礫状」を量する部分もある。	51.51	-	51.51m以深は風化が進み、割れ目沿いの砂状化が広がり、φ10～30mm硬さ「D」岩片を含む「砂礫状」を量する部分もある。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い、mm)
215	51.51	52.42	(変質欄)3ランク	51.51	52.42	(変質欄)2ランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲と同程度の変質であるため変質のランクを2ランクに変更した
216	52.18	52.22	「細礫混じり粗粒砂」状量する	52.18	52.22	「細礫混じり粗粒砂」状を量する(コアチューブの引き上げ箇所)									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	・コアチューブの引き上げ箇所を追記した
217	52.42	52.99	CM 岩片は硬質であるが一部に密着度の低い割れ目も含んでいる。 割れ目は厚さ2～3m/mで砂状化することが多い。	52.42	52.99	CM 岩片は硬質であるが一部に密着度の低い割れ目も含んでいる。 割れ目は厚さ2～3mmで砂状化することが多い。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(mm)
218	52.99	53.20	CL 割れ目ぞいに砂状化進む。消滅しかかっている割れ目が多い。	52.99	53.20	CL 割れ目沿いに砂状化進む。消滅しかかっている割れ目が多い。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い)
219	52.99	53.20	(岩級区分欄)CL	52.99	53.20	(岩級区分欄)D									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
220	52.99	54.60	(変質欄)3ランク	52.99	54.60	(変質欄)2ランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上位と同様な変質の程度であるため変質のランクを2ランクに変更した
221	53.20	53.55	(風化欄)2ランク	53.20	53.55	(風化欄)3ランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲と同様な風化の程度であるため風化のランクを3ランクに変更した
222	53.20	53.55	D 岩組織は残留するが、割れ目は消滅するか、しかかっているものが多い。硬さ「D」のφ10m/m程度の岩片が散在している。	53.20	53.55	D 原岩組織は残留するが、割れ目は消滅するか、しかかっているものが多い。硬さ「D」のφ10mm程度の岩片が散在している。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(原岩組織、mm)
223	53.55	54.10	CL 一部で硬さ「C」岩片も含み全体不均質。 長石は大半が白濁化する。	-	-	-									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
224	54.10	54.72	D 風化で砂状化著しい	-	-	-									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
225	54.37	54.46	硬さ「E」の岩片が残留する。	54.37	54.46	硬さ「D」の岩片が残留する。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・脱記の修正（硬さE→硬さD）
226	54.37	54.46	(コアの硬さ欄)Eランク	54.37	54.46	(コアの硬さ欄)Dランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上記に合わせてコアの硬さのランクをDランクに変更した
227	54.60	-	54.60m以深では粘土化も進む。	-	-	-									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
228	54.60	55.00	(変質欄)4ランク	54.60	54.72	(変質欄)3ランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・変質の程度がやや強いため変質のランクを3ランクに変更した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名：H27-B-2

○：記載有り　　なし：該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　　－：該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード															記事を削除・変更・追記した理由
			記事			記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)											破砕帯										
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく記載されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく記載されているか？ ☑	地質名 ・凍結や細かい亘層などを記事欄に記載	色調 ・現数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形状、含有物(有機質、異物など)を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬度、亀裂度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、薄理、級化など	鋸遠作業における特記事項 ・コア欠如、コア喪失など	地質及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、岩盤の種類・性、岩盤の含有率などを記載	色調 ・現数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	熱物質 ・石英脈、凍石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・鉱物 ・岩種	破砕帯区分 ・記号(Hc,Hs,Hi) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅(実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・組状構造、複合面構造、葉理構造、網目状粘土など	最新活動面(認定した場合)	空隙の状況	鋸遠作業における特記事項 ・コア欠如、コア喪失など	
229	54.72	54.77	破砕帯(主せん断面、54.77m)	54.72	54.77	破砕部(最新活動面、54.77m)									-	-	-							-	-		・用語の統一(「破砕帯→破砕部」) ・最新活動面という用語に統一
230	54.72	54.77	Hb 上端48°で波打ち、下端39°で直線的に連続、φ2～4m/m石英粒と粘土化したφ5～10m/m岩片を30～50%含む軟質な「破質粘土状(ないし「硬質しり粘土状」)」を呈する、マンガン鉱染を一部に伴う。 色調は明褐灰(5YR 7/2)、厚さ40～50m	54.72	54.77	Hb 上端48°で波打ち、下端39°で直線的に連続、φ2～4mm石英粒と粘土化したφ5～10mm岩片を30～50%含む軟質な「粘土質硬状」を呈する、マンガン鉱染を一部に伴う。 色調は明褐灰色(5YR 7/2)、厚さ40～50mm。 含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。									-	-	○	○	○	○		○		-	-	・硬主体であるため破砕部内物質の名称を変更した ・細粒部の連続性・連続性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の修正(mm) ・脈記の修正(「色」の記載漏れ、単位の記載ミス(mm))	
231	54.77	54.77	Hc-1 39°で上下端とも直線的に連続、石英粒、岩片は殆んど含まない(5%以下)軟質粘土(ガウジ)、色調は灰褐(7.5YR 5/2)、厚さ3m/m	54.77	54.77	Hc-1 39°で上下端とも直線的に連続、石英粒、岩片は殆んど含まない(5%以下)軟質粘土(ガウジ)、色調は灰褐色(7.5YR 5/2)、厚さ3mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。									-	-								-	-	・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の統一(ガウジ→Hc-1に含んで表現) ・表現の修正(mm) ・脈記の修正(「色」の記載漏れ)	
232	54.77	55.24	D 全体に粘土化進む	-	-	-									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
233	-	55.00	55.00m以浅では岩片やマンガン鉱染部を斑状に含む	-	-	-									-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-		
234	55.00	-	55.00m以深では白色粘土化部や赤灰色粘土細脈を多く含む。	-	-	-									-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
235	55.24	57.70	CL 硬さ「D」岩片が主体 割れ目ぞいに風化が進む部分では硬さ「E」や締った砂状部も分布する。 割れ目ぞいにマンガン鉱染受け、割れ目面とその周辺は黒褐色化することが多い。	55.24	57.70	CL 硬さ「D」岩片が主体 割れ目沿いに風化が進む部分では硬さ「E」や硬質な砂状部も分布する。 割れ目沿いにマンガン鉱染受け、割れ目面とその周辺は黒褐色化することが多い。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・表現の適正化(沿い、締った⇒硬質な)
236	55.24	60.26	(変質欄)3ランク	55.24	60.26	(変質欄)2ランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・変質の程度がやや弱いため変質のランクを2ランクに変更した
237	56.83	57.00	割れ目ぞいの風化が進み、砂状化。残留する硬さDの φ5～10m/m岩片とともに外見上は砂礫状を呈する。	56.83	57.00	割れ目沿いの風化が進み、砂状化。残留する硬さDの φ5～10mm岩片とともに外見上は砂礫状を呈する。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・表現の適正化(沿い、mm) ・文章の適正化(コア観察は外見を観察しているため削除)
238	57.00	57.45	密着度の低い割れ目が密集し、φ10m/m程度に細粒化している。 岩片の硬さは、硬さ「C」と硬質なものも多く含む。	57.00	57.45	密着度の低い割れ目が密集し、φ10mm程度に細粒化している。 岩片の硬さは、硬さ「C」と硬質なものも多く含む。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・表現の適正化(mm) ・脈記の修正(細粒化⇒細岩片化)
239	57.45	57.70	割れ目ぞいに砂状化が進み、全体に土位より軟化が進む。	57.45	57.70	割れ目沿いに砂状化が進み、全体に土位より軟質化が進む。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・表現の適正化(沿い、軟質化)
240	57.70	57.99	(コアの硬さ欄)6ランク (岩級区分欄)D	57.70	57.99	(コアの硬さ欄)5ランク (岩級区分欄)CL									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・コアは軟質であるためコアの硬さのランクをDランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した
241	57.70	57.99	D 岩組織と割れ目は残留するが、全体に風化による砂状化部が拡大し、締った砂状部が主体である。	57.70	57.99	CL 原岩組織と割れ目は残留するが、全体に風化による砂状化部が拡大し、一部は硬質な砂状部となる									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・上記の変更に伴い、岩級を変更した ・表現の適正化(原岩組織、締った⇒硬質な) ・砂状部は局所的であるため変更した
242	57.99	58.28	CL 岩片は硬いが30～30°割れ目が10～30m/m間隔で同方向に発達。 マンガン鉱染も伴う。	57.99	58.28	CL 岩片は硬いが30～30°割れ目が10～30mm間隔で同方向に発達。 マンガン鉱染も伴う。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・表現の適正化(mm)
243	58.28	58.73	CM マンガン鉱染で割れ目は黒褐色化するが、砂や粘土などの鉄在物は分布しない。	-	-	-									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
244	58.28	58.73	(岩級区分欄)CM	58.28	58.73	(岩級区分欄)CL									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
245	58.73	59.71	CL 割れ目ぞいに砂状化し、密着度の低い割れ目も多い。 全体として脆い。	58.73	59.71	CL 割れ目沿いに砂状化し、密着度の低い割れ目も多い。 全体として脆い。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い)
246	59.35	59.54	硬さ「C」主体	-	-	-									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
247	59.71	60.00	D 強風化で締った砂状部主体。φ10m/m前後の岩片が残留し、「砂礫状」を呈する。	59.71	60.00	D 強風化で硬質な砂状部主体。φ10mm前後の岩片が残留し、「砂礫状」を呈する。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(締った⇒硬質な、mm)
248	60.00	60.26	CL 50～55°割れ目が主体。 割れ目ぞいにマンガン鉱染受ける。	60.00	60.26	CL 50～55°割れ目が主体。 割れ目沿いにマンガン鉱染受ける。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い)
249	60.00	60.26	(岩級区分欄)CL	60.00	60.26	(岩級区分欄)D									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
250	60.26	60.69	破砕帯(主せん断面60.58m)	60.26	60.69	破砕部(最新活動面60.58m)									-	-	-							-	-		・用語の統一(「破砕帯→破砕部」) ・最新活動面という用語に統一 ・粘土の下端の方がより直線的であるため最新活動面深度を変更した。
251	60.26	60.58	Hi 上端は28°で一部消滅しかける不明瞭部からなる直線的な割れ目、下端は18°で波打って連続、φ5～10m/m、硬さ「E」岩片と、岩片間は風化で砂状化が拡大した「硬質砂」状を呈する。下端側に主せん断面と同方向の細かい割れ目が発達。色調はにぶい黄橙(10YR 6/4)、厚さ320m/m(コア長)。	60.26	60.58	Hi 上端は28°で一部消滅しかける不明瞭部からなる直線的な割れ目、下端は18°で波打って連続、φ5～10mm、硬さ「E」岩片と、岩片間は風化で砂状化が拡大した「硬質砂」状を呈する。下端側に平行なHc-1の粘土と同方向の細かい割れ目が発達。色調はにぶい黄橙色(10YR 6/4)、厚さ320m/m(コア長)。 機械的に全体が「硬質砂状化」。含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。									-	-		○				○		-	○	・細粒部の連続性・連続性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・主せん断面は評価結果であるため記載しないことし、下位のHc-1の粘土に変更した ・厚さとしてコア長を記載したものは、真値ではないため削除した ・機械割れした部分について追記した ・表現の修正(mm) ・脈記の修正(「色」の記載漏れ) ・文章の適正化(不明瞭部は消滅しかけると同意であるため削除した)	
252	60.58	60.59	Hc-1 18°で上下端とも波打って連続、φ1m/m石英粒を約20%含む軟質粘土(ガウジ)、色調は明褐灰(5YR 7/2)、厚さ10～12m/m。	60.58	60.59	Hc-1 18°で上下端とも波打って連続、φ1mm石英粒を約20%含む軟質粘土(ガウジ)、色調は明褐灰色(5YR 7/2)、厚さ10～12mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。									-	-	-							-	-	・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の統一(ガウジ→Hc-1に含んで表現) ・表現の適正化(mm、軟質⇒軟質) ・脈記の修正(「色」の記載漏れ)	
253	60.59	60.69	Hi 上端18°で、下端37°割れ目でいずれも波打って連続、φ5～20m/m硬さ「E」岩片と岩片間の粘土化～砂状化部からなる、色調は明褐灰(7.5YR 7/2)、厚さ100m/m(コア長)。	60.59	60.69	Hi 上端18°で、下端37°割れ目でいずれも波打って連続、φ5～20mm硬さ「E」岩片と岩片間の粘土化～砂状化部からなる粘土混じり礫状を呈する。色調は明褐灰色(7.5YR 7/2)、厚さ100m/m(コア長)。やや軟質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。									-	-	-					○		-	-	・破砕部内物質、硬軟、細粒部の連続性・連続性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・厚さとしてコア長を記載したものは、真値ではないため削除した ・表現の適正化(mm)	
254	60.69	61.29	D 大半が風化で砂状化	-	-	-									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名：H27-B-2

○：記載有り　　なし：該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　　－：該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード															
			記事			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)												破砕帯									記事を削除・変更・追記した理由
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び粘土、含有物(有機質、異質など)を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、海況度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、薄層、細化など	鉛直作業における特記事項 ・コア欠如、コア破砕など	地質名 ・岩種及びその区間深度を明瞭的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は、岩品の種類・性、岩品の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	風化状態 ・岩盤の色調、硬の種類及び粘土、含有物(有機質、異質など)を網羅的に記載。 ・長崎海の代表的な岩の見かけの傾斜や接在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な岩の見かけがあれば、岩の節隙、節の幅、岩目面の色調、岩の目面のテ・ペリ(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・堆積岩 ・岩種	破砕帯 破砕度区分 ・記号(Hc,Hb,Hj) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅(実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・細状構造、葉理構造、葉構造、岩目状粘土など	最新活動面(認定した場合)	空隙の状況	鉛直作業における特記事項 ・コア欠如、コア破砕など	
255	61.29	61.69	破砕帯(主せん断面61.41m)<D-1>	61.29	61.69	破砕部(最新活動面61.43m)<D-1>									-	-	-	-		-	-	-	-	-		・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一 ・粘土の中の直線的な面を最新活動面として深度を変更した ・破砕帯名は評価であるため削除した
256	61.29	61.41	H9 上端45°、下端50°でいずれも直線的に連続。主せん断面とは同方向の45°岩目とこれに斜交する岩目間で0.5～10mmに岩片化した岩片と、一部の岩片間に分布する61mm以下の軟質白色粘土からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR 7/4)、厚さ100mm/m	61.29	61.41	H9 上端45°、下端50°でいずれも直線的に連続。下位のHc-1の粘土と主せん断同方向の45°岩目とこれに斜交する岩目間で0.5～10mmに岩片化した岩片と、一部の岩片間に分布する61mm以下の軟質白色粘土からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい橙色(7.5YR 7/4)、厚さ100mm やや軟質、含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。																							・主せん断面は評価結果であるため記載しないことと、下位のHc-1の粘土に変更した ・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(ほぼ、mm) ・脱記の修正(「色」の記載漏れ)
257	61.41	61.43	Hc-1 50°で上端は直線的に、下端は波打って連続。φ1～2m/m石英粒、φ2m/m岩片を約5%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰黄褐(10YR 4/2)、厚さ5～15m/m	61.41	61.43	Hc-1 50°で上端は直線的に、下端は波打って連続。φ1～2mm石英粒、φ3mm岩片を約3%含むやや軟質な粘土(ガウジ)。色調は灰黄褐色(10YR 4/2)、厚さ5～15mm 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。									○	○	○	○								・周囲と同様な硬さであるため硬軟を変更した ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の統一(ガウジ→Hc-1に含んで表現) ・表現の適正化(mm) ・脱記の修正(「色」の記載漏れ)
258	61.43	61.59	H9 上端50°で、下端60°で不明瞭にいずれも波打って連続。硬さ「D」のφ5m/m岩片と、岩片間の既点状～細断状(幅1m/m)軟質白粘土からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。上端側は粘土化著しい部分がある。色調はにぶい橙(7.5YR 6/4)～灰白色(10YR 8/2)、厚さ260m/m(コア長)	61.43	61.69	H9 上端50°で、下端60°で不明瞭にいずれも波打って連続。硬さ「D」のφ5mm岩片と、岩片間の既点状～細断状(幅1mm)軟質白色粘土からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。上端側は粘土化著しい部分がある。色調はにぶい橙(7.5YR 6/4)～灰白色(10YR 8/2)、厚さ260mm<コア長> 61.43～61.50mは粘土混じり硬状を呈し、やや軟質、含まれる細粒部は明目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。 61.50～61.69mは粘土混じり硬状を呈し、やや軟質、含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。									-	-	-	-								・含まれる細粒部の状態で2つの深度に区分した ・硬軟、破砕部の物質、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・厚さはコア長を記載したものは、実際ではないため削除した ・表現の適正化(mm)
259	61.43	61.50	(変質層)4ランク	61.41	61.50	(変質層)4ランク									-	-	-	-		-	-	-	-	-		・コアに合わせて上端深度を変更した
260	61.69	62.39	CL 45～60°とこれに斜～直交する岩目が多いが、62.00m以浅ではこれらが消滅しかかっているものが多い。	-	-	-									-	○	-	-		-	-	-	-	-		
261	61.69	62.13	(コアの硬さ欄)Dランク	61.69	62.13	(コアの硬さ欄)Dランク									-	-	-	-		-	-	-	-	-		・コアは軟質であるためコアの硬さのランクをDランクに変更した
262	62.26	62.39	(コアの硬さ欄)Dランク	62.26	62.39	(コアの硬さ欄)Dランク									-	-	-	-		-	-	-	-	-		・コアは軟質であるためコアの硬さのランクをDランクに変更した
263	62.39	63.75	D 局部的にφ5～20m/m硬さ「D」岩片が残留するが、大半が砂状化している。	62.39	63.75	D 局所的にφ5～20mm硬さ「D」岩片が残留するが、大半が砂状化している。									-	-	-	-		-	-	-	-	-		・表現の適正化(mm、局所的)
264	62.95	-	62.95m以浅では粘土化も更に進み、岩組織は大半の部分で消滅する。幅1～2m/m白色軟質粘土脈が粘土化岩片間を縫うように分布する。 一部でマンガン鉱染を伴ない薄(黒褐色化する。	62.95	-	62.95m以浅では粘土化も更に進み、原岩組織は大半の部分で消滅する。幅1～2mm白色軟質粘土脈が粘土化岩片間を縫うように分布する。 一部でマンガン鉱染を伴い、薄(黒褐色化する。									-	なし	-	-		-	-	-	-	-		・表現の適正化(原岩組織、mm、伴う)
265	63.75	63.85	破砕帯(主せん断面63.80m)	63.75	63.85	破砕部(最新活動面63.85m)(最も直線的な面)									-	-	-	-		-	-	-	-	-		・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一 ・最新活動面の深度を最も直線的な63.85mに変更した
266	63.75	63.80	H9 上端3°で波打つ岩目間で、下端46°で直線的に連続。φ5～10m/m岩片と岩片間の粘土状～砂状部からなり「粘土・砂混じり岩片」状を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR 7/3)、厚さ30～50m/m	63.75	63.80	H9 上端3°で波打つ岩目間で、下端46°で直線的に連続。明瞭な粘土部はない。上位の硬質部との境界は漸移的。φ5～10mm岩片と岩片間の粘土状～砂状部からなり「粘土・砂混じり岩片」状を呈する。色調はにぶい橙色(7.5YR 7/3)、厚さ30～50mm。 軟質、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。									○	○	○	○		-	-	-	-	-		・コアに合わせて上端・下端境界の性状及び直線性を変更・追記した ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・コアに合わせて厚さを変更した ・表現の適正化(mm) ・脱記の修正(「色」の記載漏れ)
267	63.80	63.85	Hb 上端46°で直線的に、下端47°で波打って連続。φ1～3m/m石英粒、φ5～20m/m硬さ「D」岩片を20～30%含む半固結状の「模質粘土」状を呈する。色調は灰褐色(7.5YR 5/2)、厚さ45～55m/m	63.80	63.85	Hb 上端46°、下端47°でともに波打って連続。直線性に乏しいが、下端の方が直線的である。φ1～3mm石英粒、φ5～20mm硬さ「D」岩片を20～30%含むやや硬質な「模質粘土」状を呈する。色調は灰褐色(7.5YR 5/2)、厚さ25～25mm。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。									-	-	-	-		-	-	-	-	-		・コアに合わせて上端・下端境界の性状及び直線性を変更・追記した ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・コアに合わせて厚さを変更した ・表現の適正化(mm) ・表現の統一(半固結状→やや硬質な) ・脱記の修正(「色」の記載漏れ)
268	63.85	64.49	D φ10～20m/m硬さ「C」岩片が多く残留している(残留率30～40%程度)。 全体によく締った「砂礫状」を呈する。 粘土部は砂状部中にわずかに散在する程度	63.85	64.49	D φ10～20mm硬さ「C」岩片が多く残留している(残留率30～40%程度)。 全体に硬質な「砂礫状」を呈する。 粘土状部は砂状部中にわずかに散在する程度									-	-	-	-		-	-	-	-	-		・表現の適正化(よく締った→硬質な、mm、粘土部→粘土状部)
269	64.49	65.18	CH 緊密・硬状	-	-	-									-	-	-	-		-	-	-	-	-		
270	64.63	63.73	上端45°、下端30°岩目に囲まれ片状～角礫状化する。 粘土はなく、わずかな砂状部が分布する。	64.68	64.73	上端45°、下端30°岩目に囲まれ片状～角礫状化する。 粘土はなく、わずかな砂状部が分布する。									-	○	-	-		-	-	-	-	-		・脱記の修正(64.63→64.68、63.73→64.73)
271	65.18	65.36	D 岩目目ぞいに砂状化が拡大し、締った「砂礫状」を呈する	65.18	65.36	D 岩目目沿いに砂状化が拡大し、硬質な「砂礫状」を呈する									-	○	-	-		-	-	-	-	-		・表現の適正化(沿い、締った→硬質な)
272	65.18	65.36	(岩目状岩相)Cランク (コアの形状欄)Vランク (岩級区分欄)C	65.18	65.36	(岩目状岩相)Uランク (コアの形状欄)Vランク (岩級区分欄)CL									-	-	-	-		-	-	-	-	-		・コアに合わせて岩目目状岩、コアの形状のランクを変更した ・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
273	65.36	68.27	CL 岩片は緊密であるが岩目ぞいに砂状化が進むことがあい。 粘土化部や粘土脈は拘んど含まない。 上端側と下端側は短柱状コア主体、中央部は片状コア主体で一部岩目ぞいに砂状化進む。	65.36	68.05	CL 岩片は緊密であるが岩目沿いに砂状化が進むことがあい。 粘土化部や粘土脈は拘んど含まない。 上端側と下端側は短柱状コア主体、中央部は片状コア主体で一部岩目沿いに砂状化進む。									-	○	-	-		-	-	-	-	-		・スライム(68.00～68.22m)を除去してコアを浅い側にスライドさせているため下端深度を変更した ・表現の適正化(沿い)
274	65.96	66.01	砂状化が進んでいる	-	-	-									-	-	-	-		-	-	-	-	-		
275	65.00	65.17	長柱状コア(コア長17cm)	65.00	65.17	長柱状コア(コア長17cm)									-	-	-	-		-	-	-	-	-		・20cm未満は「柱状」と表現するため変更した
276	66.20	68.01	上下位に比べ風化がやや進む。	66.20	68.01	上下位に比べ風化がやや進む。									-	-	-	-		-	-	-	-	-		・表現の適正化(やや)
277	66.20	66.39	(風化欄)Dランク	66.20	66.39	(風化欄)Fランク									-	-	-	-		-	-	-	-	-		・風化の程度はやや軽いため風化のランクをFランクに変更した
278	66.39	66.65	岩目目ぞいに砂状化進む	66.39	66.65	岩目目沿いに砂状化進む									-	○	-	-		-	-	-	-	-		・表現の適正化(沿い)
279	66.39	66.44	コアチューブ引上げ時に乱されφ10m/m前後の岩片状コアを呈する。	66.39	66.44	コアチューブ引上げ時に乱されφ10mm前後の岩片状コアを呈する。									-	-	-	-		-	-	-	-	○		・表現の適正化(mm)

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H27-B-2）

孔名 H27-B-2

○ 記載有り　なし：該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード														
																		破砕帯								
	上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	記事 （変更箇所を朱書きで表示） （変更していないものは「-」で表示） 追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・現数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形状、含有物（有機質、異質な物質）を明確的に記載。 ・その他、鉱物と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、海水度、含水状態などを記載。	挟雑構造 ・層理、葉理、級化など	都道作業における特記事項 ・コア欠如、コア破損などなど	地質名 ・岩種及びその区間深度を明確的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩盤が見られる場合は、岩盤の種類・性、岩盤の含有率などを記載	色調 ・現数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や現在物の種類を明確的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり（スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・挿換岩 ・岩種	破砕度区分 ・記号（Hc,Hb,Hj） ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・気かけの傾斜 ・性状	破砕幅（実測できる場合）	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・破砕構造、複合断構造、系等構造、剪目状組織など	最新活動面（設定した場合）	空隙の状況	都道作業における特記事項 ・コア欠如、コア破損などなど	記事を削除・変更・追記した理由
280	66.65	67.00	硬さ(B)と堅硬な岩片も多く含む	－	－	－									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
281	66.65	68.01	風化欄:δランク	66.65	68.01	風化欄:γランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・風化の程度はやや弱いため風化のランクをγランクに変更した
282	67.00	67.46	落下コア回収のため2度据りしている。	67.00	67.46	落下コア回収のため岩片状を呈する									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	・落下コア部についての性状を追記した
283	67.48	67.63	長柱状コア（コア長15cm）	67.48	67.63	長柱状コア（コア長15cm）									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・20cm未満は「柱状」と表現するための変更した
284	67.65	68.12	色調欄:7.5YR7/3にぶい橙	67.65	68.12	色調欄:10YR6/3にぶい黄橙									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアに合わせて色調を変更した ・スライム(68.00～68.22m)を除去してコアを浅い側にスライドさせているため色調を見直した
285	67.65	68.01	硬さ(D)岩片主体で一部割れ目ぞいに砂状化する。	67.65	68.05	硬さ(D)岩片主体で一部割れ目沿いに砂状化する。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・スライム(68.00～68.22m)を除去してコアを浅い側にスライドさせているため下端深度を変更した ・表現の適正化(沿い)
286	68.00	69.00	RQD欄:0 ・最大コア長欄:4	68.00	69.00	RQD欄:12 ・最大コア長欄:12									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・スライム(68.00～68.22m)を除去してコアを浅い側にスライドさせているためRQD、最大コア長を見直した
287	68.01	－	68.01m以深は割れ目狭在物は殆んど分布しない。	68.01	－	68.01m以深は割れ目狭在物は殆んど分布しない。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・スライム(68.00～68.22m)を除去したため、スライムに関する記事を削除した
288	68.01	68.05	割れ目状態欄:bランク コアの形状欄:Vランク コアの硬さ欄:Cランク	68.01	68.05	割れ目状態欄:cランク コアの形状欄:Vランク コアの硬さ欄:Cランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・スライム(68.00～68.22m)を除去してコアを浅い側にスライドさせているため割れ目状態、コアの形状、コアの硬さの各ランクを見直した
289	68.05	68.12	割れ目状態欄:bランク コアの形状欄:Vランク コアの硬さ欄:Cランク 風化欄:γランク	68.05	68.12	割れ目状態欄:dランク コアの形状欄:Vランク コアの硬さ欄:Cランク 風化欄:δランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・スライム(68.00～68.22m)を除去してコアを浅い側にスライドさせているため割れ目状態、コアの形状、コアの硬さ、風化の各ランクを見直した
290	68.12	68.34	色調欄:7.5YR7/3にぶい橙	68.12	68.34	色調欄:7.5YR6/2灰褐									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・スライム(68.00～68.22m)を除去してコアを浅い側にスライドさせているため色調を見直した
291	68.12	68.27	割れ目状態欄:bランク コアの形状欄:Vランク コアの硬さ欄:Cランク 風化欄:γランク	68.12	68.27	割れ目状態欄:cランク コアの形状欄:Vランク コアの硬さ欄:Cランク 風化欄:δランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・スライム(68.00～68.22m)を除去してコアを浅い側にスライドさせているため割れ目状態、コアの形状、コアの硬さ、風化の各ランクを見直した
292	68.27	68.34	割れ目状態欄:dランク コアの形状欄:Vランク 風化欄:γランク 変質欄:4ランク 岩級区分欄:D	68.27	68.34	割れ目状態欄:bランク コアの形状欄:Vランク 風化欄:δランク 変質欄:2ランク 岩級区分欄:CL									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・スライム(68.00～68.22m)を除去してコアを浅い側にスライドさせているため割れ目状態、コアの形状、風化、変質の各ランクを見直した ・上記の見直しに伴い、岩級を変更した
293	68.34	68.39	割れ目状態欄:bランク コアの形状欄:Vランク コアの硬さ欄:Hランク 風化欄:δランク 岩級区分欄:CM	68.34	68.39	割れ目状態欄:bランク コアの形状欄:Vランク コアの硬さ欄:Cランク 風化欄:δランク 岩級区分欄:CL									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・スライム(68.00～68.22m)を除去してコアを浅い側にスライドさせているため割れ目状態、コアの形状、コアの硬さ、風化の各ランクを見直した ・上記の見直しに伴い、岩級を変更した
294	68.27	68.34	破砕帯(主せん断面68.27m)	68.27	68.34	破砕帯(主せん断面68.27m)									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・スライム(68.00～68.22m)を除去してコアを浅い側にスライドさせており、記事を書き直したための削除し、深度68.02～68.06mの破砕部の記事として下記に記載した
295	68.27	68.27	Hc-1 41°で上下端とも直線的に連続、δ1m/m石英粒をごく少量(5%以下)含む軟弱粘土(ガウジ)。色調は淡黄(2.5Y 8/3)、厚さ1～2m/m	68.27	68.27	Hc-1 41°で上下端とも直線的に連続、δ1m/m石英粒をごく少量(5%以下)含む軟弱粘土(ガウジ)。色調は淡黄(2.5Y 8/3)、厚さ1～2m/m									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・スライム(68.00～68.22m)を除去してコアを浅い側にスライドさせており、記事を書き直したための削除し、深度68.02～68.06mの破砕部の記事として下記に記載した	
296	68.27	68.34	Hj 上端41°で直線的に、下端20～40°で湾曲し、一部、灰黄褐(10Y 5/2)幅1～5m/m軟弱粘土脈として連続、主せん断面と同方向の割れ目とこれに直交する割れ目で δ5～10m/m に細片化した岩片と岩片間の一部が幅1m/m白～淡黄色軟弱粘土脈からなり「粘土混じり岩片」状を呈する。 色調はにぶい橙(7.5YR7/3)、厚さ65m/m	68.27	68.34	Hj 上端41°で直線的に、下端20～40°で湾曲し、一部、灰黄褐(10Y 5/2)幅1～5m/m軟弱粘土脈として連続、主せん断面と同方向の割れ目とこれに直交する割れ目で δ5～10m/m に細片化した岩片と岩片間の一部が幅1m/m白～淡黄色軟弱粘土脈からなり「粘土混じり岩片」状を呈する。 色調はにぶい橙(7.5YR7/3)、厚さ65m/m									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・スライム(68.00～68.22m)を除去してコアを浅い側にスライドさせているため破砕部の深度を見直した ・当初の破砕部範囲を変更した	
297	－	－	－	68.02	68.05	破砕部(最新活動面68.05m)									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	・追記した性状から破砕部に設定した ・破砕部内物質、破砕度区分、上端境界、硬軟、細粒部の連続性・連続性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織、色調、異幅について追記した
298	－	－	－	68.02	68.05	Hj 上端40°で不明瞭に連続、下端41°で直線的に連続、やや軟質で、粘土質に割れ目が発達し、一部の岩片は下位の粘土と同方向に定向性を示す。脈状の細粒部はみられない。砂混じり粘状を呈する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。にぶい橙色を呈する。幅25mm。									－	－	－	○	○	○	○	○	－	－	－	・破砕部内物質、破砕度区分、上端境界、硬軟、細粒部の連続性・連続性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織、色調、異幅について追記した	
299	－	－	－	68.05	68.06	Hc-2 上端41°で直線的に連続、下端30°で波打って連続、やや軟質で、上端には、δ1m/m石英粒をごく少量(5%以下)含む幅1～2mmの淡黄色軟質粘土を持ち、全体的には傾混じり粘土状を呈する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。明暗灰色を呈する。幅10mm。									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・破砕部内物質、破砕度区分、上端境界、硬軟、細粒部の連続性・連続性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織、色調、異幅について追記した	
300	－	－	－	68.06	68.12	粘土混じり傾状を呈するが、硬質で岩片間に分布する粘土脈に系統性がなく、原岩組織が明瞭に認められる。									－	なし	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・追記した性状から破砕部ではないと判断して変更した
301	68.27	68.27	（破砕度区分欄）Hc-1	68.05	68.06	（破砕度区分欄）Hc-2									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・上記の記載に合わせて破砕度区分の深度を変更した
302	68.27	68.34	（破砕度区分欄）Hj	68.02	68.05	（破砕度区分欄）Hj									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・上記の記載に合わせて破砕度区分の深度を変更した
303	68.34	69.69	CM 堅硬であるが、割れ目がやゝ多い。一部で長石が白濁化するが少ない。 挟雑物は少ないが、69.30～69.40m間の90°割れ目にごく薄い砂状部をはさむ。	68.39	69.30	CM 堅硬であるが、割れ目がやや多い。一部で長石が白濁化するが少ない。 挟在物はなかなか。~~69.30～69.40m間の90°割れ目にごく薄い砂状部を挟む。~~									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアに合わせてCM級の上端・下端深度を変更した ・表現の適正化(やや、挟む) ・脈記の修正（挟雑物⇒挟在物） ・範囲外の記載は削除した	
304	68.34	68.38	軟化著しい	68.12	68.39	岩片状を呈し、軟質化著しい									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・スライム(68.00～68.22m)を除去してコアを浅い側にスライドさせているため軟質化した範囲を見直した ・岩片状であるためその旨を追記した ・表現の適正化(軟質化)
305	69.30	69.56	コアの形状欄:Vランク	69.30	69.56	コアの形状欄:Tランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・周囲と比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した
306	69.30	69.69	割れ目状態欄:bランク 岩級区分欄:CM	69.30	69.69	割れ目状態欄:cランク 岩級区分欄:CL									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・挟在物を伴う割れ目が多いため割れ目状態のランクをcランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した
307	69.69	69.95	CL	69.30	69.95	CL									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・上記の変更に伴い、上端深度を変更した
308	69.69	69.95	変質欄:3ランク	69.69	69.95	変質欄:2ランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・周囲と同様の変質の程度であるため変質のランクを2ランクに変更した
309	69.81	69.95	割れ目ぞいに砂状化進み δ10～20m/m岩片を含む「砂礫状」量する	69.81	69.95	割れ目沿いに砂状化進み δ10～20mm岩片を含む「砂礫状」量する									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の適正化(沿い、mm)

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H27-B-2）

孔名 H27-B-2

○：記載有り　なし：該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－：該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード														
	記事			記事 （変更箇所を朱書きで表示） （変更していないものは「-」で表示）														破砕帯									
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、礫の種類及び形態、含有物（有機質、貝殻など）を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、湧水度、含水状態などを記載。	堆積構造 （層理、葉理、級化など）	鉱進作業における特記事項 ・コア欠如、コア喪失など		地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、岩盤の種類・程、岩盤の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	変質等の跡れ目 ・同系統の跡れ目の特徴を持つ区間を束ねて記載。 ・系統集合代表的な跡れ目の見かけの傾斜や岩在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な跡れ目があれば、跡れ目の間隔、開口幅、跡れ目面の色調、跡れ目面のすべり（スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載。	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	被膜岩 ・鉱種	破砕度区分 ・記号（Hc,Hb,Hf） ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅（実測できる場合）	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・線状構造、複合面構造、茶筒構造、網目状粘土など	最新活動面（認定した場合）	空隙の状況	鉱進作業における特記事項 ・コア欠如、コア喪失など	記事を削除・変更・追記した理由
310	69.95	71.06	CM 跡れ目には拉んど挟在物は分布しないが、70.66m~71°、±70.70m~60°跡れ目に囲まれて片状化する。 軟質の跡れ目では面ぞいに幅1~2m/m砂状化、φ0.5~1m/mの雲母（セリサイト）が晶出している。	CM 跡れ目には拉んど挟在物は分布しないが、70.66m~71°、±70.70m~60°跡れ目に囲まれて片状化する。 軟質の跡れ目では面沿いに幅1~2mm砂状化、φ0.5~1mmの雲母（セリサイト）が晶出している。	69.95	71.06								○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（沿い、mm）
311	71.06	71.88	CL 30°±60~75°跡れ目が交差し、交差部の一部では厚さ10~60m/mで挟った砂状～砂礫状を呈する。 粘土化部も点在するがわずかである。	CL 30°±60~75°跡れ目が交差し、交差部の一部では厚さ10~60mmで硬質な砂状～砂礫状を呈する。 粘土化部も点在するがわずかである。	71.06	71.88										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（mm、挟った⇒硬質な）
312	71.88	76.11	CM 一部で風化による砂状部を幅2~3m/mで挟むが、挟在物が分布しない跡れ目が多い。	CM 一部で風化による砂状部を幅2~3mmで挟むが、挟在物が分布しない跡れ目が多い。	71.88	76.11										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（mm）
313	72.48	74.57	跡れ目ぞいに褐色化進むが硬質で砂状化はない。	跡れ目沿いに褐色化進むが硬質で砂状化はない。	72.48	72.57										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・脱記の修正（74.57⇒72.57） ・表現の適正化（沿い）
314	74.57	73.16	長さ10cm以上の硬質コア主体	長さ10cm以上の硬質コア主体	72.57	73.16										-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・脱記の修正（74.57⇒72.57）
315	73.20	75.00	20~30°±60~70°跡れ目が交差。 交差部の一部で片状～角礫状化するが砂状部や粘土部は伴なわない。	20~30°±60~70°跡れ目が交差。 交差部の一部で片状～角礫状化するが砂状部や粘土状部は伴わない。	73.20	75.00										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（伴う、粘土部⇒粘土状部）
316	74.85	75.00	跡れ目ぞいにマンガン鉱染受ける。	跡れ目沿いにマンガン鉱染受ける。	74.85	75.00										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（沿い）
317	75.65	75.92	内部に中著跡れ目や密着度の低い跡れ目を持たない長さ26cmのコア	内部に中著跡れ目や密着度の低い跡れ目を持たない長さ27cmのコア	75.65	75.92										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・脱記の修正（記載区間長と不整合）
318	76.11	77.02	CL 跡れ目が交差しφ10~30m/mの片状～角礫状化する。 岩片自身は硬質で劣化はない。 一部の跡れ目ではφ2~5m/mの細礫状に幅10m/m以下で挟けているが、砂や粘土は伴なわない。 全体に長石の白濁化が目立つ。	CL 跡れ目が交差しφ10~30mmの片状～角礫状化する。 岩片自身は硬質で劣化はない。 一部の跡れ目ではφ2~5mmの細礫状に幅10mm以下で挟けているが、砂や粘土は伴わない。 全体に長石の白濁化が目立つ。	76.11	77.02								○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（伴う、mm）
319	77.02	79.47	CM 全区間硬質であるが、77.43m～78.00m間では密着度の低い跡れ目が多く、ハンマーの打撃でφ30m/m前後に分離・細片化し易い。 また、同区間では跡れ目ぞいにマンガン鉱染を受け跡れ目の面の一部は黒褐色化する。	CM 全区間硬質であるが、77.43m～78.00m間では密着度の低い跡れ目が多く、ハンマーの打撃でφ30mm前後に分離・細片化し易い。 また、同区間では跡れ目沿いにマンガン鉱染を受け跡れ目の面の一部は黒褐色化する。	77.02	79.47								○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（mm、沿い）
320	77.21	77.21	交差する2本の跡れ目の一部で、幅2~3m/m砂状化するが、砂状部は跡れ目全体に連続しない。	交差する2本の跡れ目の一部で、幅2~3mm砂状化するが、砂状部は跡れ目全体に連続しない。	77.21	77.21										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（mm）
321	78.00	－	78m以深は長10cm前後のコアが主体となるが、一部では密着度の低い跡れ目をもつものもある。	78.00m以深は長さ10cm前後のコアが主体となるが、一部では密着度の低い跡れ目をもつものもある。	78.00	－										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の統一（79.00） ・脱記の修正（長⇒長さ）
322	78.40	78.40	跡れ目ぞいにマンガン鉱染受ける。	跡れ目沿いにマンガン鉱染受ける。	78.40	78.40										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（沿い）
323	79.00	－	79m以深では長石斑晶の白濁化が多い。	79.00m以深では長石斑晶の白濁化が多い。	79.00	－										-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の統一（79.00）
324	79.10	79.10	40°跡れ目ぞい幅10~15m/mが淡緑色化し、面ぞいにφ0.5m/m以下の微細な雲母（セリサイト）が晶出する。	40°跡れ目沿い幅10~15mmが淡緑色化し、面沿いにφ0.5mm以下の微細な雲母（セリサイト）が晶出する。	79.13	79.13								○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（mm、沿い） ・脱記の修正（79.10⇒79.13、淡緑色化する跡れ目をコアに合わせて深度を変更）
325	79.00	80.19	（変質種）3ランク	（変質種）2ランク	79.00	80.19										-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲と同程度の変質であるため変質のランクを2ランクに変更した
326	79.47	80.19	CL 30~50°±70°跡れ目が交差、交差部の一部でφ10m/m程度に細片状化。 70°跡れ目の一部に幅2~3m/mの淡黄～褐色粘土質はさむ。	CL 30~50°±70°跡れ目が交差、交差部の一部でφ10mm程度に細片状化。 70°跡れ目の一部に幅2~3mmの淡黄～褐色粘土質挟む。	79.47	80.19								○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（挟む、mm）
327	79.83	79.90	跡れ目ぞいに砂状～φ2~5m/m細片状化進む。少量の粘土も伴う。	跡れ目沿いに砂状～φ2~5mm細片状化進む。少量の粘土も伴う。	79.83	79.90										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（沿い、mm）
328	80.19	80.48	CM 一部のコアに密着度の低い跡れ目を含んでいる。 跡れ目挟在物は分布しない。	-	-	-										-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
329	80.19	80.48	（岩級区分種）CM	（岩級区分種）CH	80.19	80.48										-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
330	80.48	83.12	CH 緊密で硬れ未風化の岩盤で、跡れ目には挟在物は分布しない。 ゆ著跡れ目はなく、密着度の低い跡れ目はごく一部に分布する程度。 全体にφ2~3m/m暗緑色鉱物（緑泥石）が晶出している。 長石の白濁化は拉んど認められない。	CH 緊密で硬れ未風化の岩盤で、跡れ目には挟在物は分布しない。 ゆ著跡れ目はなく、密着度の低い跡れ目はごく一部に分布する程度。 全体にφ2~3mm暗緑色鉱物（緑泥石）が晶出している。 長石の白濁化は拉んど認められない。	80.48	83.12								○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（mm）
331	81.10	81.35	φ2~5m/mの斑点状にマンガン鉱染受け灰褐色色調となる。 劣化は伴なわない。	φ2~5mmの斑点状にマンガン鉱染受け灰褐色色調変化。 劣化は伴わない。	81.10	81.35										-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（mm、帯びる、伴う） ・脱記の修正（不要な語句「色調」を削除）
332	82.10	82.30	珪化変質によりφ5~10m/m斑点状～幅10m/m断状の石英が晶出し上下位よりも更に硬質となっている。	珪化変質によりφ5~10mm斑点状～幅10mm断状の石英が晶出し上下位よりも更に硬質となっている。	82.10	82.30										-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（mm）
333	82.72	82.86	コア中に密着度の低い跡れ目を含む	コア中に密着度の低い跡れ目を含む	82.72	82.86										-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	文章の適正化（「コア中」は記載する必要がないため削除した）
334	83.12	83.79	CL 83.46m以浅は20~50°跡れ目が多く、跡れ目ぞいに砂状化が進む。マンガン鉱染も伴う。岩片自身も硬さ「J」に軟化する。 83.46m以深は跡れ目は多いが硬質で挟在物も拉んど分布しない。	CL 83.46m以浅は20~50°跡れ目が多く、跡れ目沿いに砂状化が進む。マンガン鉱染も伴う。岩片自身も硬さ「J」に軟質化する。 83.46m以深は跡れ目は多いが硬質で挟在物も拉んど分布しない。	83.12	83.79								○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（沿い、軟質化）
335	83.79	84.43	CM 緊密。 84.35~84.38mで10~15°跡れ目ぞい、ごく薄く風化、砂状化する以外は跡れ目挟在物は分布しない。 一部にゆ著跡れ目が分布するが密着度高く、ハンマー打撃でも分離しない。	CM 緊密。 84.35~84.38mで10~15°跡れ目沿い、ごく薄く風化、砂状化する以外は跡れ目挟在物は分布しない。 一部にゆ著跡れ目が分布するが密着度高く、ハンマー打撃でも分離しない。	83.79	84.43								○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（沿い）
336	84.43	84.61	CL 硬さ「J」岩片主体、多くの跡れ目はマンガン鉱染で黒褐色化、粘土化なし。	-	-	-								○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名:H27-B-2

○:記載有り　なし:該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－:該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード														
			記事			記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)												破砕帯									
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか? ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか? ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・褐鉄の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形態、含有物(有機質、異質など)を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、海況度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	鉛直作業における特記事項 ・コア欠如、コア接乱など		地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、岩品の種類・径、岩品の含有率などを記載	色調 ・褐鉄の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や鉱物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のテペリスリックンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈、凍石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	挟雑岩 ・岩種	破砕度区分 ・記号(Hc,Hb,Hi) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅(実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・線状構造、複合面構造、重複構造、明目状粘土など	最新活動面(認定した場合)	空隙の状況	鉛直作業における特記事項 ・コア欠如、コア接乱など	記事を削除・変更・追記した理由
337	84.51	85.50	CL 硬さ(D)岩片主体 一部で割れ目ずれに風化、砂状化が進む部分もある。 長石の白濁化が目立つ。	84.61	85.50	CL 硬さ(D)岩片主体 一部で割れ目沿いに風化、砂状化が進む部分もある。 長石の白濁化が目立つ。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い)
338	85.15	85.15	50°幅5mm/m軟質な灰白色粘土脈はさむ。	85.15	85.15	50°幅5mm軟質な灰白色粘土脈挟む。									-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(mm、挟む)
339	85.24	85.35	砂状化が進んでいる。40°前後の割れ目が残留	-	-	-									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
340	85.24	85.35	(岩級区分欄)D	85.24	85.35	(岩級区分欄)CL									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
341	85.50	85.58	D 粘土化が進む。	-	-	-									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
342	85.50	85.76	(岩級区分欄)D	85.50	85.76	(岩級区分欄)CL									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
343	85.58	85.76	破砕帯(主せん断面85.63m)	85.58	85.76	破砕部(最新活動面85.63m)									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一
344	85.58	85.63	Hi 上端40°で直線的に、下端48°で一部不明瞭ながら直線的に連続。0.5~10mm、硬さ(D)岩片と岩片間の粘土部からなり「粘土混じり岩片」状を呈する。 上端付近に幅5mm石英脈が主せん断面と35°同方向に分布するが途中で消滅する。 色調は灰黄色(2.5Y 7/2)、厚さ35mm/m	85.58	85.63	Hi 上端40°で直線的に、下端48°で一部不明瞭ながら直線的に連続。0.5~10mm、硬さ(D)岩片と岩片間の粘土部からなり「粘土混じり岩片」状を呈する。 上端付近に幅5mm石英脈が平均20mm~20°粘土と同様方向に分布するが途中で消滅する。 色調は灰黄色(2.5Y 7/2)、厚さ35mm。 やや破砕、含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 ・主せん断面は評価結果であるため記載しないことし、下位のHc-2の粘土に変更した。 ・表現の適正化(ほぼ、mm) ・脈記の修正(「色」の記載漏れ)	
345	85.53	85.64	Hc-2 48°で、上端は一部不明瞭ながら直線的に連続、下端は波打って連続。0.2~3mm石英粒、0.5mm、硬さ(D)岩片を10%含む軟質粘土(ガウジ)。 色調は淡黄(2.5Y 8/3)、厚さ5m/m	85.63	85.64	Hc-2 48°で、上端は一部不明瞭ながら直線的に連続、下端は波打って連続。0.2~3mm石英粒、0.5mm、硬さ(D)岩片を10%含む軟質微固しい粘土(ガウジ)。 色調は淡黄色(2.5Y 8/3)、厚さ5mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。									-	-	-	○	○	○	○	-	○	-	-	・硬さ含むため破砕部内物質の名称を変更した。 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 ・表現の統一(ガウジ→Hc-2に含んで表現) ・表現の適正化(mm) ・脈記の修正(不明→不明瞭、「色」の記載漏れ)	
346	85.54	85.76	Hi 上端48°で波打って、下端32°で幅1~2m/mの軟弱な灰白(2.5Y 8/2)粘土脈として直線的に連続。主せん断面と同方向一致する割れ目で0.5~10mm/mに岩片化している。岩片間の一部は粘土~砂状化し、幅1mm灰白色(2.5Y 8/2)粘土脈が分布。85.68m*53°のシャープなgouge(ガウジ)が分布し、これ以深は一部でマンガン鉱染受け黒褐色化する。 全体には「粘土・砂混じり岩片状」を呈する。 色調は淡黄(2.5Y 8/3)~にぶい褐(7.5YR 6/3)、厚さ100~120m/m	85.64	85.76	Hi 上端48°で波打って、下端32°で、幅1~2mmの軟弱な灰白色(2.5Y 8/2)粘土脈として直線的に連続。上位のHc-2の粘土と同方向一致空する割れ目で0.5~10mmに岩片化している。岩片間の一部は粘土~砂状化し、幅1mm灰白色(2.5Y 8/2)粘土脈が分布。85.68m*53°のシャープなせん断面が分布し、これ以深は一部でマンガン鉱染受け黒褐色化する。 全体には「粘土・砂混じり岩片状」を呈する。 色調は淡黄(2.5Y 8/3)~にぶい褐色(7.5YR 6/3)、厚さ100~120mm。 やや破砕、含まれる細粒部は不連続で、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。									-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 ・表現の適正化(mm、軟質→軟質、sjm→せん断面) ・主せん断面は評価結果であるため記載しないことし、上位のHc-2の粘土に変更した。 ・脈記の修正(「色」の記載漏れ)	
347	85.76	87.47	CL 86.52m以浅は硬さ(D)、86.52m以深は硬さ(C)岩片主体で、後者では一部で短柱状コアも含む。軟者では鉄れ目ずれソの一部で砂状化する。	85.76	87.47	CL 86.52m以浅は硬さ(D)、86.52m以深は硬さ(C)岩片主体で、後者では一部で短柱状コアも含む。軟者では鉄れ目沿いの一部で砂状化する。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い)
348	85.76	86.00	石英を0.10m/m斑点状~幅2m/m、20°断状に含む。	85.76	86.00	石英を0.10mm斑点状~幅2mm、20°断状に含む。									-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(mm)
349	87.47	84.90	(岩級区分欄)CH	87.47	87.90	(岩級区分欄)CL									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・脈記の修正(84.90→87.90) ・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
350	87.47	84.90	CH 緻密、長石の一部は白濁化する。 一部で中着鉄れ目を含むが密度度高くハンマーの強打でも分離しない。	87.47	87.90	CH 緻密、長石の一部は白濁化する。 一部で中着鉄れ目を含むが密度度高くハンマーの強打でも分離しない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・脈記の修正(84.90→87.90)
351	87.90	88.38	CL 鉄れ目ずれの一部は風化で薄く砂状化する。 密度度の低いHb-2鉄れ目が多く、ハンマーの打撃で中着鉄れ目ずれソに分離・細片化し易い。	87.90	88.38	CL 鉄れ目沿いの一部は風化で薄く砂状化する。 密度度の低い湿在鉄れ目が多く、ハンマーの打撃で湿在鉄れ目沿いに分離・細片化し易い。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い) ・中着鉄れ目は認められず、湿在鉄れ目が認められたため適正化した	
352	87.90	88.42	(変質欄)3ランク	87.90	88.42	(変質欄)2ランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・変質の程度が弱いため変質のランクを2ランクに変更した
353	88.38	88.43	(岩級区分欄)D	88.38	88.43	(岩級区分欄)CL									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
354	88.38	88.43	破砕帯(主せん断面88.43m)	88.38	88.43	破砕部(最新活動面は88.42mか88.43mの可能性がある)									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一 ・最新活動面の可能性がある箇所を追記した
355	88.38	88.42	Hi 50°で、上端は直線的な密着鉄れ目で、下端は直線的に連続。 主せん断面と同方向の鉄れ目が数本と、これらに斜交する鉄れ目により0.5~10 m/mに岩片化している。粘土は殆んど伴なわないが一部の岩片間では砂状化する。全体に「砂混じり岩片」状を呈する。 色調はにぶい橙(7.5YR7/3)厚さ35m/m	88.38	88.42	Hi 50°で、上端は直線的な密着鉄れ目で、下端は直線的に連続。 平位のHc-1の粘土と同方向の鉄れ目が数本と、これらに斜交する鉄れ目により0.5~10 mmに岩片化している。粘土は殆んど伴なわないが一部の岩片間では砂状化する。全体に「砂混じり岩片」状を呈する。 色調はにぶい橙色(7.5YR7/3)、厚さ35mm。 硬質、含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。									-	-	-	○	○	○	○	-	○	-	-	・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 ・主せん断面は評価結果であるため記載しないことし、下位のHc-1の粘土に変更した。 ・表現の適正化(伴う、mm) ・脈記の修正(「色」の記載漏れ)	
356	88.42	88.43	Hc-1 50°で上下端とも直線的に連続、石英粒、岩片を殆んど含まない軟弱粘土(ガウジ)、色調は明黄褐(10 YR6/6)、厚さ5m/m	88.42	88.43	Hc-1 50°で上下端とも直線的に連続、石英粒、岩片を殆んど含まない軟質粘土(ガウジ)、色調は明黄褐色(10 YR6/6)、厚さ5mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の統一(ガウジ→Hc-1に含んで表現) ・表現の適正化(軟質→軟質、mm) ・脈記の修正(「色」の記載漏れ)	
357	88.43	88.92	(変質欄)3ランク	88.43	88.92	(変質欄)2ランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・変質の程度が弱いため変質のランクを2ランクに変更した
358	88.43	88.88	CL 20~40°の低角度で直線的な鉄れ目が多い。一部で砂をはさむ。	88.43	88.88	CL 20~40°の低角度で直線的な鉄れ目が多い。一部で砂を挟む。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(挟む)

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名 H27-B-2

○：記載有り　なし：該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と照様であるため記載していないもの　－：該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード														記事を削除・変更・追記した理由
	上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・視覚の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形態、含有物(有機質、異質など)を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、亀裂度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	節理作業における特記事項 ・コア欠如、コア接続など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、風化の種類・程、割目の含有率などを記載	色調 ・視覚の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	数理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間を束ねて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や性状等の情報を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物膜 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・挿獲岩 ・岩種	破砕帯 破砕度区分 ・記号(Hc,Hb,Hj) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅(実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・統成構造、複合面構造、業車構造、明目状態など	最新活動面(認定した場合)	空隙の状況	節理作業における特記事項 ・コア欠如、コア接続など	
359	88.88	88.94	破砕帯(主せん断面88.92m)	88.88	88.94	破砕部(最新活動面は88.92mから88.94mの可能性がある)									-	-	-				-	-	-	-		・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一 ・最新活動面の可能性がある深度を追記した
360	88.88	88.92	Hj 30°で、上端は幅0.5m/mの軟弱な白色粘土脈で直線的に、下端も直線的に連続。主せん断面と同方向に細かい割れ目が発達し0.5m/mの岩片に細片化している。岩片間は幅1mm以下とごく薄く粘土～砂状化する。全体に「粘土・砂混じり岩片」状呈する。 色調はにぶい黄褐(10YR7/2)、厚さ5～20m/m	88.88	88.92	Hj 30°で、上端は幅0.5mmの軟質な白色粘土脈で直線的に、下端も直線的に連続。下位のHc-2の粘土と同方向に細かい割れ目が発達し0.5mmの岩片に細片化している。岩片間は幅1mm以下とごく薄く粘土～砂状化する。全体に「粘土・砂混じり岩片」状呈する。 色調はにぶい黄褐色(10YR7/2)、厚さ25～35mm。 硬質、含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。									○	○	○	○			-	-	-	-		・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・主せん断面は評価結果であるため記載しないことと、下位のHc-2の粘土に変更した ・コアに合わせて厚さを変更した ・表現の適正化(mm、軟質⇒軟質) ・脈記の修正(「色」の記載漏れ)
361	88.92	88.94	Hc-2 30°で、上下端とも直線的に連続、0.1～3 m/m石英粒、0.5m/m粘土化岩片約15%含む軟質な軟質粘土(ガウジ)、色調は灰白(7.5Y7/2)、厚さ15～20m/m	88.92	88.94	Hc-2 30°で、上下端とも直線的に連続、0.1～3mm石英粒、0.5mm粘土化岩片約15%含む軟質な軟質粘土(ガウジ)、色調は灰白色(7.5Y7/2)、厚さ15～20mm 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。															-	-	-	-		・誤を含むため破砕部内物質の名称を変更した ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の統一(ガウジ→Hc-2に含んで表現) ・表現の適正化(mm) ・脈記の修正(「色」の記載漏れ)
362	88.94	91.69	D 割れ目ぞいに風化が進み、砂状化部が拡大している。90.81m以浅は0.5～20m/mの硬ぶり(D)岩片が残留し、固結砂状部を基質とする「砂礫状」を呈する。岩組織は浅い表層しているが、90.81m以深は硬ぶり(D)岩片主体で岩組織と割れ目の大半は残留し、割れ目の一部は残留し40～60°が主体。	88.94	91.69	D 割れ目沿いに風化が進み、砂状化部が拡大している。90.81m以浅は0.5～20mmの硬ぶり(D)岩片が残留し、硬質な砂状部を基質とする「砂礫状」を呈する。原岩組織は浅い表層しているが、90.81m以深は硬ぶり(D)岩片主体で原岩組織と割れ目の大半は残留している。割れ目は40～60°が主体。															-	-	-	-		・表現の適正化(浅い、mm、浅ぼ、原岩組織) ・表現の統一(間隔⇒間質) ・文章の適正化(「割れ目の大半は残留し」を「割れ目の一部は残留し」が相反する記載のためコアに合わせて修正した)
363	90.45	90.81	(色調欄)7.5YR6/3 にぶい褐	90.45	90.81	(色調欄)7.5YR4/2 灰褐									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・コアに合わせて色調を変更した
364	90.50	90.50	60°、厚2～3m/mの石英脈が分布	90.50	90.50	60°、幅2～3mmの石英脈が分布									-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-		・表現の適正化(厚⇒幅、mm)
365	-	91.47	91.47m以浅では残留岩片の割れ目や砂状基質部の一部がマンガン鉱染受け、黒褐色化する。	-	-	-									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-		
366	91.04	91.20	91.04m以下91.20m割れ目に厚さ1m/mの軟質な灰白色粘土が挟状に分布。前者ではマンガンと後者では砂を伴っている。	91.04	91.20	91.04m以下91.20m割れ目に厚さ1mmの軟質な灰白色粘土が挟状に分布。前者ではマンガンと後者では砂を伴っている。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-		・表現の適正化(mm)
367	91.60	-	91.60m以深では0.3m/m長石斑晶が多くなる。このうち、主せん断面近傍では長石が主せん断面方向に配列する。	91.60	-	91.60m以深では0.3mm長石斑晶が多くなる。このうち、主せん断面近傍では長石が主せん断面方向に配列する。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・長石は下位の破砕部のHc-1の粘土と同方向に配列していないため、長石の配列についての記載を削除した ・表現の適正化(mm)
368	91.69	91.76	破砕帯(主せん断面91.70m)	91.69	91.76	破砕部(最新活動面91.70m)									-	-	-				-	-	-	-		・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一
369	91.69	91.70	Hc-1 51°で上端は波打って、下端は直線的に連続。0.5 m/mと幅の小な石英粒を約5%含む軟質粘土(ガウジ)、色調は明褐灰(7.5YR7/2)～灰褐(7.5YR6/2)で徐状を呈する。 上端側の一部に自色粘土脈とマンガン鉱染伴う。厚さ3～8m/m	91.69	91.70	Hc-1 51°で上端は波打って、下端は直線的に連続。0.5 mmと幅の小な石英粒を約5%含む軟質粘土(ガウジ)、色調は明褐灰(7.5YR7/2)～灰褐色(7.5YR6/2)で徐状を呈する。 上端側の一部に自色粘土脈とマンガン鉱染伴う。厚さ3～8mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。									-	-	-				-	-	-	-		・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・色調の違いは見られるが、上端側の明褐灰色の粘土は境界面が凹凸、不連続であるため硬さという記載は削除した ・表現の適正化(mm、軟質⇒軟質) ・表現の統一(ガウジ→Hc-1に含んで表現) ・脈記の修正(「色」の記載漏れ)
370	91.70	91.72	Hb 上端51°で直線的に、下端53°で波打って連続。0.1～3 m/m石英粒、0.5m/m鉄鉄の硬さ「D」岩片を約20%含む軟質な「鉄質粘土」状を呈する。色調は灰白(7.5YR8/1)、厚さ7～12m/m	91.70	91.72	Hb 上端51°で直線的に、下端53°で波打って連続。0.1～3 mm石英粒、0.5mm鉄鉄の硬さ「D」岩片を約20%含む軟質な「鉄質粘土」状を呈する。色調は灰白色(7.5YR8/1)、厚さ7～12mm。 細粒部は直線性に乏しい。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。									○	○	○	○		○	-	-	-	-		・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(mm) ・脈記の修正(「色」の記載漏れ)
371	91.72	91.76	Hj 上端53°で波打って、下端45°で直線的に連続。主せん断面と同方向～20°斜交の細かい割れ目が多く、0.5～10m/mに岩片化している。岩片間に主せん断面と同方向の幅0.5～1m/m軟弱な白色粘土脈が分布する。全体として「粘土混じり岩片」状呈する。色調はにぶい褐(7.5YR5/3)、厚さ30～40m/m	91.72	91.76	Hj 上端53°で波打って、下端45°で直線的に連続。主位のHc-1の粘土と同方向～20°斜交の細かい割れ目が多く、0.5～10mmに岩片化している。岩片間に主位のHc-1の粘土と同方向の幅0.5～1mm軟質な白色粘土脈が分布する。全体として「粘土混じり岩片」状を呈する。色調はにぶい褐色(7.5YR5/3)、厚さ30～40mm。 硬質、検査する白色粘土脈は不連続で、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。															-	-	-	-		・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(mm、軟質⇒軟質) ・主せん断面は評価結果であるため記載しないことと、上位のHc-1の粘土に変更した。 ・脈記の修正(「色」の記載漏れ)
372	91.76	94.80	CL 密度度がきわめて低い割れ目を多く含み、ハンマーの軽打で3～10～30m/mの小岩片に分離・細片化する。	91.76	94.80	CL 密度度がきわめて低い割れ目を多く含み、ハンマーの軽打で3～10～30mmの小岩片に分離・細片化する。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-		・表現の適正化(mm)
373	-	93.00	93.00m以浅はコア長3～5cm主体の短柱コア 93.00m以深は中量割れ目も含め、割れ目が密集し、コア長1～2cmの片状コアが主体。また、長石の大半は自溶化し、割れ目沿いに粉状化することがある。マンガンを伴うが、粘土脈は殆んど分布しない。	-	93.00	93.00m以浅はコア長3～5cm主体の短柱状コア 93.00m以深は中量割れ目も含め、割れ目が密集し、コア長1～2cmの片状コアが主体。また、長石の大半は自溶化し、割れ目沿いに粉状化することがある。マンガンを伴うが、粘土脈は殆んど分布しない。															-	-	-	-		・表現の適正化(浅い、挟む) ・脈記の修正(短柱⇒短柱状)
374	92.09	92.09	0.10m/m縦泥石が50°割れ目で切断されるが変位はない。	92.09	92.09	0.10mm縦泥石が50°割れ目で横断される切断されるが変位はない。 低角度の割れ目は別の中角度の割れ目でとめられ、かつ両方の割れ目に細粒部を伴わない、割れ目面沿の岩盤に原岩組織が見られ、長続的な割れ目も存在しない。															-	-	-	-		・縦泥石に変位は見られないため「切断される」を「横断される」に変更し、変位についての記載を削除した ・表現の適正化(mm) ・割れ目及び構造の状況について追記した
375	92.18	92.24	92.18m～70°～92.24m～44°間は0.5～10m/mの岩片状に砕け、各割れ目面にマンガンが付着する。	92.18	92.24	92.18m～70°～92.24m～44°間は0.5～10mmの岩片状に砕け、各割れ目面にマンガンが付着する。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-		・表現の適正化(mm)
376	92.65	92.65	55°割れ目に幅2m/mマンガンを挟状にはさむ。	92.65	92.65	55°割れ目に幅2mmマンガンを挟状に挟む。									-	○	○	-	-	-	-	-	-	-		・表現の適正化(挟む、mm)
377	93.81	94.13	硬さ「B」で割れ目挟在物は分布しない。	-	-	-									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-		
378	93.81	94.13	コアの硬さ欄にランク	93.81	94.13	コアの硬さ欄にランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・上記の記事に合わせてコアの硬さのランクをBランクに変更した
379	94.26	94.38	0.5～10m/mの大型な石英斑晶が点在が、一部は35～50°割れ目で切断されている。	94.26	94.38	0.5～10mmの大型な石英斑晶が点在する。一部は35～50°割れ目で切断されている。 35～50°割れ目に細粒部は見られない、割れ目面沿の岩盤に原岩組織が認められ、長続的な割れ目も存在しない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-		・35～50°割れ目を横断する高角度割れ目や岩在割れ目が見られるため「石英斑晶が切断されている」旨の記載を削除した ・割れ目及び岩盤の状況について追記した ・表現の適正化(mm) ・脈記の修正(点在が⇒点在し)
380	94.80	97.96	CH 全体が緑灰色化する。 概ね新鮮であるが、一部の割れ目ぞいに風化による褐色化が進む部分もある。 検査物をはさまない割れ目が主体であるが、所々に割れ目挟在物が認められる。	94.80	97.96	CH 全体が緑灰色化する。 概ね新鮮であるが、一部の割れ目沿いに風化による褐色化が進む部分もある。 検査物を挟まない割れ目が主体であるが、所々に割れ目挟在物が認められる。									-	○	-				-	-	-	-		・表現の適正化(浅い、挟む、所々)

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名:H27-B-2

○ 記載有り　　なし: 該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード															
			記事			記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)													破砕等									
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか? ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか? ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形態、含有物(有機質、異物など)を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、湧水量、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	掘進作業における特記事項 ・コア欠如、コア喪失など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、現品の種類・種、現品の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や挟在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目がある時は、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・捕獲岩 ・岩種	破砕度区分 ・記号(RC/RL/H) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界温 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅(実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・理察 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし高度も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・地状構造、現合面構造、葉構造、網目状粘土など	最新活動面(認定した場合)	空隙の状況	掘進作業における特記事項 ・コア欠如、コア喪失など	記事を削除・変更・追記した理由
381	95.46	95.46	55°割れ目ぞい幅10～15m/mが掲色化し、硬さ「D」に軟化。上盤側に幅1m/m方解石を斜状に伴うが、間隙は途中で尖滅している。	95.46	95.46	55°割れ目沿い幅10～15mmが褐色化し、硬さ「D」に軟質化。上盤側に幅7mm石英を斜状に伴うが、間隙は途中で尖滅している。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上端側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した ・方解石ではなく石英であるため変更した ・表現の適正化(沿い、mm、軟質化)
382	95.90	96.00	割れ目が10～20m/m間隔で交差し、風化で褐色化、硬さ「D」に軟化するが砂状部は分布しない。	95.90	96.00	割れ目が10～20mm間隔で交差し、風化で褐色化、硬さ「D」に軟質化するが砂状部は分布しない。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(mm、軟質化)
383	96.60	96.63	割れ目ぞい幅10m/m程度が淡褐色化し、幅1～2m/m砂状部をはさむ	96.60	96.63	割れ目沿い幅10mm程度が淡褐色化し、幅1～2mm砂状部を挟む。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い、挟む、mm)
384	97.36	97.36	35°割れ目に淡緑色シルト～細砂層はさむ。 その直下の97.65mまで密着度の低い割れ目が多く分布。	97.36	97.36	35°割れ目に淡緑色シルト～細砂層挟む。 その直下の97.65mまで密着度の低い割れ目が多く分布。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(挟む)
385	97.96	99.44	(変質欄)3ランク	97.96	99.44	(変質欄)2ランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・変質の程度が弱いため変質のランクを2ランクに変更した
386	97.96	98.48	CM 岩片は硬いが、割れ目ぞいの砂状化も認められる。 粘土化部や粘土脈は少ないが長石の白濁化が多い。	97.96	98.48	CM 岩片は硬いが、割れ目沿いの砂状化も認められる。 粘土化部や粘土脈は少ないが長石の白濁化が多い。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い)
387	-	-	-	98.36	98.36	50°の割れ目に幅2～5mmの灰緑色シルト～細砂挟む。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・灰緑色シルト～細砂を伴う割れ目は周囲と異なる状況であるため追記した。
388	98.48	101.31	CL 割れ目ぞいの砂状化部が多くなる。 粘土は拙んど分布しないが、長石は緩ね白濁化する。 99.44m以浅は岩片は硬質、以深は風化で軟化している。	98.48	101.32	CL 割れ目沿いの砂状化部が多くなる。 粘土は拙んど分布しないが、長石は緩ね白濁化する。 99.44m以浅は岩片は硬質、以深は風化で軟質化している。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・脱記の修正(101.31⇒101.32) ・表現の適正化(沿い、軟質化)
389	99.16	99.45	長さ10cm程度の柱状コアが中石的に分布する。	-	-	-								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
390	99.44	99.90	割れ目ぞいに風化・砂状化し、岩片自身も上下位に比べ軟質化する。	99.44	99.90	割れ目沿いに風化・砂状化し、岩片自身も上下位に比べ軟質化する。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い、軟質化)
391	99.76	99.90	特に99.76m～99.90mでは40°割れ目ぞい砂状化が進み岩片も一部硬さ「D」まで低下	99.76	99.90	特に99.76～99.90mでは40°割れ目沿い砂状化が進み岩片も一部硬さ「D」まで低下								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い、99.76mの「m」の削除)
392	99.90	100.00	(変質欄)3ランク	99.90	100.00	(変質欄)2ランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・変質の程度が弱いため変質のランクを2ランクに変更した
393	100.52	101.32	割れ目ぞいの風化、砂状化が進む。岩片の硬さも軟化し、硬さ「C」主体で部分的に硬さ「B」が残留。長石は白濁化する。	100.52	101.32	割れ目沿いの風化、砂状化が進む。岩片の硬さも軟質化し、硬さ「C」主体で部分的に硬さ「B」が残留。長石は白濁化する。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い、軟質化)
394	100.84	100.89	割れ目ぞいに砂状化が拡大。φ5～10m/m岩片と共に「砂礫状」量する。	100.84	100.89	割れ目沿いに砂状化が拡大。φ5～10mm岩片と共に「砂礫状」量する。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い、mm)
395	101.23	101.32	割れ目ぞいに砂状化が拡大。φ5～10m/m岩片と共に「砂礫状」量する。	101.23	101.32	割れ目沿いに砂状化が拡大。φ5～10mm岩片と共に「砂礫状」量する。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い、mm)
396	101.32	102.05	CM ほゞ未風化で、挟雑物も分布しない。 一部に密着度の低い割れ目も分布している。	101.32	102.05	CM ほぼ未風化で、挟在物も分布しない。 一部に密着度の低い割れ目も分布している。								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(ほぼ) ・脱記の修正(挟雑物⇒挟在物)
397	102.05	104.65	CL 103.70m以浅では硬さ「B」主体で硬さ「C」「D」も分布。103.70m以深では硬さ「D」と軟化が進んでいる。	102.05	104.65	CL 103.70m以浅では硬さ「B」主体で硬さ「C」「D」も分布。103.70m以深では硬さ「D」と軟質化が進んでいる。								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(軟質化)
398	102.05	102.41	約10m/m間隔で細かく密着度の低い砂層割れ目が多い。	102.05	102.41	約10mm間隔で細かく密着度の低い潜在割れ目が多い。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(mm) ・砂層割れ目は認められず、潜在割れ目が認められたため適正化した。
399	102.41	102.94	硬さ「B」岩片主体。割れ目ぞいに1～3m/m程度と薄く砂状化する。粘土化部は分布しない。	102.41	102.94	硬さ「B」岩片主体。割れ目沿いに幅1～3mm程度と薄く砂状化する。粘土化部は分布しない。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い、mm) ・脱記の修正(「幅」の記載漏れ)
400	102.94	103.17	20～30°割れ目ぞいに風化・砂状化が広がっている。岩片自身も硬さ「D」と軟化する。	102.94	103.17	20～30°割れ目沿いに風化・砂状化が広がっている。岩片自身も硬さ「D」と軟質化する。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い、軟質化)
401	103.17	103.70	割れ目ぞいの砂状化や挟在物の分布は認められないが、一部で密着度の低い「砂層割れ目」が多い。	103.17	103.70	割れ目沿いの砂状化や挟在物の分布は認められないが、一部で密着度の低い「潜在割れ目」が多い。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い) ・砂層割れ目は認められず、潜在割れ目が認められたため適正化した	
402	103.70	104.65	風化が進み岩片も含め全体が軟化している。 殆どに幅1～2m/m軟質な白色粘土を斜状に含んでいる。	103.70	104.65	風化が進み岩片も含め全体が軟質化している。 殆どに幅1～2mm軟質な白色粘土を斜状に含んでいる。								-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(軟質化、所々、mm)
403	104.65	107.15	CM 104.14～104.19m間を除き、硬質で挟在物は拙んど分布しない。	104.65	107.15	CM 105.14～105.19m間を除き、硬質で挟在物は拙んど分布しない。								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・脱記の修正(104.14～104.19⇒105.14～105.19)
404	104.14	104.19	上下端とも40°割れ目に囲まれて締った砂状～φ2～3m/m細片化する。 下端面に白色粘土のフィルムが付着。区間内全体にφ0.5m/m以下と微細な黄鉄鉱が点在する。	105.14	105.19	上下端とも40°割れ目に囲まれて硬質な砂状～φ2～3mm細片化する。 下端面に白色粘土のフィルムが付着。区間内全体にφ0.5mm以下と微細な黄鉄鉱が点在する。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(締った⇒硬質な、mm) ・脱記の修正(104.14～104.19⇒105.14～105.19)
405	105.70	105.83	割れ目が交差し、φ20～30m/mに岩片化する。各割れ目面にはあや粘土は付着していないほゞ未風化な面である。	105.70	105.83	割れ目が交差し、φ20～30mmに岩片化する。各割れ目面には砂や粘土は付着していないほぼ未風化な面である。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(ほぼ、mm)
406	106.21	106.81	砂層割れ目が多いが密着度は高くハンマーの強打でも分離・細片化しない。密着度の低いものは既に開口割れ目化している。	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
407	107.68	107.73	割れ目が交差し、φ10～20m/mに岩片化する。各割れ目面には砂や粘土は付着していないほゞ未風化な面である。	106.68	106.73	割れ目が交差し、φ10～20mmに岩片化する。各割れ目面には砂や粘土は付着していないほぼ未風化な面である。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・脱記の修正(107.68⇒106.68、107.73⇒106.73、岩状化⇒岩片化) ・表現の適正化(ほぼ、mm)
408	107.15	107.62	CL 割れ目ぞいにφ3～5m/m程細片化する部分もあるが、砂状～粘土状挟在物は分布せず、ほゞ未風化な面である。 面の一部は淡緑色化する。これは緑泥石化変質で粘土化は伴なわない。	107.15	107.62	CL 割れ目沿いにφ3～5mmと細片化する部分もあるが、砂状～粘土状挟在物は分布せず、ほぼ未風化な面である。 面の一部は淡緑色化する。これは緑泥石化変質で粘土化は伴わない。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い、ほぼ、伴う、mm)
409	107.60	115.99	CM 岩片は硬いが、割れ目が多い。 110.10m～114.08m間は幅10～30m/m間隔程度の密着度の低い「砂層割れ目」も含んでいる。 ほゞ未風化で、割れ目挟在物も拙んど分布しない。	107.62	115.99	CM 岩片は硬いが、割れ目が多い。 110.10m～114.08m間は幅10～30mm程度の間隔の密着度の低い「潜在割れ目」も含んでいる。 ほぼ未風化で、割れ目挟在物も拙んど分布しない。 108.00～110.10m間は、30～50°の割れ目主体、一部は変質して岩片状を呈する。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・脱記の修正(107.60⇒107.62、幅を削除) ・緑在化した30～50°の割れ目が発達することは周囲と異なる状況であるため追記した ・表現の適正化(ほぼ、mm、間隔程度⇒程度の間隔) ・砂層割れ目は認められず、潜在割れ目が認められたため適正化した	
410	108.57	108.60	40°割れ目ぞいに幅1m/m程度砂状化する。上端面には緑緑色砂がフィルム状に付着、微細な黄鉄鉱を伴なっている。	108.57	108.60	40°割れ目沿いに幅1mm程度砂状化する。上端面には緑緑色砂がフィルム状に付着、微細な黄鉄鉱を伴っている。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い、伴う、mm)
411	110.40	110.51	白色化した「砂層割れ目」ぞいに分離し、開口割れ目化している。	110.40	110.51	白色化した「砂層割れ目」沿いに分離し、開口割れ目化している。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い)

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H27-B-2）

孔名 H27-B-2

○ 記載有り　なし 該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード															
	記事			記事（変更箇所を朱書きで表示）（変更していないものは「-」で表示）													破砕等										
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴・粒度構成、地の種類及び粒径、含有物（有機質、貝殻など）を網羅的に記載。・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて 硬軟、海決度、含水状態などを記載。	堆積構造・層理、葉理、級化など	掘進作業における特記事項・コア欠如、コア破損など	地質名・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は、岩品の種類・性、岩品の含有率などを記載	色調・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	熱現場の跡れ目・同系統の跡れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。・系統毎の代表的な跡れ目の見かけの傾斜や挟在物の種類を網羅的に記載。・周囲と異なる状況や特徴的な跡れ目があれば、跡れ目の間隔、開口幅、跡れ目面の色調、跡れ目面のすべり（スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物脈・石英脈、漆石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など・膨種類・岩種	破砕度区分・記号（Hc,Hb,Hj）・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面・見かけの傾斜・性状	破砕幅（実測できる場合）	破砕部・色調・破砕部内物質・硬軟・細粒部の連続性・連続性・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造・頻状構造、複合岩構造、末構構造、明目状粘土など	最新活動面（設定した場合）	空隙の状況	掘進作業における特記事項・コア欠如、コア破損など	記事を削除・変更・追記した理由
412	111.37	111.37	75～80°跡れ目ぞいの一部で幅1～2m/m砂状化。これに交差する30°跡れ目は切られている。	111.37	111.37	75～80°跡れ目沿いの一部で幅1～2mm砂状化。これに交差する30°跡れ目はよめられている。切られている。砂状化部の分布は連切れており連続性に乏しい。高角度跡れ目周辺の岩盤に原岩組織が見られる。						-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・75～80°の跡れ目を横断する低角度の跡れ目が見られるため「切られている」を「止められている」に変更した・跡れ目及び周辺の状況について追記した・表現の適正化（沿い、mm）
413	112.41	112.44	5°前後の跡れ目ぞいに片状化、岩片は軟化しない	112.41	112.44	5°前後の跡れ目沿いに片状化、岩片は軟質化しない						-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（沿い、軟質化）
414	-	-	-	113.56	113.60	アプライト脈を挟む、傾斜25°、幅4cm。花崗岩岩との境界は明瞭でゆ着している。						-		なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・アプライト脈は周囲と異なる状況であるため追記した
415	113.63	113.81	白色の「中着跡れ目」が5～10m/m間隔で細かく分布、密着度の低いものも含まれる。	113.63	113.81	白色の「潜在跡れ目」が5～10mm間隔で細かく分布、密着度の低いものも含まれる。						-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（mm）・中着跡れ目は認められず、潜在跡れ目が認められたため適正化した
416	114.37	115.70	緑色系色調に変化する。	-	-	-						-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
417	114.65	114.65	80～85°跡れ目の一部に跡肌と厚0.5m/m以下の緑緑色粘土がフィルム状に付着	114.65	114.65	80～85°跡れ目の一部に跡肌と厚0.5mm以下の緑緑色粘土がフィルム状に付着。跡れ目は満面して凹凸しているが、跡れ目のかみ合わせは良い。跡れ目周辺の岩盤に原岩組織が見られ、系統的な跡れ目も存在しない。							-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・80～85°跡れ目は凹凸しているが、その噛み合わせにズレが見られないためその旨を追記した。・跡れ目及び周辺の状況について追記した・表現の適正化（mm）
418	115.33	115.70	緑緑色鉱物（緑泥石）が0.1～2m/m斑点状～幅1m/m脈状で分布する。特に前書で分布が多い。	115.33	115.70	緑緑色鉱物（緑泥石）が0.1～2mm斑点状～幅1mm脈状で分布する。特に前書で分布が多い。						-		なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（mm）
419	115.70	-	115.70m以深で橙色の正長石が多く晶出、全体の色調が橙色に変化。	115.70	116.40	ペグマタイト。位1～10cm程度の橙色の力リ長石状自色の長石、石英が多く晶出し、全体の色調が橙色に変化。						-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・ペグマタイトの下端深度を追記した・含まれる鉱物について追記した・脈記の修正（115.70⇒116.40）
420	115.99	116.49	CL 跡れ目が細かく分布し、0.10～30m/m主体に岩片化している。跡れ目ぞいの多くは幅1～3m/mで砂状～細密片状化する。	115.99	116.49	CL 跡れ目が細かく分布し、0.10～30mm主体に岩片化している。跡れ目沿いの多くは幅1～3mmで砂状～細密片状化する。						-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（mm、沿い、細密片状化⇒細片状化）
421	116.18	116.37	116.18～116.37mでは石英の晶出が多く、全体が褐黄となる。	-	-	-						-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
422	116.49	119.47	CM 挟雑物のない跡れ目が多いが、一部で幅1～2m/mで砂状化部や粘土部をはさむ跡れ目も分布する。また、跡れ目交差部の一部では0.5～10m/m程度に細片状化する部分もある。	116.49	119.47	CM 挟在物のない跡れ目が多いが、一部で幅1～2mmで砂状化部や粘土部を挟む跡れ目も分布する。また、跡れ目交差部の一部では0.5～10mm程度に細片状化する部分もある。						-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（mm、挟む）・脈記の修正（挟雑物⇒挟在物）
423	117.21	117.21	70°跡れ目に幅2m/mで硬質な緑緑色鉱物脈（緑泥石）が断続的に分布する。その上盤側約10m/mは弱く風化し淡褐色化するが劣化は伴なわない。	117.21	117.21	70°跡れ目に幅2mmで硬質な緑緑色鉱物脈（緑泥石）が断続的に分布する。その上盤側約10mmは弱く風化し淡褐色化するが劣化は伴わない。						-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（mm、伴う）・上端側が必ずしも脈とは限らないため上端に変更した
424	118.12	119.10	30°前後と70～80°跡れ目が交差し、その一部では0.5～10m/m程度で片状化している。砂状化や粘土化は伴なわない。	118.12	119.10	30°前後と70～80°跡れ目が交差し、その一部では0.5～10mm程度で片状化している。砂状化や粘土化は伴わない。						-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（mm、伴う）
425	118.23	118.53	20～30°の「中着跡れ目」が10～20m/m間隔で同方向に分布。一部では密着度が低く既に開口跡れ目化している。	118.23	118.53	20～30°の「中着跡れ目」が10～20mm間隔で同方向に分布。一部では密着度が低く既に開口跡れ目化している。						-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（mm）
426	119.09	120.79	（地質名欄）Gp	119.09	120.79	（地質名欄）Ap						-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・アプライトは周囲と異なる状況であるため追記した
427	-	-	-	119.09	120.79	アプライト花崗岩との境界は海移的である。						-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・アプライトは周囲と異なる状況であるため追記した
428	119.47	119.47	40°跡れ目に幅1m/m緑色粘土脈（緑泥石）はさむ、0.5m/m以下の微細な黄鉄鉱伴う。	119.47	119.47	40°跡れ目に幅1mm緑緑色粘土脈（緑泥石）挟む、0.5mm以下の微細な黄鉄鉱伴う。						-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（mm、挟む）
429	119.47	120.00	（変質欄）3ランク	119.47	120.00	（変質欄）2ランク						-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲と同様の変質の程度であるため変質のランクを2ランクに変更した
430	119.47	120.00	CL 30～40°跡れ目がほぼ同方向に1～3cm間隔で分布する。跡れ目ぞいに薄く砂状化するものが多い。	119.47	120.00	CL 30～40°跡れ目がほぼ同方向に1～3cm間隔で分布する。跡れ目沿いに薄く砂状化するものが多い。						-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（沿い）
431	119.75	119.88	幅1m/m以下の緑灰～灰白色粘土を断状にはさむことが多い。	119.75	119.88	幅1mm以下の緑灰～灰白色粘土を断状に挟むことが多い。						-		なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（mm、挟む）
432	-	-	緊硬 30～50°跡れ目がほゞ同方向に分布する。白い筋状の中着跡れ目が多いが周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。一部で既に開口化している。跡れ目狭在物は分布しない。	120.00	120.63	緊硬 30～50°跡れ目がほぼ同方向に分布する。白い筋状の中着跡れ目が多いが周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。一部で既に開口化している。跡れ目狭在物は分布しない。						-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアに合わせて区間深度を追記した・表現の適正化（ほぼ）
433	120.63	120.65	破砕帯（主せん断面120.65m）	120.63	120.65	破砕部（最新活動面120.65m）						-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・用語の統一（破砕帯→破砕部）・最新活動面という用語に統一
434	120.63	120.65	Hb 上端は12～32°で浅曲して、下端32°で直線的に連続。0.2～2m/m石英粒、0.3～10m/m岩片計20%程度含むやや軟質な「粘土質破砕」を呈する。色調はオリーブ灰（2.5GY 6/1）、厚さ15～25m/m	120.63	120.65	Hb 上端は12～32°で浅曲して、下端32°で直線的に連続。0.2～2mm石英粒、0.3～10mm岩片計20%程度含むやや軟質な「粘土質破砕」を呈する。色調はオリーブ灰色（2.5GY 6/1）、厚さ15～25mm。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。						-		-	-	○	○	○	○	-	-	○	-	-	-	・被砕部を含める破砕部内物質の名称を変更した・硬が多く、それほど軟質ではないため破砕度を変更した・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した・表現の適正化（mm）・脈記の修正（「色」の記載漏れ）
435	120.65	120.65	Hc-1 32°で上下端とも直線的に連続、石英粒、岩片を殆んど含まない軟質粘土（ガウジ）、色調はオリーブ灰（2.5GY 5/1）、厚さ1～3m/m	120.65	120.65	Hc-1 32°で上下端とも直線的に連続、石英粒、岩片を殆んど含まない軟質粘土（ガウジ）、色調はオリーブ灰色（2.5GY 5/1）、厚さ1～3mm。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。						-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の統一（ガウジ→Hc-1に含んで表現）・表現の適正化（軟質→軟質、mm）・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。・脈記の修正（「色」の記載漏れ）
436	120.63	120.65	（岩級区分欄）D	120.63	120.65	（岩級区分欄）CM						-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
437	120.65	121.03	CM 緊硬、やゝ跡れ目が多いが挟在物は分布しない。上端側は緑泥石化により緑灰色を呈する。死化はない。白い筋状の中着跡れ目は周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。	120.65	121.03	CM 緊硬、やや跡れ目が多いが挟在物は分布しない。上端側は緑泥石化により緑灰色を呈する。死化はない。白い筋状の中着跡れ目は周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。						-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（やや）
438	121.03	122.23	CH 緊硬、跡れ目少なく、柱状～長柱状（コア長20cm以上）コアからなる。0.1～3m/m緑緑灰色の緑泥石斑点が多く、色調は緑灰色を帯びる。	121.03	122.23	CH 緊硬、跡れ目少なく、柱状～長柱状（コア長20cm以上）コアからなる。0.1～5mm緑緑灰色の緑泥石斑点が多く、色調は緑灰色を帯びる。						-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（mm）
439	122.23	122.42	変質欄:3ランク（岩級区分欄）CL	122.23	122.42	変質欄:2ランク（岩級区分欄）CM						-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲と同様の変質の程度であるため変質のランクを2ランクに変更した・区間長が50cm未満のため、CM級に含めた

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名:H27-B-2

○:記載有り　なし:該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と照合するため記載していないもの　－:該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード														記事を削除・変更・追記した理由
			記事			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)											破砕等									
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、礫の種類及び形態、含有物 ・有機質、異臭などを網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、湿状度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	鉛直作業における特記事項 ・コア欠如、コア破損など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は、現品の種類・程、現品の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の割れ目 ・開系統の割れ目の特徴を持つ区間を示すこと記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や鉱物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべりスリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物崩 ・石英崩、凍石崩、方解石崩等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・挿換岩 ・岩種	破砕度区分 ・記号(Hc,Hb,Hi) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の根拠面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅(実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・破砕構造、複合面構造、柔等構造、明目状粘土など	最新活動面(認定した場合)	空隙の状況	鉛直作業における特記事項 ・コア欠如、コア破損など	
440	122.23	122.42	CL 上位よりやや風化が進み、岩芯や割れ目の一部が褐色化する。 白い筋状の中着割れ目もハンマー打撃で分離・細片化し易いものが多い。	122.23	122.42	CL 上位よりやや風化が進み、岩芯や割れ目の一部が褐色化する。 白い筋状の中着割れ目もハンマー打撃で分離・細片化し易いものが多い。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(やや) ・脚記の修正(「が」の記載漏れ)
441	122.42	122.97	CM 堅硬であるが、一部でハンマー打撃で分離し易いゆ着割れ目も含む。 割れ目は薄く褐色化するが挟在物は分布しない。 φ5～10mm橙色のカリ長石斑晶が点在し、白濁化した長石は殆んど分布しない。	122.42	122.97	CM 堅硬であるが、一部でハンマー打撃で分離し易いゆ着割れ目も含む。 割れ目は薄く褐色化するが挟在物は分布しない。 φ5～10mm橙色のカリ長石斑晶が点在し、白濁化した長石は殆んど分布しない。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(mm)
442	－	－	－	122.30	122.89	高角度割れ目が連続する。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・高角度割れ目は周囲と異なる状況であるため追記した。
443	122.97	133.41	CL 堅硬、風化や変質による劣化はないが、割れ目が多く、60～70°割れ目が同方向に1～5cm間隔で分布する。 割れ目挟在物は殆んど分布しない。	122.97	123.41	CL 堅硬、風化や変質による劣化はないが、割れ目が多く、60～70°割れ目が同方向に1～5cm間隔で分布する。 割れ目挟在物は殆んど分布しない。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・脚記修正(133.41⇒123.41)
444	122.97	123.41	(岩級区分欄)CL	122.97	123.41	(岩級区分欄)CM								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
445	133.41	125.38	CM 一部で密着度の低い割れ目や(中着割れ目が分布し、ハンマーの当打で分離・細片化する(分離・細片化しないものもある)。 ほぼ風化・未変質で長石の白濁化は肉眼では認められない。 全体にφ1～2mm緑緑灰色の緑泥石を斑点状に含み緑灰色を帯びる。	123.41	125.38	CM 一部で密着度の低い割れ目や(潜在割れ目が分布し、ハンマーの当打で分離・細片化する(分離・細片化しないものもある)。 注)ほぼ風化・未変質で長石の白濁化は肉眼では認められない。 全体にφ1～2mm緑緑灰色の緑泥石を斑点状に含み緑灰色を帯びる。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・脚記修正(133.41⇒123.41) ・表現の適正化(注)(注)、mm) ・中着割れ目は認められず、潜在割れ目が認められたため適正化した
446	124.30	124.30	124.30m付近でコアが片状化するが、これはコアチューブ引上げ時に人為的に発生した亀裂である。	－	－	－								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	
447	124.90	129.59	(地質名欄)Gp	124.90	129.59	(地質名欄)Ap								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・アプライトは周囲と異なる状況であるため追記した
448	－	－	－	124.90	129.59	アプライト 花崗閃岩との境界は漸移的である。								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・アプライトは周囲と異なる状況であるため追記した
449	125.00	125.38	白い筋状の中着割れ目が多いが、周囲と同化しハンマーの当打でも分離しない。	－	－	－								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
450	125.38	125.70	(岩級区分欄)CL	125.38	125.70	(岩級区分欄)CM								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
451	125.38	125.70	CL 密着度がきわめて低い割れ目や、ゆ着割れ目が10m/m程度の間隔で分布。 ハンマーの軽打で分離・細片化する。すでに開口化するものも多い。 〃	125.38	125.70	CL 密着度がきわめて低い割れ目や、ゆ着割れ目が10mm程度の間隔で分布。 ハンマーの軽打で分離・細片化する。すでに開口化するものも多い。 〃								-	○ 〃	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(mm)
452	125.38	125.38	50°割れ目ぜい帯10m/mはφ3～5m/mの硬質細片状化部。粘土、砂は伴なわない。	125.38	125.38	50°割れ目沿い幅10mmはφ3～5mmの硬質細片状化部。粘土、砂は伴わない。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い、mm、伴う)
453	125.70	126.25	CM 一部で密着度が低い割れ目や、ゆ着割れ目を含む。 割れ目挟在物は分布しない。	－	－	－								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
454	126.25	127.00	(変質欄)3ランク	126.25	127.00	(変質欄)2ランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲と同様の変質の程度であるため変質のランクを3ランクに変更した
455	126.25	127.41	CL 一部で50～60°割れ目ぜいにφ5m/m程度に細片化～砂状化する。また厚さ1～2m/mの緑灰、灰白色軟質粘土もはさんでいる。 硬ガラ)岩片主体部は灰褐色(7.5YR 6/2)で残留し、細片化～砂状化部はにぶい橙(7.5YR 6/4)の色調で、全体では後者色調が主体。 127.00m以深は挟在物は分布しなくなる。	126.25	127.41	CL 一部で50～60°割れ目沿いにφ5mm程度に細片化～砂状化する。また厚さ1～2mmの緑灰、灰白色軟質粘土も挟んでいる。 硬ガラ)岩片主体部は灰褐色(7.5YR 6/2)で残留し、細片化～砂状化部はにぶい橙色(7.5YR 6/4)の色調で、全体では後者色調が主体。 127.00m以深は挟在物は分布しなくなる。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い、mm、挟む) ・脚記の修正(「色」の記載漏れ、軟調の記載漏れ)
456	127.41	127.48	破砕等(主せん断面127.41m)	127.41	127.48	破砕部(最新活動面127.41m)								-	-	-					-	-	-	-	-	・用語の統一(破砕等→破砕部) ・最新活動面という用語に統一
457	127.41	127.41	Hc-1 50°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を含まない軟質粘土(ガウジ)。 色調は灰白色(10YR 8/1)、厚さ0.5～1m/m	127.41	127.41	Hc-1 50°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を含まない軟質粘土がガウジ。 色調は灰白色(10YR 8/1)、厚さ0.5～1mm。含まれる細粒部は鉱物的に分布し、連続性に乏しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。								-	-	-					-	-	-	-	-	・表現の適正化(ガウジ→Hc-1に含んで表現) ・表現の適正化(軟質→軟質、mm) ・脚記の修正(「色」の記載漏れ)
458	127.41	127.48	Hi 上端50°で直線的、下端は50～66°で湾曲して連続。φ3～5m/mに細片化した岩片からなり、岩片間には幅1～2m/mの軟質粘土が挟状に分布。岩片は硬ガ)主体で硬ガ)E)も少量含む。127.47mに主せん断面と同方向のせぃにいマンガン鉱染を伴う。 色調はにぶい黄橙(10YR 7/4)、厚さ40～45m/m	127.41	127.48	Hi 上端50°で直線的、下端は50～66°で湾曲して連続。φ3～5mmに細片化した岩片からなり、岩片間には幅1～2mmの軟質粘土が挟状に分布。岩片は硬ガ)主体で硬ガ)E)も少量含む。全体に粘土質ヒリ膠状を呈する。127.47mに上位のHc-1の粘土と同方向のせん断面沿いにマンガン鉱染を伴う。 色調はにぶい黄橙色(10YR 7/4、厚さ40～45mm。硬質、含まれる細粒部は鉱物的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。								-	-	-	○	○	○	○					-	・破砕部内物質、硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 ・主せん断面は詳細結果であるため記載しないこととし、上位のHc-1の粘土に変更した。 ・表現の適正化(沿い、mm、軟質→軟質、φ→せん断面) ・脚記の修正(「色」の記載漏れ)
459	127.41	127.48	(岩級区分欄)C	127.41	127.48	(岩級区分欄)CL								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
460	127.48	128.82	CL 40～60°割れ目主体で一部で厚さ1m/m以下の風化鉄状部をはさむ。 粘土ははさまない。	127.48	128.82	CL 40～60°割れ目主体で一部で厚さ1mm以下の風化鉄状部を挟む。 粘土は挟まない。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(mm、挟む)
461	127.82	127.83	上端60°、下端61°割れ目に固まれ、φ2～3m/m破砕状細片を含む固結した中粒～粗粒砂状を呈する。粘土は伴なわない。	127.82	127.83	上端60°、下端61°割れ目に固まれ、φ2～3mm破砕状細片を含む(硬質)な中粒～粗粒砂状を呈する。砂状部中の細片に定向配列は見られない。粘土は伴わない。割れ目面間の岩盤に原岩組織が見られる。下位の別方向の割れ目にもマンガン汚染した面が見られる。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・適記した理由から破砕部ではないと判断して「破砕状」を削除した ・表現の適正化(mm、伴う) ・表現の統一(固結→硬質) ・割れ目及び周辺の状況について追記した
462	128.82	128.97	(岩級区分欄)D	128.82	128.97	(岩級区分欄)CL								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた